

バングラデシュ人民共和国
内務省
バングラデシュ警察

バングラデシュ人民共和国
警備能力向上プロジェクト
プロジェクト業務完了報告書

2023 年 6 月

独立行政法人
国際協力機構（JICA）

アイ・シー・ネット株式会社
総合警備保障株式会社

略語表

略語	英語	日本語
Addl. DIG	Additional Deputy Inspector General	副警視監
Addl. IGP	Additional Inspector General of Police	警視総監
AIG	Additional Inspector General	警視総監補
ALSOK	Sohgo Security Services Company Ltd.	総合警備保障株式会社
ASI	Assistant Sub Inspector	副警部補
ASP	Assistant Superintendent	警視補
BDP	Bangladesh Police	バングラデシュ警察
BDT	Bangladesh Taka	バングラデシュタカ（通貨）
BPA	Bangladesh Police Academy	バングラデシュ警察アカデミー
C/P	Counterpart	カウンターパート
CAD	Computer Aided Design	コンピュータ支援設計
CC	Command Certificate	命令書
CPTED	Crime Prevention through Environmental Design	防犯環境設計論
COVID-19	Coronavirus Disease	新型コロナウイルス感染症
CSS	Child Safety School	子ども安全教室
DAC	Development Assistance Committee	開発援助委員会
DIG	Deputy Inspector General	警視監
DMP	Dhaka Metropolitan Police	ダッカ首都圏警察
DTS	Detective Training School	捜査訓練センター
HQ	Headquarter	本部
IC Net	IC Net Limited	アイ・シー・ネット株式会社
ICT	Information and Communications Technology	情報通信技術
IGP	Inspector General of Police	警察長官
JCC	Joint Coordination Committee	合同調整委員会
JCPA	Joint Crime Prevention Activities	官民合同犯罪防止活動
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
JV	Joint Venture	共同企業体
KPI	Key Point Installation	重要施設
LDC	Least Developing Country	後発開発途上国
M/M	Meeting Memo	会議議事録
M/S	Monitoring Sheet	モニタリング・シート
ODA	Official Development Assistance	政府開発援助
PD	Project Director	プロジェクトダイレクター
PDCA	Plan Do Check Action	計画・実施・モニタリング・アクション
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PFM	Public Financial Management	公的財政管理
PHQ	Police Headquarters	バングラデシュ警察本部
PIC	Project Implementation Committee	プロジェクト実施委員会
PL	Police Line	警察署
PPT	Power Point	パワーポイント
PO	Plan of Operation	作業計画表
PSC	Police Staff College	警察幹部学校
PTC	Police Training Center	警察研修センター
R/D	Record of Discussion	基本合意文書
SDGs	Sustainable Development Goals	持続的な開発目標
SI	Sub Inspector of Police	警部補
SOP	Standard Operation Procedures	標準作業手順
SP	Superintendent of Police	警視正

略語	英語	日本語
SP&M	Security Patrolling and Monitoring	警備
TAPP	Technical Assistance Project Proposal	技術支援事業提案書
T/F	Task Force	タスクフォース
TOT	Training of Trainers	指導者養成トレーニング
T/T	Task Team	タスクチーム
VIP	Very Important Person	重要人物
VVIP	Very Very Important Person	最重要人物
WPS	Women's Police Strategy	女性警察戦略

記録写真



TOT ワークショップ



SP&M 研修の様子（ダッカ）



SP&M 研修の様子（シレット）



SP&M 研修で使ったジオラマ



警護対象者の安全な進入ルート検討



高い水準のロジ支援が各会場から提供された



子どもたちに CSS 活動を説明する



ワークショップに参加する子どもたち



積極的に発言する子どもたち



子どもたちの質問に答えるトレーナー



官民合同犯罪防止活動の開会式



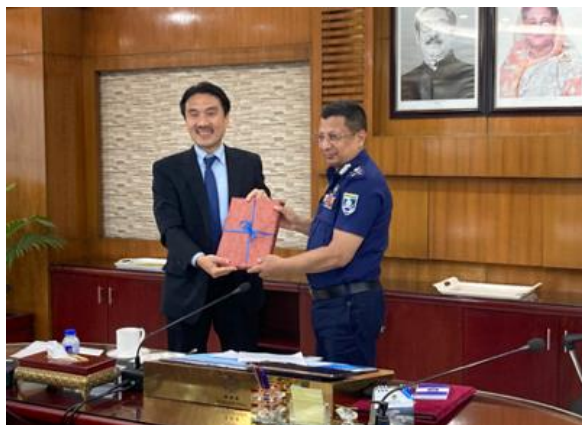
官民合同犯罪防止活動の参加者



地域住民へ説明するボランティア



地域住民へ働きかけるボランティア



JICA 事務所長から IGP への技術成果品献呈



普及セミナーに参加した警察関係者

日本およびバングラデシュ警察の階級と職務(対比表)

#	Ranks at Police HQ	Abbreviation	Ranks at Metropolitan Police	#	Ranks	Ranks at Japanese Police
1	Inspector General of Police	IGP		1	長官	Commissioner General
2	Additional Inspector General of Police G-1	Addl.IGP / PC	Commissioner of DMP	2	警視総監	Superintendent General
3	Additional Inspector General of Police G-2	Addl.IGP / PC	Commissioner of Police	3	警視監	Senior Commissioner
4	Deputy Inspector General of Police	DIG / PC / Addl.PC	Commissioner of Police (In all metropolitan police except DMP) or Additional Police commissioner (In DMP)	4	警視長	Commissioner
5	Additional Deputy Inspector General of Police	Addl.DIG / Addl.PC / Joint PC	Additional Police Commissioner (In all metropolitan police except DMP) or Joint Commissioner of Police (Only in DMP)	5	警視正	Assistant Commissioner
6	Superintendent of Police (SP) or Assistant Inspector General (AIG) (in Police HQ) or Special Superintendent (SS) (in SB & CID) or Superintendent of Railway Police (SRP) (in Railway Police)	SP / AIG / SS / SRP / DC	Deputy Commissioner of Police	6	警視	Superintendent
7	Additional Superintendent of Police	Addl. SP /ADC	Additional Deputy Commissioner of Police	7	警部	Chief Inspector
8	Senior Assistant Superintendent of Police	Sr. ASP / Sr.AC	Senior Assistant Commissioner of Police			
9	Assistant Superintendent of Police	ASP/AC	Assistant Commissioner of police			
10	Inspector of Police			8	警部補	Inspector
11	Sub-Inspector (SI)					
12	Sergeant			9	巡査部長	sergeant
13	Assistant Sub-Inspector (ASI) / Assistant Town Sub-Inspector (ATSI)			10	(巡査長)	Senior Police Officer
14	Nayek			11	巡査	Police officer
15	Constable					

目次

略語表	i
記録写真	iii
日本およびバングラデシュ警察の階級と職務（対比表）	v
目次	vi
目次（図）	viii
目次（表）	ix
プロジェクト位置図（バングラデシュ全土）	x
プロジェクト位置図（ダッカ市内）	xi
第1章 プロジェクトの背景と目的.....	1
1-1 対象国	1
1-2 プロジェクト名	1
1-3 プロジェクト実施期間.....	1
1-4 背景	1
1-5 上位目標・プロジェクト目標.....	3
1-6 実施体制	3
第2章 業務の実績と成果.....	5
2-1 投入の実績	5
2-2 各成果達成に共通する活動（TAPP 協議とその影響）	7
2-3 PDM の変更協議・変更履歴	10
2-4 各活動の実施状況.....	14
2-5 各活動の概況	18
2-6 成果の達成状況	36
2-7 プロジェクト目標の達成状況.....	39
第3章 本邦研修	40
3-1 背景	40
3-2 プログラム概要	41
3-3 視察と講義	43
3-4 教訓および知見の活用.....	45
第4章 プロジェクトの評価.....	47
4-1 評価6項目による評価結果.....	47
4-2 活動実施と成果達成に影響を及ぼした要因.....	62
4-3 プロジェクトのリスク管理.....	65
第5章 プロジェクト実施運営上の課題等.....	67
5-1 プロジェクト実施および運営上の課題・工夫.....	67
5-2 教訓	74

第6章	上位目標達成に向けた提言	75
6-1	上位目標達成の見通し	75
6-2	上位目標達成に向けた実施計画および実施体制	75
6-3	提言	79
添付資料		84

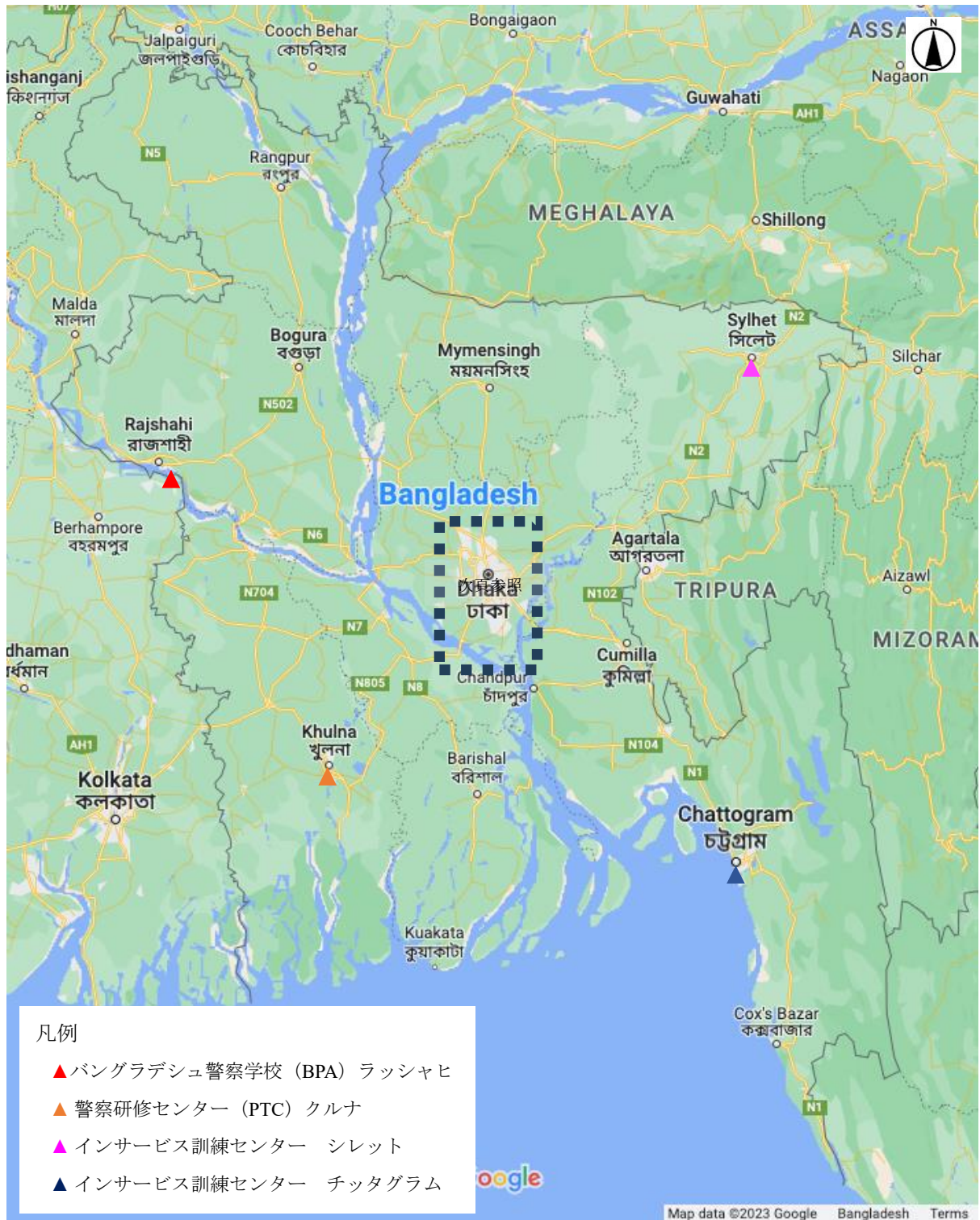
目次(図)

図 1	現状把握のための会議およびワークショップ	18
図 2	警備計画策定研修の課題 (例)	23
図 3	研修後の質問票調査の結果 (抜粋)	23
図 4	研修後の質問票調査の結果 (学習した内容を応用することへの自信)	24
図 5	研修受講者のバングラデシュ警察での階級	25
図 6	官民合同犯罪防止活動の実施状況	27
図 7	CSS 実施を検討した小学校の位置図	29
図 8	CSS 活動の準備	29
図 9	CSS の活動風景	31
図 10	普及セミナーの様子	36
図 11	ワークショップ実施風景	46
図 12	レーティング・フローチャート	62
図 13	オンライン方式による研修評価 (フォームおよび出力例)	69
図 14	プロジェクト終了後の実施体制	76
図 15	組織体制・役割	78
図 16	実施計画 (案)	79
図 17	マスタートレーナーへの質問票調査結果 (1)	80
図 18	マスタートレーナーへの質問票調査結果 (2)	81
図 19	マスタートレーナーへの質問票調査結果 (3)	82

目次(表)

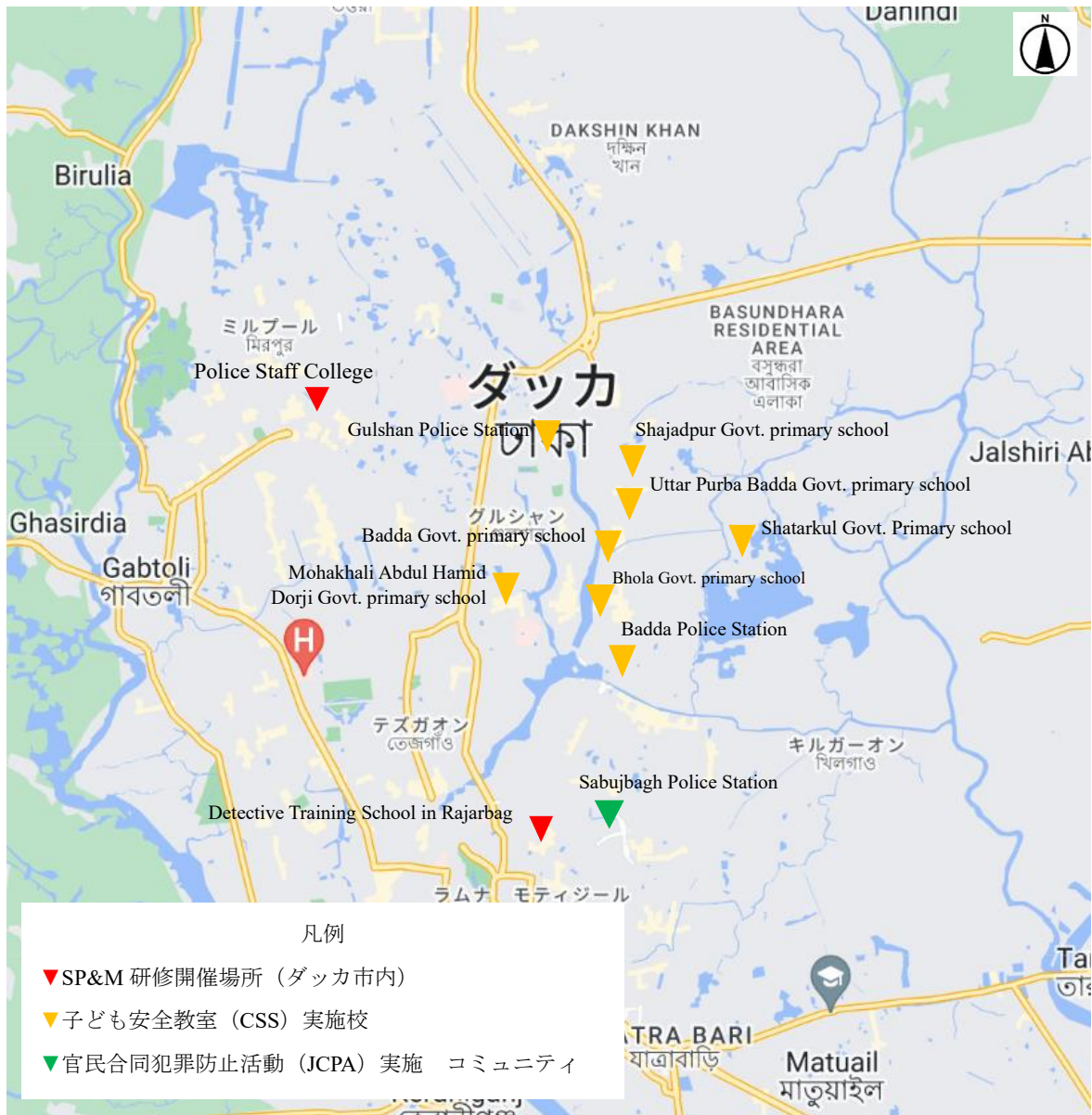
表 1	日本側専門家の稼働実績（第 1 期～第 2 期パート 2）	5
表 2	コロナ禍前後の計画（計画内容の対比）	8
表 3	協力期間、上位目標、およびプロジェクト目標の改訂	11
表 4	指標（上位目標）の改訂	12
表 5	プロジェクト目標の指標改訂	13
表 6	成果の改訂	13
表 7	成果レベルの指標改訂	14
表 8	成果 1 にかかる活動およびその達成状況	15
表 9	成果 2 にかかる活動およびその達成状況	16
表 10	成果 3 にかかる活動およびその達成状況	17
表 11	合意した SP&M 研修の概要	19
表 12	TOT および SP&M 研修の評価枠組み（カークパトリックモデル）	22
表 13	教材および教案等の改善事項	25
表 14	学校別の CSS への参加者数	30
表 15	簡易インタビューの結果	31
表 16	一人当たり研修経費（BDT）	34
表 17	普及セミナー概要	35
表 18	成果 1 の達成状況	37
表 19	成果 2 の達成状況	37
表 20	成果 3 の達成状況	38
表 21	プロジェクト目標の達成状況	39
表 22	本邦研修（実施計画）	40
表 23	研修日程	42
表 24	ワークショップの内容	45
表 25	バングラデシュ第 8 次 5 か年計画（警察関連事項の抜粋）	48
表 26	BDP の警備分野の戦略目標（2018-2020）	49
表 27	成果品等のまとめ	53
表 28	SP&M 研修受講者数および知見拡散の推定	55
表 29	研修受講者数の推定	56
表 30	評価結果のまとめ	61
表 31	上位目標の達成に向けた進捗	75

プロジェクト位置図(バングラデシュ全土)



出典 : Google Map URL: <https://www.google.com/maps/@24.1539567,91.0383657,7.43z>

プロジェクト位置図（ダッカ市内）



出典：Google Map URL: <https://www.google.com/maps/@23.8587448,90.4911867,10.46z>

第1章 プロジェクトの背景と目的

1-1 対象国

バングラデシュ国

1-2 プロジェクト名

警備能力向上プロジェクト

1-3 プロジェクト実施期間

本プロジェクトは、2段階方式の技術協力プロジェクトとして実施した。2019年3月から2020年2月を第1期、2021年2月から始まる第2期を2つのパートに分割して実施した。2021年2月から3月を第2期パート1として実施後、続く2021年4月から2023年6月12日までの期間を第2期パート2とし、計3フェーズに分割して実施した。

1-4 背景

バングラデシュ人民共和国（以下、バングラデシュ）は、過去10年以上にわたり年平均6%の高い経済成長率を維持しており、2026年には国連の後発開発途上国（LDC）から卒業する見通しである。縫製業の生産拠点として、また、人口約1億7千万人を抱える大きな市場としても注目を集めており、安定した経済成長を背景に日本企業の進出も拡大しつつある。一方で、2016年7月1日に首都ダッカ市グルシャン地区のホーリー・アーティザン・ベーカリー（Holey Artisan Bakery）で発生したダッカ襲撃テロ事件¹において、ODA関係者および警察関係者を含む多くの人命が失われるなど、イスラム過激派等による宗教的少数派や世俗主義者等を対象とした襲撃事件も発生してきた。これら一連の事件に対して、バングラデシュ政府は、イスラム過激派に対する情報分析、捜査、逮捕を進めており、現在のところ治安は安定している。

今後も中長期的に治安を維持していくためには、過激派に特化した情報分析強化や事件発生後の対応強化に加えて、①特定の施設における過激派による活動や暴力的な犯罪を未然に防止する、②これらを生み出さない環境を整備する一ことが重要であることから、バングラデシュ警察（Bangladesh Police：BDP）は、施設や地域の警備強化や一般市民と警察官との連携強化を通じた信頼関係の構築に力を入れている。第8次5カ年計画（2020年～2025年）においても、BDPが優先するべき14の活動として「研修を通じた警察官の能力向上」、パトロール・市民との

¹ ダッカ市内の外交関係施設などが集まるグルシャン地区（英語版）のホーリー・アーティザン・ベーカリー（the Holey Artisan Bakery）を武装した7人が襲撃したテロ事件。この事件では、7人のJICA関係者を含む18人の外国人、2人の警察官、2名の現地人が死亡し、犯人7人のうち6人が射殺された。

対話を通し地域社会から信頼を得ることで犯罪防止に寄与することを目的とした「犯罪防止と地域警察」が挙げられている。

しかし、日本では一般的な取り組みである施設や領域を対象とする警備や、日常のパトロール・市民対話等を重視する地域警察活動を組み合わせた、強い力の行使を伴わない広義の警備活動には強化の余地がある。上記の通り、市民との協力の重要性は認識されているが、効率的かつ効果的に行われている状況ではなく、改善の余地が大きい。具体的には、①幹部および現場警察官の知識・経験の不足、②人員の最適配分を意識した警備計画の策定がされていない、③日報等の報告・モニタリングの仕組みが構築されていない、といったことが課題となっている。

このように BDP は、我が国に対し、安全パトロールやモニタリング体制を中心とした警備能力強化を目的とする技術協力プロジェクトの実施を要請した。日本国政府はこの要請に応じ 2017 年 11 月、国際協力機構（JICA）とバングラデシュ政府（内務省、BDP、財務省経済関係局）との間でプロジェクトに関する基本合意文書（Record of Discussion: R/D）が署名された。

第 1 期では、BDP の警備体制や能力強化、設備整備状況などに関する情報収集と分析を行い、第 2 期における活動の詳細計画を策定する準備期間とした。当時の主要な調査内容は、1. BDP の現状把握、2. 警察モデルサイトの選定、3. ガイドライン・マニュアル（骨子）の作成や研修カリキュラムの教材開発に必要な各種情報の確認—の 3 点を掲げて活動した。調査手法は、資料収集とインタビューなどを組み合わせ、警察組織の様々な階級層や関連機関の関係者から情報収集し、活動計画のための分析を行った。その結果、同第 1 期では警備体制や人材育成に関する課題を踏まえ、「警備計画の改善」「警備におけるパトロールとモニタリング（巡回と監視）の改善」「市民の信頼性確保に向けた活動」の必要性を提言した。

続く第 2 期は、20 年 2 月頃から拡大した新型コロナウイルス感染症の影響による渡航制限と、BDP 側の体制変更等の影響を大きく受け、第 1 期終了から活動開始までに 1 年ほどの時間を要した。JICA バングラデシュ事務所とプロジェクト側との調整の結果、第 2 期をパート 1 とパート 2 に分割し、案件の計画づくりを経て実施へ移していく体制を構築した。

第 2 期パート 1 では、上記 3 点に沿った計画立案や、活動に求められる成果、評価のための指標を精査のうえ定義した。22 年 6 月からの第 2 期パート 2 では、準備された計画に沿って警備に関する人材育成研修を実施することとなった。なお、BDP は対テロ対策を推進しており、高い成果を上げている。22 年からは JICA の安全対策も大幅に緩和され、バングラデシュ国内の警察施設において実地研修を行うことが可能となった。この流れを経て、警備（Security Patrolling and Monitoring: SP&M）研修、官民合同犯罪防止活動（JCPA : Joint Crime Prevention Activities）、子ども安全教室（CSS: Child Safety School）、の三つの活動を再開・展開し、各活動の成果をもとに、BDP の警備能力を向上させるための活動を行った。

1-5 上位目標・プロジェクト目標

本プロジェクトの上位目標、プロジェクト目標、期待される成果は以下のとおりである。

1-5-1 上位目標

バングラデシュ警察の警備能力が向上する。

1-5-2 プロジェクト目標

バングラデシュ警察の警備体制が強化される。

1-5-3 期待される成果

成果1：警備（SP&M）に係る訓練プログラムが整備される。

成果2：コミュニティを基礎とした安全意識向上のための、効果的なモデルが示される。

成果3：警備能力向上に係る開発計画のための体制が整備される。

1-6 実施体制

本プロジェクトは、バングラデシュ政府の手続きである技術協力事業提案書（TAPP）の承認遅延により、実施体制のうち合同調整委員会（JCC）等を正式に設置することなく実施した（TAPPの概要およびその遅延に関する説明を、2-2に詳述した）。第1期には、プロジェクト運営委員会（PIC）が暫定的に設置され、詳細計画策定調査の報告やPDMの変更等を協議する際の受け皿として機能した。しかし、第2期を開始してTAPPの準備が本格化する段階になり、警察本部（PHQ）側が、プロジェクトに関する運用ルールを厳格化したため、JCCとPICの正式開催が困難になった。そのため本プロジェクトの意思決定は、日本側はJICA事務所、バングラデシュ側はPHQ次長（調達担当）の警視総監（Additional Inspector General of Police: Addl. IGP）が、プロジェクトディレクター（PD）としての立場からプロジェクト実施上の最終的な決裁を行った。

日常業務の調整や判断、承認は、警察本部人事部局室長の警視総監補（Assistant Inspector General: AIG）を窓口として業務を進めた。また、技術協力プロジェクト取決め（主としてR/D、PDM、評価、資金関連）の調整では、本部財務部局の警視長（開発プロジェクト担当課長、Addl. DIG）に相談し、その都度正式な決済ラインに乗せて指示、決定を仰いだ。

本プロジェクトは、警察本部（PHQ）からダッカ市内北部 Mirpur 地区にある警察幹部学校（Police Staff College: PSC）の執務室が提供され、ここを活動拠点とした。一方、C/P関係者はそのほとんどが南部の Agargaon 地区の PHQ に勤務しているため、日本人専門家は PHQ での会議や調整のために、日中にダッカ市内を縦断して往復することになった。

本プロジェクトはダッカ襲撃テロ事件後の安全対策が強化された時期に実施されたため、ダッカ市内の一部地域、市外・地方への外出出張に一定の制限があった。また、「警察の警備」に関する調査の性質上、公共施設や市街地への視察や見学が多かったが、治安上の懸念・必要性

から、都度 PHQ の承認と警察関係者の随行が必要であり、一定の手間と時間を要した。TAPP の承認取得が本格的な活動の必要条件となったため、活動期間のほとんどが、ダッカ市内やダッカ首都圏を中心とした調査や折衝に限られた。また、研修実施計画策定に必要な基礎情報である施設の収容キャパシティや設備を確認するため、各地の研修機関数カ所に赴く際には、JICA や警察の許可が必要だった。現地の警察官の同行が必須だったケースもあり、短期出張で対応した。

なお、2022 年 9 月からバングラデシュの安全対策が緩和され、これがプロジェクトの警備研修（成果 1）と地域での実践活動（成果 2）の本格開始時期（2022 年 11 月）と重なり、安全対策上の制限は一部が解除された。

第2章 業務の実績と成果

2-1 投入の実績

2-1-1 日本側の投入実績

(1) 専門家の配置

本プロジェクトはアイ・シー・ネット株式会社（以下、IC Net）と総合警備保障株式会社（以下、ALSOK）により構成された共同企業体（Joint Venture: JV）が実施している。日本側の専門家の配置は、第1期から第2期パート2までに合計20人を配置した。その実績を表1に示す。

表1 日本側専門家の稼働実績(第1期～第2期パート2)

No.	格付	担当業務	第1期		第2期パート1		第2期パート2		合計（人月）		
			現地	国内	現地	国内	現地	国内	現地	国内	総合計
1	2	総括/組織体制強化	3.83	1.13	0	1.50	5.03	3.32	8.86	5.95	14.81
2	3	副総括/人材開発計画	3.27	0	0	0.10	7.97	1.00	11.24	1.10	12.34
3	2	警備能力強化（全体計画）	3.73	0.50	0	1.00	9.83	0	13.56	1.50	15.06
	3	警備能力強化（安全学校(主) 警察学校(副))	0	0	0	0	3.73	0.30	3.73	0.30	4.03
4	3	警備能力強化（犯罪防止）	3.27	0.25	0	0.90	7.80	0.25	11.07	1.40	12.47
5	3	警備能力強化（警察学校(主) 安全学校(副))	0	0	0	0.75	0	0	0	0.75	0.75
	3	警備能力強化（安全学校(主) 警察学校(副))	0	0	0	0.75	0	0	0	0.75	0.75
7	3	警備能力強化（警察学校(主) 安全学校(副))	0	0	0	0	7.33	0	7.33	0	7.33
	3	警備能力強化（安全学校(主) 警察学校(副))	0	0	0	0	1.67	0.30	1.67	0.30	1.97
8	3	警備能力強化 （モデルサイト）1	1.27	0.10	0	0	0	0	1.27	0.10	1.37
9	3	警備能力強化 （モデルサイト）2	2.57	0	0	0	0	0	2.57	0	2.57
10	4	警備研修教材開発1	1.40	0.75	0	0	0	0	1.40	0.75	2.15
11	4	警備設備強化1	0.57	0	0	0	0	0	0.57	0	0.57
12	4	警備設備強化2	1.17	0	0	0	0	0	1.17	0	1.17
	4	警備研修教材開発1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	4	警備研修教材開発1	0	0	0	0	1.97	0.73	1.97	0.73	2.70
14	4	警備研修教材開発2	1.97	0	0	0	0	0	1.97	0	1.97
15	4	研修管理1/ 警備研修教材開発2	0	0	0	0	0.77	1.70	0.77	1.70	2.47
	4	警備研修教材開発3	0	0	0	0	0.83	1.17	0.83	1.17	2.00
17	4	研修管理1/ 警備研修教材開発2	0	0	0	0.70	0.93	0	0.93	0.70	1.63
	5	業務調整/研修管理	3.73	0	0	0	0	0	3.73	0	3.73
18	5	業務調整/研修管理2	0	0	0	0.70	0	0	0	0.70	0.70
19	6	業務調整/研修管理2	0	0	0	0	3.73	0.15	3.73	0.15	3.88
20	6	業務調整/研修管理2	0	0	0	0	2.93	0.97	2.93	0.97	3.90
合計			26.78	2.73	0	6.40	54.52	9.89	81.30	19.02	
				29.51		6.40		64.41		100.32	100.32

JV の役割および専門家の配置を以下のように分担した。

JV の幹事会社であるアイ・シー・ネットは、プロジェクトマネジメントと研修を担当し、総括、組織開発、人材育成、研修計画およびその監理、教材開発（映像制作を含む）、業務調整などの専門家を配置した。構成企業の ALSOK は、主として警備分野における技術コンテンツの提供を担当し、警備計画、人的警備、機械警備、施設警備、公共空間の警備など、多様な警備対象や手法や手段、警備人材育成などの専門家を配置した。また、着手後の協議で、BDP から地域警察分野への支援のため、日本の警察関係者の配置を強く要望された。そのため、日本警察の経験者 1 人を犯罪防止担当の補強要員として配置した。各専門家の担当分野は表 1 に示した。

後述のように本プロジェクトは、バングラデシュ政府の承認手続き遅延により、PHQ やダッカ首都圏警察（DMP）からの本格的な協力やインプットを得ることができず、BDP の現状を把握することに苦慮した。そのため、BDP を退職した元職員 5 人を配置して、彼らを介して情報収集した。彼らは、警備に関する対処能力強化のための研修立案では、仮説の確認・立証に大きな貢献をした。また、地域警察分野の活動においても、所轄警察署やコミュニティリーダー等との関係構築に貢献した。

(2) 機材・設備

SP&M 研修では、実践的な状況を想定した警備計画を策定した。そのため、受講者の空間理解の一助として対象施設（国際会議場を中心とする複合施設とその周辺地域）を模したジオラマ模型を合計 8 台制作した。本研修では 50 人を 1 バッチとし、各バッチにジオラマ 1 台を提供して研修に活用した。

(3) 現地業務費

本プロジェクトでは、日本側からは活動、および研修に関する諸手当を負担する事を PHQ 側と合意した。各研修プログラムや教材、ワークショップ・セミナー・各研修で使用する資材、文房具等も提供した。教材の詳細については別添の技術協力成果品リストを参照されたい。

バングラデシュ政府内での開発予算措置手続きである TAPP 案の策定過程で、JICA バングラデシュ事務所と PHQ 間で研修の日当、旅費手当、宿泊費の取り扱いについて協議した。この協議において、本プロジェクトの速やかな開始と円滑な実施に資する観点から、やむを得ない事情としてこれら経費の一部を日本側が負担することになった。

2-1-2 バングラデシュ側の投入実績

TAPP の承認が遅延したことから、バングラデシュ側の投入は以下の各項目に示すように、物品やサービス、あるいは設備や施を現物供与の形式で提供した。

(1) 機材・設備

- 警察幹部学校施設内の執務室および設備（机、椅子、エアコン設備）

(2) 現地業務費

- C/P に対する、給与、その他施設用設備経費（水道、電気、租税、付加価値税）

(3) その他

- 研修実施場所の提供（バングラデシュ警察アカデミー、警察幹部学校、捜査訓練センター、クルナ警察研修センター、シレット県警察インサービス訓練センター、チッタグラム県警察員センター）
- 運営支援のサービス等の提供（関連研修、会議・協議、活動実施）

2-2 各成果達成に共通する活動(TAPP 協議とその影響)

2-2-1 技術協力事業提案書(TAPP)の概要

バングラデシュの国家予算は、経常予算（Revenue Budget）と開発予算（Development Budget）の2つの予算サイクルにより構成されている。このため、開発援助に関しては資金流用を防ぐ観点から、公共部門全体の財政監理を強化する必要がある。また、開発プロジェクトの予算を円滑に執行するため、内貨予算の確保が重要であるため、近年各ドナーは、公的財政管理（Public Financial Management: PFM）の重要性を認識し、この分野への支援を重視している。

バングラデシュ政府財政のうち、経常予算は財務省予算局が、開発予算は計画省計画局が所掌している。同国で技術協力プロジェクトを実施する際は、セクター省庁が TAPP にプロジェクトの概要・計画を記載し、計画省計画局に提出し、同局が設置する計画委員会の承認を受ける必要がある。TAPP は、計画省計画局による審査と、関係省庁との調整を経て、査定、選定、事業の優先順位付けと承認、および予算配分が行われる。このように TAPP 承認は、技術協力プロジェクトの実施に極めて重要なプロセスの一つで、プロジェクトディレクター（Project Director: PD）をはじめとするカウンターパートの任命・配置、バングラデシュ側のプロジェクト予算の確保、関係者との会議や打合せの公式開催に必要な手続きである。

2-2-2 当初想定計画実施プロセス(2段階方式による計画策定)

本プロジェクトの当初の実施計画は、いわゆる2段階方式²を採用し、2019年3月からの1年間を第1期「詳細計画策定フェーズ」と位置付け、現況調査し活動計画を策定することとした。プロジェクトは同年10月までに詳細計画策定調査を終え、同年12月中に活動内容の枠組みや詳細な内容をプロジェクト関係者に提案し、必要な修正と変更を行い合意した。2020年4月から開始される第2期の活動内容は、(i)現場の指揮者（警部級）と警備計画立案責任者である警視級を対象に、警備（SP&M）分野の対処能力向上訓練をBPAで実施すること、(ii)警察に対する市民の信頼性向上を目指す地域警察に関する活動の紹介（主としてDMPとの協力）、(iii)プロジェク

² JICAの技術協力プロジェクトの多くは、案件の採択後に、詳細計画策定調査を実施し相手国との協議を経て実施の枠組み（実施期間、目標、成果、活動ならびに投入等の細目・仕様）をPDM等の計画書に取りまとめ、これら文書に合意した後、着手するのが通常の手順である。本プロジェクトは、この手順とは異なり、予め事業概要を定めた後、技術協力プロジェクトの受注者（本共同企業体）が、契約期間の冒頭期間中に、プロジェクトの活動として詳細計画策定調査を実施し、先方関係者と協議、合意するフェーズ（第1期）を設けた。続いて、両国政府の国内手続きを済ませた後、第2期において本格的な技術移転を行った。

トの成果を全国展開するための計画策定、の3点であった。上記の合意内容は、2020年3月に会議議事録（Meeting Memo: M/M）に取りまとめ、バングラデシュ国、日本国政府がそれぞれ国内手続きに着手した。M/M 署名を経て本プロジェクトの 基本合意文書（R/D）を修正し、双方は活動再開に向けて、合意内容を基に案件実施に必要な事務手続きを進めることとした。

2-2-3 コロナ禍による渡航制限

前節の PDM 合意内容に基づき第2期の開始準備を進める折から、コロナ禍による現地への渡航制限のため、現地渡航が制限された。そのため、修正された R/D に基づく専門家との契約交渉も、2020 年末まで中断した。2021 年 2 月に契約締結と同時に、業務が再開された。しかし、デルタ株によるコロナ感染拡大で渡航制限はその後も継続し、現地渡航の制限緩和とその一部再開は 2021 年 9 月となった。この間、BDP も国内の行動規制などコロナ対策に忙殺され、採用・訓練計画も大幅な変更が必要となり、ニーズの再確認が必要な状態となった。渡航者数に制限がある中、遠隔での作業と、専門家による現場確認、実施機関へのヒアリングを行った。その結果、2020 年 3 月に締結した R/D を基本として、コロナ禍以降の警察側ニーズに合わせた活動を継続実施することが確認された。

2-2-4 TAPP 策定支援およびコロナ禍による計画見直し

2021 年 9 月から JICA の技術協力関係者に対する渡航制限の一部緩和により、同時に渡航する人数を限定した現地作業が可能となった。日本側は JICA の感染症対応ガイドラインに依る感染症対策を行い、渡航する人数を限定のうえ現地での業務を再開した。この時期の PHQ は、バングラデシュ国内の行動制限への対応と治安対策に忙殺されており、両者が合意済みのプロジェクトの計画に基づいた TAPP 作成の支援を日本側も協力して行うこととなった。

行動制限の影響により BDP は、人事採用を延期するなどして人事・教育・訓練計画を大幅に変更したことから、BPA でプロジェクトが研修を行う当初計画に対しても、再検討が求められた。これにより、実施場所の変更、訓練対象者、研修方法を抜本的に見直す必要が生じた。特に BPA での訓練対象者は、当初予定していた新任の警察官を対象としたものから、バングラデシュ全国を巡回し在職警察官を対象とする研修へ変更された事は、研修計画やその指導方法などを全面的に見直す必要が生じる変更であった。これら変更内容の対比を表に示す。

表 2 コロナ禍前後の計画(計画内容の対比)

項目	コロナ前	コロナ後（変更後）
開始時期	遅くとも 2022 年 3 月末に TAPP 承認後速やかに開始	2023 年 5 月時点で TAPP は未承認
実施場所	BPA	BPA、捜査訓練センター（DTS）（ダッカ）、シレット、チッタグラム、PSC（ダッカ）
対象者	新任の警部級警察官・新規昇格した警視補級	在職警察官
職位および人数	警部級：2,000 人、警視補級: 500 人	

項目	コロナ前	コロナ後（変更後）
習得目標	資源や状況に合致した、警備計画を適切に策定することができる	
研修実施方法	シミュレーション研修：国際会議場を含む複合施設とその周辺街区を対象とする警備シナリオに基づく、小グループでの課題解決 施設、要人、一般人ならびに周辺街区を警備対象とする	
	BPA の建物・施設や敷地、機材等を活用した研修実施	ジオラマ、図面、人員配置の検討
マスタートレーナーの選抜	BDP による選定	
その他	実際に施設警備や群衆管理に用いる大型の機材（X線検査等）やバリケード等も利用する	SP&M 分野の研修を必要とする在職警察官の全国の配置状況や、施設の整備状況、キャパシティ（空き教室数、収容可能人数、宿泊スペース等）を考慮した会場の選択 マスタートレーナーが各地を巡回して実施

2-2-5 TAPP 承認の遅延

当初遅くとも 2022 年 3 月末を想定した TAPP の承認のため、上位省庁である内務省への説明や、財務省などの関係省庁への事前調整、計画委員会への追加資料提出などに対応した。プロジェクトが C/P と協力して作業するのは、非公式な会合開催などに限られ、多くの作業は専門家単独で行った。2-4-1、2-4-2 および 2-4-3 の各節で詳述するが、この時期の現地業務には BDP からは最小限の協力しか得られなかったため、日本側がローカルコンサルタントを雇用して着手できる業務から進めた。そのため、技術協力プロジェクトで提供される C/P からのインプットも著しく限られ、日本側は内容確認や承認を始め、作業の進行のため通常より多くのリソースの投入が必要となった。

日本側はここまでに見直しを行った計画に基づいて SP&M、JCPA ならびに CSS の教材開発を継続した。これら教材の内容と研修、現場での活動の計画を、22 年 10 月に PHQ で開催されたワークショップで、BDP 各部門への説明を行った。その結果、これら教材を BDP での研修や活動に使用することに承認を得た。

2-2-6 TAPP 承認前の TOT および SP&M 研修開始に関する合意

プロジェクトは、教材等の承認を得る一方、指導者養成トレーニング（Training of Trainers : TOT）と SP&M 研修の早期開始を探る交渉を断続的に行った。この時期、警察側は 2,500 人を対象とする SP&M 研修計画の規模の縮小や内容の変更を望んでいないことも判明した。プロジェクトの残余期間が 6 か月を切る 2022 年 12 月に、警察本部との間で TAPP 承認を待たずに、TOT および SP&M の両研修を開始することに合意した。両者は、35 人のマスタートレーナーを選定して BPA で TOT を 23 年 1 月から実施すること、同年 2 月から 5 月までに、全国で 2,500 人を対象とした SP&M 研修を実施することに合意した。

日本側は限られた残りのプロジェクト実施期間で TOT ならびにその後の SP&M 研修で 2,500 人に対する全国での研修を迅速かつ円滑に実施する必要性から、TAPP 承認前にバングラデシュ

側が予算執行できない TOT 経費（対象 35 人）と SP&M 研修経費（対象 2,500 人）の一部についても以下の点を考慮して、日本側が負担し実施を支援することとした。

- ・ 当初 2022 年 3 月を想定した TAPP 承認が大幅に遅延した。承認に向けた最終段階に入ったことから、PHQ は 2022 年 12 月に TAPP 承認を待たずにプロジェクト活動を開始することを承認した。続く 2023 年 1 月に 35 人の警察官を選抜し、BPA で研修指導者を育成する TOT を実施することに合意した。
- ・ BDP は、本研修を在職警察官に対し同内容の研修を継続実施することを志向している。約 20 万人を擁する警察官の幹部である警視補（ASP）級（約 2,000 人）と、その配下の中間管理職である警部（Inspector）・警部補（SIs）の合計約 32,000 人の約 8%以上が本研修を受講することになる。
- ・ SP&M 研修は、その対象者が警察組織における現場の指揮者と計画立案を担う 2 層の管理者（警備計画を策定する計画者と現場の指揮者）を想定したものである。一般に警察官は、その生涯を警察官として勤める「閉じた組織」と考えられる。警察の組織文化は、上位下達の階級社会であることに加え、長期雇用が維持されている。その専門性からも、警察に移転・提供した技術・知見は、閉じた組織の中で業務の実践を通じて維持・発展する蓋然性が高い。また、BDP は本研修を在職警察官向け研修として位置づけ、同様の研修を継続実施する意向を有しており、研修から得られた知見等の持続性が担保されている。

2-3 PDM の変更協議・変更履歴

本プロジェクトは PDM の承認および変更手続きが、TAPP 承認遅延などの影響により、通常の技術協力プロジェクトの手順とは異なる方法で行われた。そのため、本項に PDM の変更協議・変更履歴を記録する。

2-3-1 第1期における変更(現行 PDM)

第 1 期に実施した詳細計画策定調査の結果を踏まえ、2019 年 12 月にカウンターパートと協議の上で PDM を変更した。PDM 協議では、当初の R/D を BDP の要望及び要請により、以下の 3 点を中心に変更することに合意した。

一つ目は、「犯罪防止」の概念が強調されたことである。日本側はダッカ襲撃テロ事件の経験から、JICA 事業の警備強化も考慮して本プロジェクトを形成した。しかし BDP 側は、より広義で普遍的な「犯罪防止」を事業の意義³として求めていた。そのため、全体の事業目的に犯罪防止の考えが色濃く反映されることとなった。民間警備会社の技術協力なので、この点は想定範囲として、違和感なく警察の意図を受け入れることができた。

二つ目は、成果 2 として「地域警察分野への支援」を求められたことである。本件着手前後の協議時点から、日本警察の関係者の配置が強く求められたことから、JICA 事務所は元警察官で

³ 犯罪防止は非常に広範な概念で、BDP の使命の一つでもあるので、協議の中では上位目標に取り入れなかった。（本プロジェクトの R/D 協議において、英文の「プロジェクト名称」を「...Strengthening Crime Prevention Capacity....」とする一方、日本側のプロジェクト名称は、当初から「警備能力向上」とすることに合意していた。

国際協力経験のある専門家を、「犯罪防止」担当の補強要員を追加で配置⁴した。プロジェクトとしも、この要請を「警察の信頼性向上に資する活動」と位置付けることとした。

三つ目は、警備研修の実施場所と研修アプローチの変更である。当初計画は実務的な研修を行うために、日本の有償援助事業を含む重要施設（Key Point Installation: KPI）等を「モデルサイト」に選定して、これらの施設に研修受講者をローテーションで配置するなどの実習形式で、能力強化を図ることを想定していた。しかし警察側から、業務執行中の施設で研修することのリスクや、宿泊・講義場所確保などロジ面の懸念が指摘された。警察側は代案として、バングラデシュ警察学校（BPA）を会場として利用することを提案し PDM 変更に合意した。

20 年 3 月に R/D 変更のために M/M に署名した。なお当初、20 年 4 月の第 2 期開始と同時に JCC を開催して、この PDM の承認を得ることを想定していた。しかし、修正した PDM に基づく TAPP の承認後でないと JCC を開催することができないため、先に TAPP 承認のための手続きを行うこととなった。

2-3-2 コロナ禍後の計画変更と PDM への反映

両国は PDM に記載されたすべての活動を 2023 年 1 月までに開始することに合意し、TAPP の承認状況を問わず、プロジェクトを同年 5 月末までに終了することに同意した。JICA と BDP は、プロジェクトを終了するために必要な行政手続きを行う必要があり、特にプロジェクト終了後のモニタリングと説明責任を明示するため、PDM の改訂が必要であることを双方が理解した。前項に述べたように本プロジェクトの活動は、新型コロナウイルス感染症（Coronavirus Disease: COVID-19）など予見されなかった様々な困難に対応するため、20 年 3 月に JICA と C/P の間で必要事項を確認・合意した R/D および、修正された PDM（Version 0.1）に定義された枠組みを大幅に修正して実施している。そのため両国は、時間的制約も考慮して、JICA と警察本部の間で書簡の手交により、PDM（Version 0.1）を、PDM（Version 0.2）に修正することに同意した。必要な修正事項は、プロジェクト関係者間で討議した。その内容を以下に示す。

2-3-3 協力期間、上位目標、およびプロジェクト目標の改訂

以下のように PDM の協力期間、上位目標、およびプロジェクト目標を改訂した（表 3）。

表 3 協力期間、上位目標、およびプロジェクト目標の改訂

改訂前	改訂後	変更理由
活動期間 2019 年 3 月 30 日～第 2 期最初の日本人 専門家の現地派遣から 27 か月目	活動期間: 2019 年 3 月から 2023 年 5 月	プロジェクトのスケ ジュール進捗遅延の ため
上位目標：バングラデシュ警察の警備能 力が向上する。	同左	つづりの修正のため
プロジェクト目標：バングラデシュ警察 の警備体制が強化される。	同左	つづりの修正のため

⁴ プロジェクトは、日本の警察大学校の校長経験者（警察庁 OB）を、主として政策協議や両国の警察間の技術交流を担うことを想定したアドバイザーとして配置した。

2-3-4 上位目標の指標改訂

上位目標の指標にも、いくつかの変更が必要である。PDM（Version 0.1）の上位目標には、7つの指標が設定されていたが、2つの指標に削減することとした（表4）。「警備（SP&M）に関する研修（JCPA と CSS を含む）が、BDP のインサービス訓練のひとつとして定期的実施されている」と「地域警察の新しい手法（JCPA と CSS）が、ビートポリシング⁵に採用されている」の2つを指標として定義する。これら2つの指標は、プロジェクトの長期的な達成状況を検証するのに単純かつ十分である。これら変更は、成果1の研修会場の変更、成果2の開始の遅延、成果3の展開計画作成に必要な組織である JCC と PIC が整備されて来なかったことに起因する。（これら変更や各成果の詳細は、2-4 項で詳述する）。

表 4 指標(上位目標)の改訂

改訂前	改訂後	変更理由
上位目標：バングラデシュ警察の警備能力が向上する。		
1. ガイドライン／マニュアルに基づく警備計画の数	1. 警備（SP&M）に関する研修（JCPA と CSS を含む）が、BDP のインサービス訓練プログラムのひとつとして定期的実施されている。	改訂された二つの指標によってシンプルかつ十分にプロジェクトの長期的達成度を確認することができる。
2. 警備状況に関する報告書の数	2. 地域警察の新しい手法（JCPA と CSS）が、ビートポリシングに採用されている。	
3. 警備現場から提出される警備に関するモニタリング報告書の数	削除	プロジェクトデザインの変更により、指標として適切でない。
4. 警備（SP&M）に関する研修を受講した研修受講者の数	削除	
5. 関係者から要請される警備（SP&M）事案の件数	削除	
6. 活動の実践のために選定されたコミュニティにおける住民の治安に関する意識向上の具合	削除	
7. 活動を実施する学校における安全に対する意識向上の変化	削除	

なお、これら成果の達成度の検証は、事後評価の際に、人事部局トレーニング部門や運用部局のビートポリシング部門など関連部門が発行する、研修報告や活動報告を確認することにより、確認することができる。

⁵ 「ビートポリシング」は、日本語で「ビートパトロール」と呼ばれ、地域と密着した警察の日常活動である。これは、警察官の担当する巡回区域を決め、その地域の住民や店舗オーナー、その他のコミュニティメンバーと積極的にコミュニケーションを取り、地域の安全と治安を維持するための活動。ビートパトロールは、地域の犯罪率を低下させるために重要な役割を果たすものとして採用されている。

2-3-5 プロジェクト目標の指標改訂

PDM（Version 0.1）の 6 指標は、コロナ禍以降の状況に合致させると、表 5 に示すように、4 項目に削減することができる。

表 5 プロジェクト目標の指標改訂

改訂前	改訂後	変更理由
プロジェクト目標：バングラデシュ警察の警備体制が強化される		
1.1 警備（SP&M）にかかるガイドライン／マニュアル、モニタリングシステムがバングラデシュ国家 PHQ から承認される。	1. 警備（SP&M）にかかるガイドライン／マニュアルがバングラデシュ PHQ から承認される	警備（SP&M）にかかる教材とマニュアル類は公式に PHQ に提供。これら図書類を公式に承認、出版、付番などの承認を期待。
1.2 開発計画（別称 普及計画）がバングラデシュ国家警察から承認される。	削除	2023-2024 会計年度の予算が確保されているとのことにより、不要と判断。本研修をインサービス訓練として来年度以降公式に開始を開始する確証を期待。
2. 最低でも XX 人の、新任あるいは昇格した警備補、警視補が訓練プログラムを履修し、警備（SP&M）システムに関するガイドライン／マニュアルに基づいたバングラデシュ警察所定の修了基準を満たす。	2. 最低でも 2,500 人の、新任あるいは昇格した警備補、警視補が訓練プログラムを履修し、警備（SP&M）システムに関するガイドライン／マニュアルに基づいた BDP 所定の修了基準を満たす	数値目標の明確化
3.1 警備（SP&M）の改善のための研修の数ならびに、警備対象地で利用された事例の数。	削除	計画変更のため不要
3.2 最低でも 2 カ所の警察署が管轄して官民合同犯罪防止活動を行う。	4. 最低でも 6 カ所の学校に 3 カ所の警察署が管轄して CSS を行う	達成済・実施済 TAPP 未承認のため、警察署数を削減。
3.3 最低でも 2 カ所の警察署が管轄して CSS を行う。		達成済／実施済 実施学校数 2 カ所を 6 カ所に 変更。

2-3-6 成果の改訂

成果には従前の PDM からの修正点はない（表 6）。

表 6 成果の改訂

改訂前	改訂後	理由
1. 警備（SP&M）にかかる訓練プログラムが整備される。	変更なし	
2. コミュニティを基礎とした安全意識向上のための、効果的なモデルが示される。	変更なし	
3. 3. 施設を対象とした警備向上のための開発計画が準備される	変更なし	

2-3-7 成果レベルでの指標の改訂

成果2の数値目標を定めた（表7「アウトプット指標の改訂」を参照）。

表7 成果レベルの指標改訂

改訂前	改訂後	理由
1 警備（SP&M）にかかる訓練プログラムが整備される。		
1.1 ガイドライン／マニュアルに基づく警備（SP&M）計画の数。	変更なし	従前の PDM では、警備計画と警備研修を、モデルサイトを選定して実施する予定だった。変更内容は研修実施場所のみ。 2,511 人の受講者が警備研修を終えた。すべての研修を終えると、プロジェクトは全部で 250 種類の異なる警備計画を受講者から受け取る。
1.2 警備パトロールの状況に関するモニタリングレポートの数。	変更なし	
1.3 警備パトロールに関するモニタリングレポートの提出数。	変更なし	
2. コミュニティを基礎とした安全意識向上のための、効果的なモデルが示される。		
2.1 最低でも XX 人のマスタートレーナーが TOT を履修し、その修了条件を満足する。	2.1 最低でも 6 人の警察官がマニュアル／ガイドラインに従って CSS 一連の業務を範示することができる。	プロジェクトは、CSS の「マスタートレーナー」として 6 人の警察官を研修し、彼らは専門家の支援なしで活動を実演することができる。
2.2 適切な警察官がトレーニングを受講した人数。	2.2 最低でも 30 人のコミュニティリーダーがビートオフィサーと一緒に合同犯罪防止活動に参加する。	また、総勢 30 人のコミュニティメンバーが、サブジバグ（Sabujbagh）警察署の 6 つのビートエリアの巡回警察官と共に活動する。
3. 施設を対象とした警備向上のための開発計画が準備される。		
3. 整備計画が策定される。	変更なし	警察側に展開計画を提示。

2-4 各活動の実施状況

本項は、3つの成果にかかる各活動の進捗および達成状況に絞って概略を説明する。各活動のうち、成果の達成状況の判定や、6項目評価に資する情報など、個別の活動のうち重要な内容、特記すべき事項を、「2-5 各活動」に詳述する。

2-4-1 成果1にかかる活動の達成状況

成果1にかかる活動は、全9項目が定義されている。これら活動のほぼ全てを完了している。専門家側の作業の全てを完了している。個別の項目の達成状況の概略を同表の各項目に示した。

表 8 成果 1 にかかる活動およびその達成状況

No.	成果 1 にかかる活動	進捗および達成状況
1.1	警備（SP&M）の現状をレビューするとともに、課題を明らかにする。	済 第 1 期にて BDP の警備（以下 SP&M）業務のレビュー済み。その内容を第 1 期報告書で報告済み。
1.2	警備（SP&M）システムに関するガイドライン／マニュアルの案を作成する。	済 協議の結果、バングラデシュ側に必要なガイドライン／マニュアルとしては、SP&M 研修、JCPA、CSS の 3 件を実施するための標準手順書（Standard Operation Procedures：SOP）である ⁶ ことが判明した。形式に沿って作成し、BDP へ提出済み。
1.3	警備（SP&M）に関する現状の訓練プログラム、訓練カリキュラム／教材をレビューし、改善点を明らかにする。	済 既存訓練の内容の分析済（第 1 期報告書）。最終的に警備計画の作成を内容とする研修と決定。
1.4	1.3 に基づき、警備（SP&M）に関する訓練計画、訓練カリキュラム／教材を修正する。	済 第 1 期で作成した「警備能力向上研修計画、研修カリキュラム／教材」の概要を基に、BPA における訓練計画、訓練カリキュラム／教材を更新し、新規作成した。
1.5	1.4 に基づき、教官候補を選定し警備（SP&M）に関する TOT を実施する。	済 更新・作成した研修カリキュラム／教材を基に、警備能力向上研修の普及・展開を念頭にいた研修講師（マスタートレーナー）を育成するための TOT を実施した。
1.6	教官と協働して訓練実施のための計画を策定する	済 PHQ の人事部局（AIG Recruit & Career Planning2）および AIG Training 3）と協力して、SP&M 研修の実施日程を策定し、実施した。
1.7	1.6 に基づき、警備（SP&M）に関する訓練を実施する	済 育成されたマスタートレーナーによる、上記教材類を使用した研修を (i) ASP 級と (ii) SI 級に対して実施した。
1.8	警備（SP&M）に関する訓練とカリキュラム／教材の内容に関するフォローアップと再修正を行う。	済 訓練を受けた警察官の能力や育成されたマスタートレーナーの能力評価を通じて、訓練とカリキュラム／教材の内容の改善点等を特定し、必要に応じて修正した。
1.9	1.8 に基づき、警備（SP&M）強化のためのガイドライン／マニュアルの修正を行い完成させる。	済 2023 年 2 月に SOP を BDP は受理。

⁶ SOP（標準作業手順書）は Standard Operating Procedures の略で、業務の品質を保持し均一にするために、その業務の作業や進行上の手順について詳細に記述した指示書のことである。SOP に関する BDP の要望は、「2-5-1 SP&M 研修の計画策定および合意（成果 1）」に述べた。

2-4-2 成果 2 にかかる活動の達成状況

成果 2 の活動は、表 9 に示す全 13 項目が定義されている。これら現場での活動の全ては完了している。の達成状況を同表の各項目にその概略を示した。

表 9 成果 2 にかかる活動およびその達成状況

No.	成果 2 にかかる活動	進捗
2.1	現状の、バングラデシュ警察による地域住民の参加の取組をレビューし、課題と特徴を明らかにする。	済 第 1 期で実施済み。計画変更にともない新たに入手した情報なども加味し、必要に応じ研修内容の一部を修正した。
2.2	合同安全意識高揚活動のための訓練計画を見直し、実施する	済 2.1 から得られた分析に基づき、JCPA のためのガイドライン／マニュアル（案）を作成済。第 1 期で作成された「研修計画、研修カリキュラム／教材」の概要に基づき、警察関係者と協議を行い、研修カリキュラム／教材を完成済。
2.2.1	2.1 から得られた分析に基づき合同安全意識強化活動のためのガイドライン／マニュアル（案）を作成する。	済 DMP と協議し、JCPA のパイロット活動実施の対象となる警察署を検討し、DMP の所轄警察署の一つであるサブジバグ署管内の 6 つのビートで実施することとした。PIC が公式に開催されないため、選定承認を非公式に得た。
2.2.2	2.2.1 に基づき、合同安全意識高揚活動のための訓練計画を開発・作成する。	済 訓練計画を策定済。（幹部を含む）DMP 関係者への説明および参加要請を行った。
2.2.3	2.2.2 に基づき、合同安全意識高揚活動のための TOT を実施する	済 DMP のサブジバグ署管内において、JCPA の街頭活動を開始した（2023 年 2 月 18 日）当日は、DMP の副總監（モティジール（Motijheel）方面担当）の出席により活動の出発式を挙行了した。
2.2.4	2.2.2 に基づき、合同安全意識高揚活動のための訓練を実施する	済 育成されたマスタートレーナーによる研修を、対象警察署の所轄警察官を対象に実施する。（2023 年 4 月 29 日に、モティジール方面の他の所轄署の地域警察担当者を加えて継続実施予定）。
2.3	子ども安全教室プログラムのための訓練を実施する	済 バングラデシュ社会に合致した訓練を検討した。
2.3.1	2.6 に基づき、子ども安全教室プログラムのガイドライン／マニュアル（案）を作成する。	済 第 1 期において作成された「研修計画、研修カリキュラム／教材」の概要に基づき、警察関係者と協議の上、研修カリキュラム／教材を完成済。
2.3.2	子ども安全教室プログラムのための訓練計画を開発・作成する。	済 DMP と協議の上、CSS のパイロット活動実施の対象となる警察署と小学校を検討し、選定した。
2.3.3	子ども安全教室プログラムのための TOT を実施する。	済 更新・作成した研修カリキュラム／教材を基に、CSS に関する研修の普及・展開を念頭においたマスタートレーナーを育成するための TOT 研修を実施した。マスタートレーナーは DMP とした。
2.3.4	子ども安全教室プログラムのための訓練を実施する。	済 育成されたマスタートレーナーによる CSS に関する担当警察官を対象とした研修を、警察署内にタスクチームを設置して実施した。

No.	成果 2 にかかる活動	進捗
2.4	上記全ての訓練（2.2.3, 2.2.4, 2.3.3 および 2.3.4）のモニタリング・評価を実施し、これらの分析から教訓を見出す	済 研修効果を計るモニタリングを、JCPA と CSS のパイロット活動を行い、関係者からのフィードバック等を得た上で、教訓を抽出した。
2.5	訓練計画と訓練教材の最終修正を行う	済 JCPA と CSS の「研修カリキュラム／教材」を更新し、最終化する。あわせて、関連する「研修計画」もレビューし、JCPA と CSS の経験や教訓を反映させた。

2-4-3 成果 3 にかかる活動の達成状況

成果 3 にかかる活動は、全 7 項目が定義されており、それぞれについて提案および協議を行った。いずれも、成果 3 の活動のうち、第 1 期に着手することのできた、活動 3.1 を除き、全ての項目が、成果 1 と成果 2 をある程度進捗させ、実際の活動成果を警察側に示す必要があるため、十分な活動期間や、成果の達成結果を警察側に示すことが不十分だった。そのため、「展開計画」という物理的な報告書をまとめる以前に、活動の終盤・終局に向けた、継続のための協議を中心として、様々な提案を行った。個別の活動内容を表 10 に簡略に述べた。

表 10 成果 3 にかかる活動およびその達成状況

No.	成果 3 にかかる活動	達成状況
3.1	現状の施設警備（SP&M）システムをレビューする。	済 第 1 期で BDP の実施する標準的な警備手法についてレビューを行い、その内容を報告済。
3.2	成果 1、2、警備（SP&M）をバングラデシュ全国に展開することによる効果を分析する	済 警察との協議により、全国で SP&M 研修を実施することに合意済。本プロジェクトのフェーズでは、ダッカ（ASP および SI 級）、ラッシャヒ、クルナ、チッタグラム、シレットの訓練センターもしくは警察施設で実施することとした。これにより、全国で警備に従事する人材に研修を提供できる基盤としての研修手法、機材の明確化ができた。
3.3	バングラデシュ全国に警備（SP&M）システムを展開するために必要な活動をリストアップする	済 研修を全国で効率的に実施するために必要なロジ手配のうち、特に支援のための人材確保、マスタートレーナーの全国配置、機材確保等の必要性が明らかになった。
3.4	活動 3.3 を実施するのに必要なコストを計上する	済 地方で実施するためのコスト TAPP で試算し提示済み
3.5	コストに対する効果を分析する	済 地方で実施するための効果は長期的な研修実施計画として把握済。ただし、経済効果については、警察側も十分な資料がないことが判明している。
3.6	分析結果に基づき、予算案の提出のための準備をする。	済 TAPP 未承認のため、2023/2024 会計年度の策定協議を働きかけた。

No.	成果 3 にかかる活動	達成状況
3.7	活動 3.1 から 3.6 に基づく 警備（SP&M）システム 改善のための展開計画を 策定する	済 3.6 と併せ、PHQ に対する働きかけを行った。

2-5 各活動の概況

2-5-1 SP & M 研修の計画策定および合意(成果 1)

(1) 警備（SP&M）システムに関するガイドライン／マニュアルの案の作成（活動 1.2）

着手後速やかに BDP の SP&M に関する現状レビューを実施、その結果を詳細計画策定調査として取りまとめ、SP&M における課題を明らかにした。その調査プロセスでは、調査の結果等を適宜 BDP と共有し、SP&M 実施上の現状確認とともにその課題を洗い出した。その結果をもとに第 2 期の計画を取りまとめた。



プロジェクト関係者とのキックオフ会合



課題分析のためのワークショップ

図 1 現状把握のための会議およびワークショップ

PHQ との協議の結果、ガイドライン／マニュアル案として、研修に用いる教材類に加えて、それを実際に運用・活用するための SOP を作成・準備することとなった。

SOP とは、定型的業務を適切に実行するために必要な手順を段階的に説明する手順書である。警察における SOP は、法令や規制等の業務上の基準により、毎回の作業や業務が常に同一の方法で実行され、組織としての一貫性を維持するために準備される文書である。また、SOP が正式に承認されることは、本プロジェクトの研修実が正式に警察に承認されることと同義となるため、プロジェクト側の手を離れた後も円滑に研修を行う上で重要な文書である。警察との協議により、成果 1（SP&M 研修）と成果 2（官民合同犯罪防止活動と CSS）にかかる SOP を準備することとした。なお、SP&M の SOP は、警備業務のマニュアルでなく、SP&M 研修を実施するための SOP を準備した。プロジェクトは、上記のマニュアル類と併せ、成果 1 と 2 に関する研修が継続実施されること、並びに各 SOP がそれぞれ PHQ から正式に承認されることを目指して活動することとした。

(2) SP&M 研修の内容の変更およびその協議（活動 1.3 および 1.4）

2021 年 9 月から再開された現地業務再開後は、PHQ から主要各県に存在する訓練センターを巡回し、SP&M 研修を実施する案が提案された。この提案は、COVID-19 によるバングラデシュ政府による大幅な行動制限に起因した、警察業務の対応や採用抑制による訓練計画の大幅見直しにより BPA での研修が不可能となったことによる。このため、従来からプロジェクト側から提案してきた、BPA 敷地内の建築物や構造物等を活用した実習による研修案を全面的に見直す必要が生じた。従前の案は、実際の建物や道路、ゲートなどの施設を利用して、提供した機材・器具を活用した警備訓練を想定しており、研修内容とともに機材の選定も根本から見直しが必要となった。研修機材の一部は、設置に電源工事が必要な X 線検査機やゲート型の金属探知機、顔認証システムなどの導入も検討しており、会場の移動により研修計画の根本的な見直しが必要となった。

前述（1-4）のように、COVID-19 による遅延と C/P 機関の人事異動等による計画協議を仕切り直したことにより、第 2 期パート 2 の業務開始後も、研修の諸元（対象者およびその人数、階級、実施場所、実施時期など）や、研修指導者等の確定のため協議を継続した。

(3) 研修実施内容の確定（活動 1.4）

以上の経緯と検討作業を経て、SP&M 研修の内容を以下のように BDP に提案し、研修の実施方針を確定した。その概要を下表に示す。

表 11 合意した SP&M 研修の概要

項目	説明
TOT	講師（マスタートレーナー） PHQ の推薦で SP および Addl. SP 級 35 人を選定 ⁷ （5 人の補欠を含む）
	2023 年 1 月 15 日～24 日（10 日間）BPA において実施。
SP&M 研修	対象およびその人数 ⁸ SI 級 2,000 人および ASP 級 500 人合計 2,511 人
	実施場所 各地の警察訓練センター（ダッカ：PSC および DTS、ラッシャヒ（BPA）、クルナ（PTC）、シレット、チッタグラム（各県警察インサービス訓練センター）
	研修の内容 重要人物（VIP）と一般参加者が利用する重要施設（KPI）の警備シナリオに基づき、警察官の配置や入り口規制等を中心とする警備計画（人員の配置計画、組織表、役割表）の立案。
	研修の実施方法 各研修会場を巡回し、5 日間の研修を行う。 1 バッチ 50 人に対しマスタートレーナー 2 人を配置する。 各地を移動して実施する必要性から、簡易な機材 ⁹ に限定する。

⁷ 研修経験のある現職幹部警察官をマスタートレーナーとして選定する。マスタートレーナーはいずれも所属先で責任のある地位や職責を担っている。彼らを 2 週間の TOT や 5 日間の SP&M 研修のために拘束し、講義複数を担当させる必要性から、5 人の補欠を加え 35 人のマスタートレーナーを確保することとした。

⁸ SI 級は、SI（巡査部長）とその Inspector（警部）の 2 階級を、ASP 級は ASP（警視補）と SP（警視正）の 2 階級をそれぞれ対象とする。前者は現場の指揮官レベル（中堅管理者）、後者は警察組織の初級幹部に該当する。

⁹ BPA の実大の建物・施設を利用したシミュレーションを実施することができないので、調達を予定した金属探知機（門型ならびに X 線探知機）や、顔認証システムの導入は、可搬性や設置の複雑さ、キャリブレーション（更正）必要性などから見送ることとした。

第1期で判明した警備対象施設の重要度に応じた区域区分（ゾーニング）区域や、警備を担う人員の業務範囲やその手順の明確化に加え、警備対象である KPI を警備するための空間計画や、資源を効率的に活用し、効果的な警備を行うための、「包括的」かつ「総合的」な警備計画が作成されていないことに着目した。このことは、KPI の警備や、最重要人物（VVIP）などの警護対象者を対象とした警備のみならず、一般の警察活動においても普遍的な重要性を持つ。

個別の警備事案への対応は、計画を担う幹部警察官（SP または ASP 級）と現場の指の指揮や運用を担う中堅管理者（SI および Inspector）の経験や従来からの実施内容の継続・維持に依拠することが判明している。警備を含む警察業務では個別の任務や新たな任務に関する各級の先任警察官に対して、命令書（Command Certificate: CC）が交付される。多くの場合その内容は、任務詳細を記載せず指揮権の明確化に留まるもので警備に触れる内容は限られていたため、その点を補完や強化する研修内容とした。

2-5-2 TOT の実施(成果 1)

(1) 研修計画の策定

第1期に実施した調査で、BDP が実施している初任研修や、各地のインサービス訓練センターでは、本研修に類似する実際の警備を想定した研修科目は開設されていないことが判明していた。既往の研修の多くは座学と身体的訓練が中心で、本研修が想定する実際の警備状況を想定するシナリオに基づく実務研修は実施されていない。また BDP が実施している警備業務は、その重点が施設警備と要人警護にある。その基本的な実施方針は、一般人を可能な限り排除して、対象施設や警護対象に接近することを最小限とする手段が取られている。

これに対し本研修は、近年バングラデシュの国際的地位向上により、多数の重要イベントが開催されている現状に鑑みて、国際会議を想定した警備計画を習得することとした。この研修は (i) 警備現場における警察官の指揮を直接担当する SI 級と、(ii) 警備全体の計画立案と運用を担当する ASP 級を対象に実施することとした。また、本研修は、当初想定 of BDP での新規任用警察官を対象とする研修を取りやめ、各地会場でのインサービス訓練へ変更されたことに伴い、経験者を想定する内容に変更した。

なお、専門家は本研修の策定を、BDP の研修関係機関の教官やカリキュラム担当者とワークグループを設置して共同作業で行うことを想定していた。しかし、TAPP が承認されないことを理由に、作業グループを公式に設置することができなかった。そのため専門家はこれら作業を、警察経験者であるローカルコンサルタントを雇用し、彼らからの情報提供を得て、既往の育成方針と訓練体系との整合を図ることにも配慮して計画を策定した。

(2) 研修計画の承認

SP&M 研修の内容は第1期以来、数度にわたりその計画内容を PHQ に対して説明してきた。2022 年 6 月の段階では PHQ に対して研修内容と作成中の教材素案を提示し、同 7 月末までにベンガル語への翻訳を開始するための基本承認を得た。その後、警察各部門（都市圏 PHQ 等）での検討を経て、質疑応答と意見集約のためのワークショップを同 10 月に開催した。専門家チームは、承認された教案に沿ったベンガル語教材の最終化を進めることとなった。

(3) TOT および SP&M 訓練の、TAPP 承認前開始に関する合意

プロジェクトの協力期間が残り 6 ヶ月を切る 2022 年 12 月には、PHQ との合意がなされ、TAPP 承認を待たずに TOT と SP&M 訓練を開始することとした。まず、35 人のマスタートレーナーを育成する TOT を 2023 年 1 月に開始した。その後 2023 年 2 月から、2,500 人の警察官を対象とする SP&M 訓練が開始する運びとなった。

(4) TOT 評価モデルの提案およびその協議（2022 年 12 月～2023 年 1 月）

TOT と SP&M 研修を開始するにあたり、BPA 関係者と研修評価の方法を協議し、その方法を以下のように定めた。2 つの研修の受講者に対する評価は、相互の関係性が深く、別々に議論・説明することは、却って煩雑となり不適切と考える。そのため、両者の評価方法を同時に検討した。本研修は、グループ活動を通じて警備計画を作成する実践的なもので、「知識の習得程度」のみを求める内容ではない。研修参加者の習得の確認は、5 日間の研修の 4 日目に、与えられた課題に沿った警備計画の作成を通じて、講義から習得した知識や、実習から得られたスキル等を統合して解答する。この形式で実施する研修では、研修効果の確認を筆記試験で行うことが難しい。また、対象者が、(i) TOT 参加者 35 人、(ii) SP&M 研修参加者 2,500 人の 2 本立てで、複数会場で膨大な人数の情報を評価するための手法が必要である。これらを考慮して、両方の研修の習得目標と、研修評価を効率的に行うための方法を整理し合意した。

これら 2 つの研修は、カークパトリック（Kirkpatrick）による 4 段階評価モデルにより評価する（表 12）。TOT 評価は、その実施期間内にレベル 1～2 を計測する。レベル 1「反応」の計測は研修後評価（Post Training Evaluation Survey）と、レベル 2「学習」の計測を、TOT 第 1 週目 4 日目に実施する「グループワーク」の結果（講評）を用いて計測（一定水準への到達と）する。また、レベル 3「行動変容」の計測は、原則として TOT 期間内には行わず、2023 年 2 月に実施される SP&M 研修（2,500 人対象）で実施する研修後評価をオンラインで実施・集計することとした。その概要を下表に示す。すべての会場において SP&M 参加者の研修評価は全員の“反応”を確認する。そのため研修後に、全員に対する研修後アンケート（Post Training Questionnaire Survey）を配布して実施した。

表 12 TOT および SP&M 研修の評価枠組み(カークパトリックモデル)

レベル	説明	評価・アセスメント	
		TOT	SP&M 研修
レベル 4: 結果	研修とサポート・アカウントビリティ・パッケージの結果として、ターゲットとなる成果がどの程度実現したか?	BDP は、プロジェクトが終了した後も BPA および他のトレーニング機関の年次トレーニング計画に研修プログラムを登載する。 BDP は、自身の標準業務執行手順 (SOP) に SP&M のアプローチを継続して適用する。	国全体での実施状況/ 警察に対する信頼の向上、など
レベル 3: 行動変容	受講者が職場に戻った際、研修で学んだことをどの程度実践したか	SP&M 研修開始後のマスタートレーナーの指導方法 (SP&M 研修受講者を対象とする研修実施後の質問票調査の結果の集計結果) および、プロジェクトが実施予定の中間評価	参加者は、それぞれの所属先に戻った後警備計画の策定やその実践、CSS、ならびに官民合同犯罪防止活動を継続して実施する
レベル 2: 学習	受講者が研修に参加したことにより、意図した知識・スキル・態度・自信・コミットメントをどの程度習得したか	研修第 4 日目 (SP&M 研修の期間に準備する警備計画によって計測する	研修第 4 日目 (SP&M 研修の期間に準備する警備計画によって計測する
レベル 1: 反応	受講者が研修を好意的かつ興味深く、また仕事に関連性があると感じたかどうか	研修実施後の質問票調査の結果	研修実施後の質問票調査の結果

なお、TOT 受講者に対する評価は、SP&M 研修において出題する「課題」の指導や解決能力に加え、マスタートレーナーとしての教育・指導能力も重要と考えられることから、以下の習得目標を掲げて、各人のコンピテンシー向上も考慮する。

- (i) 職務におけるベストプラクティスを提供する。
- (ii) 学習者の関与、振り返りを活かす実践、批判的な思考、スキルの習得を手助けするためのファシリテーションスキルを習得する。
- (iii) ブレインストーミング、学習過程の確認、ロールプレイ、練習のためのセッションなど、本研修が提供する主要なトレーニング戦略を学ぶとともに、その方法を習得する。
- (iv) 他の参加者の学びを妨げる振る舞いなど、研修実施上の困難に対して、適切な介入が提供できる。
- (v) トレーニングとファシリテーションスキルを強化するため、各人が行動計画を立てる。

(5) TOT の実施ならびにその結果

2023 年 1 月 15 日から 24 日までの 10 日間の日程で、ラッシャヒの BPA で 35 人を選抜のうえ TOT 研修を実施した (参加者は添付資料の研修参加者リストの通り)。その結果、35 人全員が予め定めた研修の習得目標レベルならびに、マスタートレーナーとして上記 5 項目のコンピテンシ

一を有することが確認できたので、全員に BPA 校長から修了証を授与した。特に一部の TOT 受講者の中には、これまでも警察関連の教育・訓練経験が豊富でかつ、SP&Mに関する新しい指導方法やその内容に十分な理解を示す受講者多数が選抜されていることも判明した。

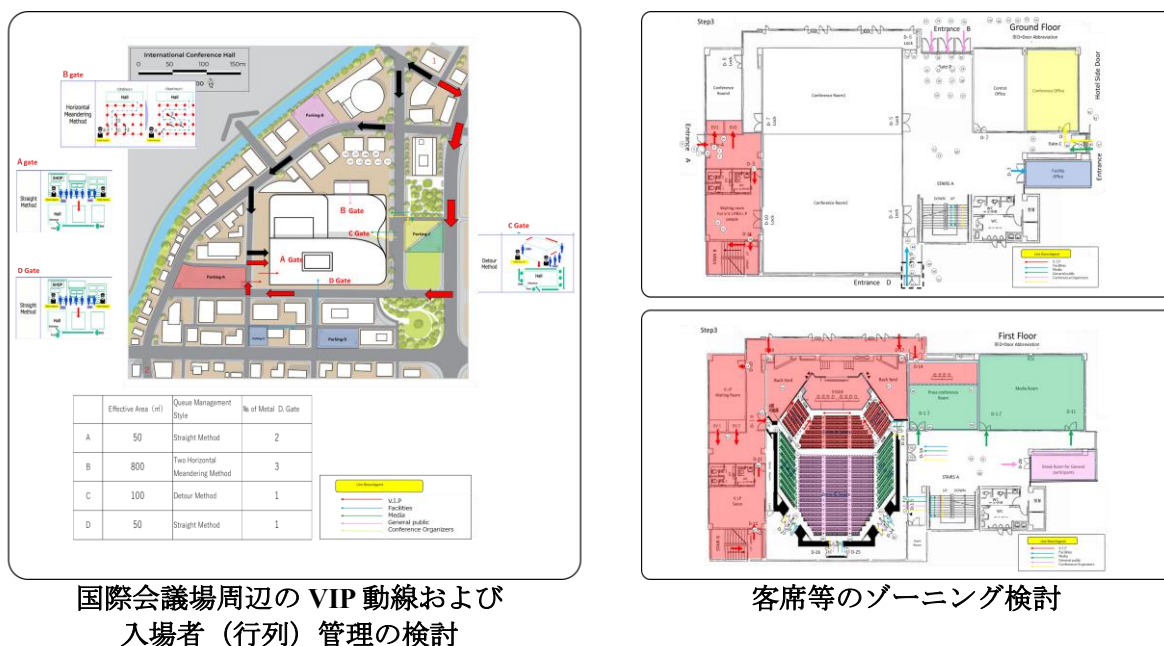


図 2 警備計画策定研修の課題(例)

TOT 研修後に実施した質問票調査では、「総じて研修は期待どおりだった」という設問に対し参加者の 97%にあたる参加者から肯定的な回答を得ることができた。

Q2-1 Overall, the training met my expectations.

35 responses

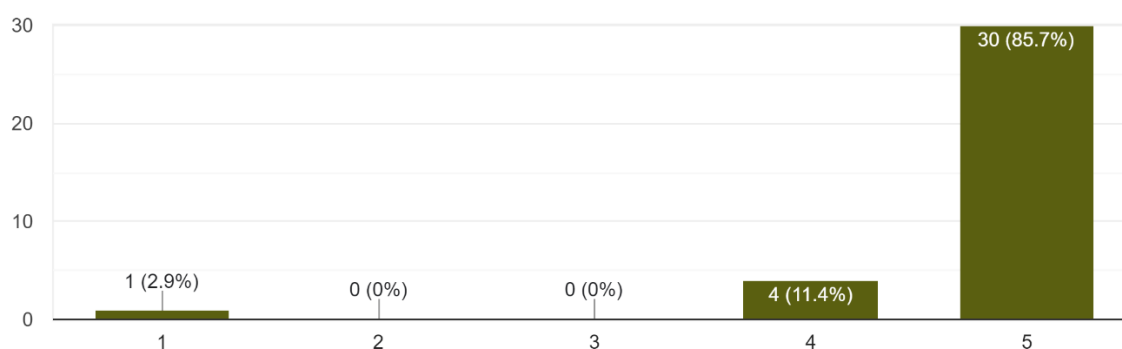


図 3 研修後の質問票調査の結果(抜粋)

またこの研修から、学習・習得した内容を、次に実施予定の SP&M 研修指導者の役割で応用することに、肯定的な回答を得た。なお、上記「期待との合致」と「応用に対する自信」を比較すると、後者への回答は肯定側（強く同意）の回答が多いことから、TOT 研修の内容が適切だったことが伺われる。

Q2-5 I am confident to apply what I learned in my role as a trainer when the SP&M training starts.

35 responses

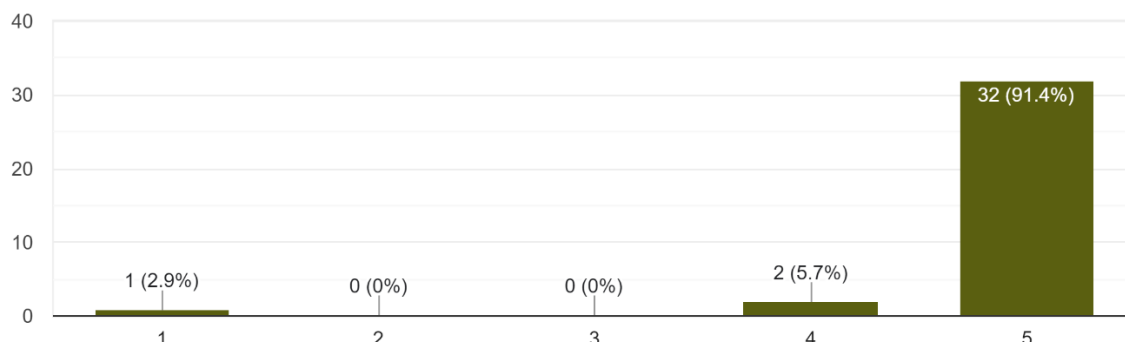


図 4 研修後の質問票調査の結果（学習した内容を応用することへの自信）

また、TOT の実施期間中に教材の内容等について、指導上不明瞭な部分や解釈に改良や不明瞭な点の解題を行い、必要な修正を行うことができた。

2-5-3 SP&M 研修の実施(成果 1)

専門家チームと BDP は、以下のように SP&M 研修に取り組んだ。2023 年 5 月現在、TAPP は未承認であるため JICA と BDP の間の合意に基づいて実施している。この研修はプロジェクトが想定する警備能力の向上を構成する 2 つの柱として位置付けられている「対処能力の向上」と、「警察に対する信頼性向上」の習得するものである。5 日間の研修のうち最初の 4 日間で前者をカバーする。最終日（5 日目）には、JCPA と CSS の紹介を通じて、プロジェクトの想定する 2 つの領域を習得する。この研修により、バングラデシュ警察はより高度な警備計画を策定する能力を向上させることができ、国内外での重要イベントなどにも対応できるようになる。

PHQ は各地の警察から SI 級 2,000 人や ASP 級 500 人の現職警察官合計 2,500 人を選抜して SP&M 研修（5 日間）を受講させることとした。彼らに対して、TOT を履修した 35 人のマスタートレーナーが BPA や各地の訓練施設を巡回し SP&M 研修を実施している。会場は、BPA の他、PSC（ダッカ）、DTS（ダッカ）、シレット、チッタグラム、など、各地の施設にマスタートレーナーを派遣して実施している。会場の選定は、在職警察官全国の配置状況や施設の整備状況、キャパシティを考慮して決めた。

研修の内容・手法は、受講者が、資源や状況に合わせた適切な警備計画を策定できることを目的として実施している。10 人一组の小グループで、提示された警備に関する課題解決を行うもので、現場の経験や知識を基礎として、講義と実習を組み合わせる総合的な知識・計画策定能力を強化する。各地の訓練センターには、警備対象の地域を含む本格的なジオラマ（建築模型）と図面を提供して、人員配置の検討を行う実践的なシミュレーション研修となっている。マスタートレーナーは、受講者に対して「警備シナリオ」を提示し、国際会議場を含む複合施設とその周辺街区を対象とする警備計画を作成する。提供されたシナリオに基づいて、対象施

設（KPI）と、そこを訪問する要人、イベントに参加する一般人ならびに施設の周辺街区を警備対象としている。

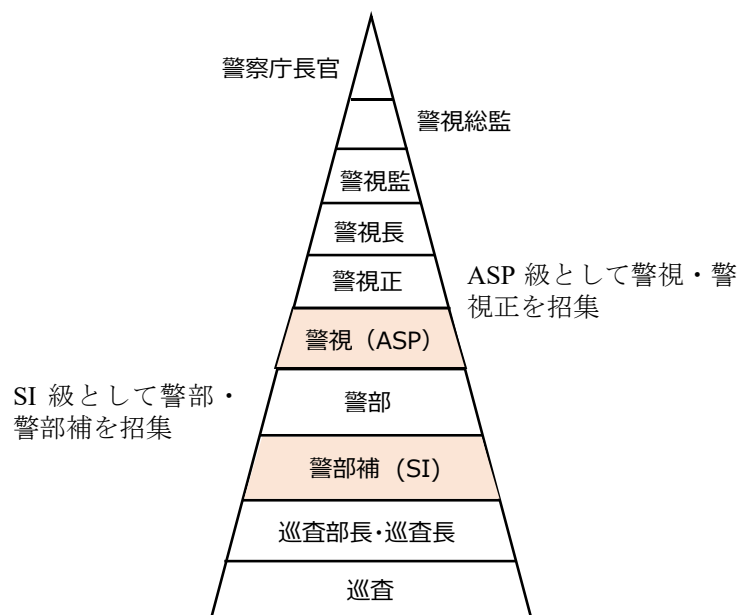


図 5 研修受講者のバングラデシュ警察での階級

2-5-4 教材の改定について

すでに各地で開始されている SP&M 研修を日本人専門家がモニタリングレビューし、その場でマスタートレーナーに対して助言を与えている。これらモニタリングレビューの結果を取りまとめ、頻発している研修実施上の課題をリストアップした。個々の課題の内容や、研修の質に対する影響度や明らかな錯誤などの重要性に応じて、対応を決めた。それ踏まえて、2023 年 3 月に SP&M 研修の選抜されたマスタートレーナーから 5 人と共に、教案の修正や教材の最終化作業をおこなった。教材の修正作業は、研修効果の向上と、マスタートレーナーにとっての研修のやりやすさの向上を目的とした。

表 13 教材および教案等の改善事項

項目	課題	対応
マスタートレーナーからの発表を評価する際の視点	グループによる課題の発表に際して、マスタートレーナーが提示する講評の際の視点が様々。作成された警備計画の質確保と重要な視点を明らかにする必要がある。	マスタートレーナー向けのメモや FAQ に重要な視点についての記述・説明の追加
ゾーニング作成の考え方	「ドットラインを引く」など、課題の表現と成果品に求められる作業の内容	混乱を生じる用語の統一
時間配分	標準的な時間割りを提示しているが、マスタートレーナーによってその使い方が様々。グループワークの発表に多くの時間をかけており、解説や答え合わせの時間が少ない。	再度、時間割りや講義内容を遵守するようリマインドが必要

2-5-5 官民合同犯罪防止活動の計画および実施(成果 2)

(1) 官民合同犯罪防止活動（JCPA）の概要

官民合同犯罪防止活動は、地域住民（ボランティア）を動員して、犯罪防止に関するチラシ等を街頭で配布して、地域防犯に関する意識向上や啓発を促すための活動である。本プロジェクトでは、モデル署として、ダッカ市内のサブジバグ警察署を実施場所（モデル警察署）として、2022年3月から関係者との折衝を進めてきた。

事前の準備として、ローカルコンサルタント（警察経験者）同行のもと、警察署を訪問し、署長、主要な幹部、ビートオフィサー等との面会を重ねた。また、一部地域住民（リーダー）とも面会した。サブジバグ警察署は、ダッカ市の南西部に位置する。署員は署長以下 100 人強（巡査含む）、ビート（巡連区）数は 6 つあり、各ビートの責任者である SI と面談した。管内は、商業地区と住宅地が混在し、一部（ビート 6）地域は田園で、概して下町風である。

当該署をモデル署とする理由は、また、住宅街があり定住人口が多いため住民同士のつながりが強く、また防犯活動に関する協力が得られやすいため、ボランティアの募集活動もしやすいと考えられたためである。さらには、薬物、窃盗や強盗などの発生件数が多く、住民に防犯広報するのに都合がよい。

(2) 活動の準備

民間ボランティア募集関係

- TAPP の正式承認後速やかに決定できるよう、募集のための準備を進めた。
- ボランティアの選任方法は、警察署管内の「Community Policing Committee」の協力を得る。6 つのビートから、多様な年齢、職業、女性が参加する事を考慮して各 10 人の選出を依頼した。

防犯チラシ

- 活動当日、街頭にて住民に配布予定の防犯チラシを、所轄署の 2 人の ASI を署長経由で指名し、その内容や目的、作り方等について個別に指導を行った。

実施回数等

- TAPP 承認の遅延があるが、現場活動を 2023 年 3 月までに終わることを考慮し従来予定していた年 4 回実施することは困難となった。2022 年 4 月時点では 3 回実施とした。しかし、最終的には、2023 年 2 月と、同年 4 月の 2 回実施となり、計画が大幅に縮小される結果となった。

教材関係

- PHQ から依頼された SOP、更にセミナー用に準備したパワーポイント（Power Point: PPT）資料 4 種類（(i) 活動実施要領 (ii) 官民合同防犯のコンセプト (iii) 市民による防犯活動 (iv) 防犯チラシ作成要領）を作成のうえ、2022 年に 8 月までに合意を得た。この教材をベンガル語に翻訳して活用した。

セミナー開催

- 実際の現場防犯活動の約 2 週間前に会場を借り上げて、関係者を招致（Division Office）。ビートオフィサー 2 人のうち、どちらかが 1 回を受講。ボランティアにも受講を依頼。
- PPT を使用した講義の実施。

ロジ・その他

- 防犯活動の実施場所は、予めビートを担当する警察官からの意見を聞き、決定した。
- ボランティア用のユニフォームのデザイン、現場での配布グッズ等の内容を検討し調達した。

(3) 官民合同犯罪防止活動の達成状況

第1回目の街頭での活動を2023年2月18日に実施した。

この活動には、DMP のモティジール管内に所在するサブジバグ署の署長の他、同署の非番でない主要な警察官（管内6ビートを担当する警察官約20人を含む）など40人が参加した。また、DMP から Additional Commissioner（犯罪捜査責任者）以下15人が参加している。

管内から地域リーダー6人（管内6つのビートから1人ずつ参加）と、ボランティア65人が活動に協力した。警察官（ビートオフィサー）とボランティアとが協力して街頭で安全喚起の呼びかけを行い、合計6,000枚のチラシを配布した。その模様をビデオに収録し教材の最終化を行った。いずれも SP&M 研修において利用するための教材の改善に活かされる。

第2回目の活動を、2023年4月29日に実施した。所轄署からは、署長、現場管理者（on-site commander）、ビートオフィサー30人、計32人が、ボランティアは計60人が参加し、6,000枚のチラシを配付した。



街頭での活動風景（チラシの配布）



DMP 幹部のあいさつ

図6 官民合同犯罪防止活動の実施状況

2-5-6 子ども安全教室(CSS)の計画および実施(成果 2)

(1) CSS の概要

成果 2 のもう一つの活動である CSS は、警察に対する信頼性向上を目的として、犯罪機会論を基に、地域住民の協力を取り入れて、犯罪が起こりにくい環境を構築するための活動である。CSS も、官民協力により、地域に合った犯罪防止のための対策や行動を、警察と地域住民が共に考え計画した活動を実行する。その結果をさらに検討・修正して活動を継続することにより、安全な地域を形成するための取り組みである。また、CSS とともに配置する「セーフティハウス（旧 999 ハウス）」は、万一の場合に子どもの危機を救う避難場所として運営する。セーフティハウスを配置することによって、地域住民の関心を高め（監視性の向上）、住民一人ひとりの警戒心が向上すること（抵抗力の強化）により、犯罪を寄せ付けない安全な街づくりを目指す。

地域ぐるみで犯罪に強い町を作るには、警察が日常的に行う防犯の取り組みに地域の住民が積極的に関わることが必要である。そのための仕掛けとして CSS は効果を上げると考えられる。CSS の開始当初は学校（教師）と保護者ならびに、セーフティハウスを設置することから開始される。この活動を通じて、警察による防犯活動を広く広報することにより、地域での防犯に対する関心を高める。また、これら活動を通じて、地域住民との関係性構築により、警察に対する信頼を醸成する。このように、警察官と地域住民が防犯活動を共同で行うことにより、地域住民の防犯に対する理解を深め、防犯意識を高めることが、活動の重要なポイントである。

(2) CSS の実施手順および TOT

CSS は、学校・児童・保護者ならびに、地域住民との対話の一手法に位置づけて、BDP のビートポリシングの本来業務として実施することとしている。

CSS は以下の手順で計画・実施した。CSS は所轄警察署のビートポリシングを担当する署員が、所轄署の署長の指示のもと実施する。その具体的な手順は、担当のビート区域を対象として、CSS を実施する学校を選定した。その選定基準は、オフィスや工場街ではなく、主として住宅や商店が混在する地域で、通学する児童の数がある程度見込める地域を選んだ。また、通学路の途上に協力を仰ぐことのできる小規模な商店が混在している学区が望ましい。本プロジェクトでは、バッド、グルシャン、ボナニの 3 所轄署の区域の 15 校から 6 校を対象とした（図 7）。セーフティハウスの選定基準は、児童が日常通学に使う道路に面していることその他、セーフティハウスの選定基準は、児童が日常通学に使う道路に面していることその他、児童が日常行きやすい菓子店または文具店に協力を依頼した。

CSS 実施にあたり各学校の周辺地域の状況確認を行う。併せて区域内を改めて巡回し、(i) 危険カ所の確認、(ii) セーフティハウス予定者への訪問と協力要請等を行った。次にこれら調査や面談等の結果をもとに、(iii) 地域の防犯地図作成、(iv) 教材（配布物・掲示物）等の準備、(v) 学校・保護者への説明（必要により説明会の開催）などを行った。(vi) CSS を実施する日時の確定の後、実際に学校を訪問して CSS を実施した。



CSSを実施した学校
 検討対象の学校

図 7 CSS 実施を検討した小学校の位置図

CSSの当日は、教材等を学校に持ち込み、実際に児童と教室で実施するための準備（掲示、配布物）を行った。当日の児童とのやり取りは、概略以下のような内容を手順に従って実施することを標準としているが、そのときの適切な話題やリスク等を考慮して、取り扱う内容の変更も可能としている。

各学校での CSS の児童に対する実施手順および内容は、(i) 自己紹介、(ii) 地元の危険カ所の気づき、(iii) 知らない人からの声掛け事案への対応（大きな声で助けを求める）、(iv) セーフティハウス（緊急時に助けを求める）、(v) 不審者の侵入（演習）、(vi) まとめ、(vii) あいさつ、という手順で実施した。



セーフティハウスの協力者確保



TOT の実施

図 8 CSS 活動の準備

CSSを実施するマスタートレーナー6人（いずれもSI）を育成するTOTは、CSSに必要なスキルを習得することを目的に、延べ十数回にわたり実施した。彼らは3所轄警察署に所属する警察官なので通常勤務の合間に時間を取ってTOTに参加した。

(3) CSS の達成状況

本プロジェクトは、CSSの活動は完成したことが確認できる。

プロジェクトはこれまでに、CSSをパイロットプロジェクトとしてダッカ市内の6つの小学校で実施し、延べ1,452人の小学生が参加した。当初の目標として、DMP傘下の所轄署3署管内の6小学校でCSSを実施した。このために、3所轄署の警察官6人が選拔され、彼らはマスタートレーナーとして、CSSを模範的に実施することができる。彼ら6人の警察官は、1校あたり約50分のCSSを単独で実施することができる。CSSの実施には、配布物や黒板に貼る教材が必要なため、運営・準備には、その体制づくりとともに工夫が必要となる。しかし、これまでの実施・改良によりCSSは、全国の所轄署に所属する警察官が、独力で実施することのできるコンテンツとして最適化された。以上の結果から、CSSの開発と模範としての実演（パイロットプロジェクトとしての実施）は完了した。（表14参照、CSSの成果・実数を巻末資料に添付した）。

表 14 学校別の CSS への参加者数

学校名	所轄署	セーフ ティハ ウス数	在校生数	男女別	CSS 参加児童数			
					3年生	4年生	5年生	合計
Bhola Govt. Primary School	Badda PS	15	370	Male	32	27	28	87
				Female	36	29	51	116
				Subtotal	68	56	79	203
Uttar Purba Badda Govt.	Badda PS	11	370	Male	30	24	22	76
				Female	48	74	62	184
				Subtotal	78	98	84	260
Shatarkul Govt. Primary School	Badda PS	11	380	Male	30	44	34	108
				Female	30	60	46	136
				Subtotal	60	104	80	244
Badda Govt. Primary School	Badda PS	15	376	Male	22	30	74	126
				Female	29	25	86	140
				Subtotal	51	55	160	266
Shahjadpur Govt. primary School	Gulshan PS	15	223*	Male	36	35	12	83
				Female	55	68	31	154
				Subtotal	91	103	43	237
Abdul Hamid Dorji Govt. Primary School	Bonani PS	17	350	Male	10	27	52	89
				Female	21	61	71	153
				Subtotal	31	88	123	242
合計		84	2,069	Total	379	504	569	1,452

備考 *在校生数は学校から提供されたもので実際の数値との間には差異がある模様。参加者数は参加した児童を教室で数えた実数。



警察官へのワークショップ



小学校での安全指導



学区内のリスクを発表する児童



小学校での安全指導

図 9 CSS の活動風景

(4) 参加者インタビューの結果

CSS の成果を抽出する目的で簡易なフォーカスグループインタビューを実施した。被験者（調査対象者）の選定は、CSS に参加した児童、教師ならびにセーフティハウスの協力者である。この調査の対象は教師、CSS 教室に参加したことのある子どもとした。子どもの保護者へのインタビューも計画したが、保護者と接点を持つことが困難であったため除外した。簡易インタビューの結果を下表に示す。全体として児童のみならず、CSS に関わった大人（教師・セーフティハウス協力者）の多くが、ポジティブな反応を示している。得に地域の防犯力向上について好意的な意見が多いことが確認された。

表 15 簡易インタビューの結果

対象者	インタビューの結果（概要）
児童	・ CSS クラスに参加した子どもの 100%が、「少なくとも 1 人以上の知り合いに CSS クラスのことを話したことがある」と答えた。 ・ CSS クラスに参加した子どもの 53%が、「少なくとも 3 人以上の知り合いに CSS クラスのことを話したことがある」と答えた。 ・ CSS クラスに参加した子どもの 48%が、「CSS クラスを受けた後に、地域の中で危険と分かった場所に行くのをやめた」と答えた。
教師	・ CSS クラスを行った学校の教師の 53%が、「少なくとも 1 人以上の知り合い(自身の家族や 同一学校の同僚を除く)に CSS クラスのことを話したことがある」と答えた。
セーフティハウス	・ 地域の子ども大切にしたいと考える人は多い。 ・ セーフティハウスオーナーは、一般市民の中では比較的警察に対して好意的な人が多い。地元で生まれ育った人や知り合いに警察官がいる人がセーフティハウスを引き受けるケースが多いためである。一方、セーフティハウスの

対象者	インタビューの結果（概要）
	中にも警察を嫌っている人もいる。 ・ セーフティハウスオーナーを務めると、警察への好感度が上がる傾向はある。 ・ セーフティハウスのオーナーでコミュニティを作るのは負担に感じるオーナーが多いが、学校に行ってセーフティハウスについて子どもに話す程度なら協力をしてもいいと考える人が多い。

上記から、CSS に参加した児童の多くが全ての児童が、家族などの知り合いに CSS の感想を話したことがあると回答している。このことは、CSS が好意的に受け入れられていることの証左と考えることができる。また、参加した子どもの約半数が、地域の中で危険と判断される場所に CSS の受講後にその場所には行かないようにしている、と回答しており指導の内容が効果的に伝わっていることが伺われる。一方で、地域の安全性についての懸念も存在していることを示唆している。CSS を実施した学校の教師の過半が、自身の家族や同僚を除く知り合いに CSS のことを話したことがあると回答している。このことから、CSS が教師たちにとって有益であると認識され、その価値が広がっていることを示唆している。

また、セーフティハウスへの協力者の意見を総合すると、セーフティハウスは地域の子どもたちを大切にしたいと考える人たちに広く受け入れられている。協力者の多くは地元で生まれ育った人で、警察官を個人的によく知っている人も多く、警察に対して好意的な傾向がある。しかし、中には警察を嫌っている人もいることが分かった。セーフティハウスに協力することを通じて、警察への好感度が上がる傾向も見受けられる。協力者の中には、地域コミュニティへの貢献や参加に負担感をもつ人もいるが、引き続き協力することに好意的な人も見受けられた。

2-5-7 成果 3 に関する活動の達成状況

(1) TAPP 承認の遅延が展開計画におよぼす影響

成果 3 の展開計画作成は、成果 1 と 2 から得られた実績等をもとにプロジェクトの持続性を確保するための計画をまとめる業務である。本プロジェクトは、TAPP 承認の遅延により、成果 1 と 2 から目に見える成果やアウトカムを BDP に示すことも、大きく遅延する結果となった。成果 3 の活動の多くは、成果 1 と 2 の実践や結果の分析があって初めて働きかけができる。そのため、やむを得ず PDM に定義された活動とは異なるアプローチも採用しながら、活動の終盤に得られた成果を持続的に展開するための働きかけを行った。なお、JCC や PIC など通常 PHQ に設置される協議体も置かれなかったため、交渉を得る相手も限定されたものにならざるを得なかった。また、TAPP 準備以前に策定された当初の実施計画（PDM Ver 0）では、BPA で SP&M 研修を実施することを想定し、活動完了後は全国で実施するための計画を検討し PHQ と協議することとしていた。しかし実際には、全国で複数の研修機関を会場として実施することとなり会場の数はまだ限定されているものの、ほぼ全国で SP&M 研修を実施することとなった。

(2) SP&Mに関する現状分析のレビュー（活動 3.1）

第 1 期の調査において、BPA 等の研修施設において実施される既往の研修をレビューした。また、第 2 期以降も複数回にわたり実施した BDP に対する聞き取り調査や教材開発のための協議から、BDP の SP&M やその近接分野の業務や、研修について全体像をつかむことができた。その概要の多くは、第 1 期の報告書に詳しい。その概略は以下のとおり。

バングラデシュの都市部は人口密度が非常に高く、わずかな混乱やトラブルが、伝搬して大きなトラブルになる可能性があり、日本とは異なる背景がある。バングラデシュの警察組織には、警備を所掌する専門部局が未分化で、治安維持を目的として緊急対応を行う専門部隊が複数存在している。例えば、日本の機動隊のような治安維持部隊（Public Order Management）、緊急行動部隊（Rapid Action Battalion）、産業警察（Industrial Police）などがある。これらの部署は、政治活動、祭礼など、リスク事案に投入されることがある。また、騒擾や暴動などの幅広い暴力的な状況に対応するため、時には実力行使を伴う力による鎮圧をすることもある。力の行使の仕方は、許容する力の尺度は、日本とは大きく異なる。しかし原則は固有の状況や情勢のリスクの大小に応じて、ソフトな対応から強い力の行使まで、様々な手段を用いた対応を行っていることは両者とも同様である。

BDP の治安維持活動は、オペレーション部局が所掌している。指揮官は、大きな問題やトラブルになる前に早めの対応を求められるため、致命的な力ではない武器（放水、催涙弾、ゴム弾等）の使用も許可されている。しかし、ときに過剰な対応へとエスカレーションする可能性があるために、常に批判にさらされている。これに対して日本では、事態の発生予防に重点がおかれ、イベント開始前の広報や早期の交通規制、規制線による物理的隔離・ゾーニングなどの手法が活用され、致命的な力の行使に至らないソフトな規制を最大限活用することが重視されている。この点は、BDP の治安維持部隊の対応との比較で、特徴の一つと考えられる。BDP の警備計画では、重要人物の警備に特別の配慮が行われていて、要人警護の計画では一般人との分離が強調されている。

BDP では、本プロジェクトが意図するような警備計画立案の多くが、指揮者や計画者の経験や勘を基礎とするなど、属人的な手法により行われており、客観性や再現性に欠ける傾向が見受けられた。

(3) プロジェクト終了後の全国展開の可能性検討（活動 3.2, 3.3, 3.4 および 3.5）

全国展開の可能性検討は、TAPP 検討の段階で、BPA に会場を固定して実施する計画案を棄却した。そのため、当初計画していた実際の施設や敷地などを利用した研修手法を取りやめ、図上での警備計画策定を行うこととした。これに伴い、必要機材の選定も軽量なものに絞り、比較的小さな研修施設でも、教室が確保されれば実施可能な内容や手法に変更した。その結果、BPA で計画していた研修よりも、展開が容易な研修となった。

(4) コストの分析（活動 3.6）

SP&M 研修を実施するためのコスト分析は、2023 年 1 月以降 TOT と SP&M 研修が開始されてすべての費用計上が確定することにより、最終的な費用を算出することができた。コスト分析

には、算定するために包含する様々な費目をどのように計上するかなど、いくつかの条件を考慮して検討した。概算の費用を表 16 に示す。これによると、SI 級は、一人当たりの育成に 17,716 タカ、ASP 級は今回日本側が特例で負担した宿泊費を含め、27,216 タカと算定される（5 日分の宿泊費・食費・交通費を含む）。マスタートレーナーには、謝金・宿泊費として 75,000 バングラデシュタカ（BDT）が必要となる。いずれも交通費は含まれていない。

表 16 一人当たり研修経費（BDT）

区分	謝金	宿泊・食費	文具・消耗品	講師	合計
SI 級		9,000	5,716	3,000	17,716
ASP 級		18,500	5,716	3,000	27,216

(5) 活動継続のための働きかけ（活動 3.6 および 3.7）

2022 年 11 月から 12 月に PHQ との間で実施した折衝では、TAPP の承認の有無に関わらず、プロジェクトのすべての活動を実施することと、プロジェクトの活動を 2023 年 5 月末に終了することにも合意した。併せて、本プロジェクト終了後も得られた成果（SP&M 研修、JCPA と CSS を含む地域警察活動の実践等）を継続実施するための方策（持続性の確保のための交渉）も協議を行った。その結果、以下のような進捗や確証を得た。

終了後も本プロジェクトの活動を継続するため、内国予算（Revenue Budget）確保の交渉は、SP&M 研修をインサービス訓練として実施するため、2023/2024 会計年度の予算に計上されていることが確認された。

次に技術移転の受け皿の確定を進めた。本プロジェクトは C/P 確定が不明確なまま専門家主体で実施したため、通常の技術協力プロジェクトでは自明な諸点も確認した。SP&M 研修の継続は人事部門の教育・訓練部局が、整備された教材等の受け皿となり、引き続きインサービス訓練として実施されることを確認した。成果 2 の地域警察活動（JCPA と CSS）の継続・発展は、オペレーション部門のビートポリシング担当部局が受け皿となることを確認した。

成果 2 は、教材開発と内容確定の各段階で、PHQ 各部局の関係者を招集して、関係部署からの意見聴取や合意形成を行った。またパイロット活動にも、プロジェクトから非公式に DMP の関与を依頼するなどの働きかけも行った。これら成果 2 の活動は新たな活動を開発したのではなく、ビートポリシングの「本来活動」に位置づけられるものを紹介した。これは、現在 BDP のビートポリシングが実施する所轄警察署で行われた住民との対話集会（オープンハウス）の延長線上で、地域協力や防犯活動の幅を広げるために紹介している。そのことを強調し、PHQ のオペレーション部局のビートポリシング担当を受け皿として、今後の展開研修実施や普及と展開を働きかけた。

なお、これら折衝は TAPP 承認前に非公式に行ったもので、巨大な官僚組織である BDP に浸透するのは容易ではない。そのため、2023 年 5 月 22 日に実施した本プロジェクトの普及セミナーの場において、プロジェクト完了後の研修や活動の継続と技術協力成果品の活用の働きかけを行った。

(6) 普及セミナーの開催

バングラデシュ現地での全てのプロジェクト活動を終了するに当たり、BDP と JICA の関係者等を集めた普及セミナーを、2023 年 5 月 22 日に警察本部で開催した。本セミナー開催の目的は、技術協力プロジェクトの正式な JCC・PIC を代替する公式なものとして JICA、バングラデシュ警察関係者およびプロジェクトの実施関係者や受益者など約 70 人が参加した。その内容は、2019 年 3 月から約 4 年にわたり実施してきたプロジェクトの成果や達成度の報告、活動や得られた成果の継続・発展に向けた方策についての意見交換、ならびにプロジェクトの終了の確認などである。本セミナーの開催概要を表 17 にまとめた。

表 17 普及セミナー概要

項目	概要
日時	2023 年 5 月 22 日（月）午前 11 時～午後 1 時
場所	バングラデシュ警察本部 長官会議室（Hall of Pride）
出席（BDP 側）	バングラデシュ警察長官（Inspector General of Police） Addil. IGP（総務、調達、オペレーション、財務の各担当次長、警察幹部学校（PSC）校長）、その他プロジェクト関係者 DMP（グルシヤンおよびモティジール方面関係者・所轄署長等） SP&M 研修トレーナー、受講者
（日本側）	JICA バングラデシュ事務所長、次長、プロジェクト担当、ナショナルスタッフ、専門家（総括／組織体制強化、副総括／人材開発強化、警備能力強化（全体計画）、警備能力強化（犯罪防止）、業務調整・研修管理）
（受益者）	CSS 関係者（学校長、児童）、JCPA 関係者（コミュニティリーダー）等
目的・内容	事業概要の説明（協力期間、目的および成果、研修計画（対象者・実施スケジュール）、投入実績等） 成果の確認（TOT、SP&M 研修の成果等） プロジェクト関係者（SP&M 研修講師からの報告、受益者コメント） プロジェクトからの提言・謝辞 警察次長からのコメント JICA 事務所長メッセージ 警察長官メッセージ

プロジェクトからの結論と提言には、以下の 2 点を示した。(i) COVID-19 など予見できない多くの困難を相互に克服し目標の研修を完了できたことは、BDP と JICA 相互の重要な資産の一つとなった。この成果の発展を深化・発展することを希望する。そのために、紹介した SP&M とビートポリシングとを統合した実施体制を提案してきており、その実現を希望する。(ii) また、案件から生み出した成果である研修が継続され、警察関係者が紹介した新しいアプローチに触れ実践されることを強く希望する。

JICA から BDP に対するコメントは、(i) 本年が両国の政府開発援助 50 周年にあたる時に警察との初の技術協力に成果をあげることができた点が意義深い点を強調した。特に JICA 関係者・同プロジェクトならびに日本人への日常生活ならびに投資環境の安全確保に対する BDP が果たす重要性和本プロジェクトの意義が述べられた。さらに、(ii) 35 人のマスタートレーナー育成、

2,511 人の訓練達成、地域警察活動の新しいアプローチの紹介（成果 2 の JCPA と CSS）により、バングラデシュに安全な社会をつくる点で新しい方法を紹介することができた意義、その継続・発展への希望が述べられた。最後に(iii) 提供した技術コンテンツや教材等（研修用のジオラマ、地図、テキストや動画類）の活用について、マスタートレーナーによる研修継続・深化、地域警察活動においてビートポリシングでの正式な採用・普及を希望することが表明された。

これらの提言・コメントに対する IGP からの意見は、(i) 研修により多くの支援（JICA 側の技術協力に対する多額の資金負担、35 人のマスタートレーナーと 2,511 人に対する警察人材の能力強化への貢献等）への謝辞が表明された。次に、(ii) バングラデシュ側の催事や祭礼などの大型イベントへの警備ニーズに合致したことの意義が述べられるとともに、(iii) ムジブル・ラーマン初代大統領が強調した警察と国民の関係構築に寄与する、地域警察の新しいアプローチに強い関心を持ったことが述べられた。受益者に児童が来ていることも踏まえ、バングラデシュの将来を担う児童と警察の関係の向上に寄与するもので非常に意義があるとの感想が表明された。このように、BDP と JICA との初の技術協力が成功したことを踏まえ活動を継続したい、との意見が述べられた。最後に、(iv)、今後は BDP と日本の警察庁との関係構築も進めていきたいため、JICA の変わらぬ支援をお願いしたい、との希望が表明された。

本セミナーは、プロジェクトの成果の報告などの全ての議事を終えるとともに、日本側から BDP 側に教材等の技術協力成果品を献呈して閉会した。



図 10 普及セミナーの様子

2-6 成果の達成状況

2-6-1 成果 1 にかかる指標とその達成状況

「成果 1：警備（SP&M）にかかる訓練プログラム（研修）が整備される」は、表 18 の各指標に沿った達成状況を示したように、3 項目全ての指標を満足し全体として完了した。

SP&M 研修は、対象 2,500 人を 10 人 1 組の小グループで共同して警備計画を作成した。このため、本プロジェクト完了時点で、250 ケースの警備計画が作成された。また、従来の計画で想定したモデルサイト選定のうえ実習を行うことによるモニタリングレポート作成の代替として、

SP&M 研修の場で、課題として提供されたシナリオに沿った組織・所掌を示す文書が 250 ケース作成・提出され、研修修了までにその内容をマスタートレーナーが確認した。研修全体として 2,511 人の現職警察官に、実務的な研修コンテンツによる実践的な研修が提供されたこともあり、成果 1 の指標はすべて達成したと考えられる。したがって成果 1 は達成した。

表 18 成果 1 の達成状況

指標	指標入手手段	評価結果
1 警備（SP&M）にかかる訓練プログラムが整備される。		
1.1 ガイドライン／マニュアルに基づく警備（SP&M）計画の数。	1.1 警備計画	【完了】 2,512 人の受講者が警備研修を完了。すべての研修を終えると、プロジェクトは全部で 250 種類の異なる警備計画を受講者から受け取る。 従前の PDM では、モデルサイトを選定して実習を行うためモニタリングレポートが作成されることを想定した。SP&M 研修を通じ、警備計画を構成する人員配置と所掌を記載し、運用をモニタリングする文書が、全ての班が作成され計 250 枚が提出され、その内容を講師が確認した。
1.2 警備パトロールの状況に関するモニタリングレポートの数。	1.2 モニタリングレポート	
1.3 警備パトロールに関するモニタリングレポートの提出数。	1.3 モニタリングレポート	

2-6-2 成果 2 にかかる指標とその達成状況

成果 2 安全意識向上のための効果的なモデル提示について、2 つの指標が定義され、それぞれが達成されたと考えられる。

1 つめは CSS に対する指標で、6 人の警察官がマニュアル／ガイドラインに従って CSS 一連の業務を独力で範示することができるようになった。この達成の確認は、専門家が現場で実際に確認し、DMP から指名された 6 人の警察官（マスタートレーナー）が各小学校で CSS の活動を実施していることを確認することができた。このことから、マスタートレーナーの育成は完了したと考える。2 つ目の指標は JCPA に対する指標で、最低でも 30 人のコミュニティリーダーがビートオフィサーと一緒に合同犯罪防止活動に参加することである。サブジバグ警察署の 6 つのビートエリアの巡回警察官と共に 30 人のコミュニティメンバーが、犯罪防止活動に従事したことを確認することができる。これらの実績から、成果 2 の「安全意識向上のためのモデルの提示」は、JCPA と CSS の活動それぞれが完了したものとする（表 19）。

表 19 成果 2 の達成状況

指標	指標入手手段	評価結果
2. コミュニティを基礎とした安全意識向上のための、効果的なモデルが示される。		
2.1 最低でも 6 人の警察官がマニュアル／ガイドラインに従って CSS 一連の業務を範示することができる。	2.1 完了報告書	【完了】 プロジェクトは、CSS の「マスタートレーナー」として 6 人の警察官の研修を終えた。彼らは専門家の支援なしで活動を実演することができる。

		DMP のグルシヤン管区内の 3 警察署（Badda, Bonani, Gulshan）に所属する警察官計 6 人をマスタートレーナーとして訓練済。 各警察署所轄区域内の計 6 校で CSS をそれぞれ 4 回（児童に対するセッションは各 3 回）実施した。											
		<table><tr><th>警察署</th><th>学校名</th></tr><tr><td rowspan="4">Badda</td><td>Bhola Govt. Primary School</td></tr><tr><td>Uttar Purba Badda Govt. Primary School</td></tr><tr><td>Shatarkul Govt. Primary School</td></tr><tr><td>Badda Govt. Primary School</td></tr><tr><td>Gulshan</td><td>Shajadpur Gov. Primary School</td></tr><tr><td>Bonani</td><td>Abdul Hamid Dorji Govt. Primary School</td></tr></table>	警察署	学校名	Badda	Bhola Govt. Primary School	Uttar Purba Badda Govt. Primary School	Shatarkul Govt. Primary School	Badda Govt. Primary School	Gulshan	Shajadpur Gov. Primary School	Bonani	Abdul Hamid Dorji Govt. Primary School
警察署	学校名												
Badda	Bhola Govt. Primary School												
	Uttar Purba Badda Govt. Primary School												
	Shatarkul Govt. Primary School												
	Badda Govt. Primary School												
Gulshan	Shajadpur Gov. Primary School												
Bonani	Abdul Hamid Dorji Govt. Primary School												
2.2 最低でも 30 人のコミュニティリーダーがビートオフィサーと一緒に合同犯罪防止活動に参加する。	2.2 完了報告書	【完了】 -サブジバグ警察署管轄区域内で、2023 年 2 月と 4 月に、公共と警察による官民合同の犯罪防止のための街頭活動が実施された。 - この活動には、サブジバグ警察署地域警察担当警察官 3 人と犯罪捜査担当シニアオフィサーを含む、合計 18 人の警察官が参加した。 - 同じ管轄区域内の 6 つの巡回区域から、計 30 名の地域リーダーが選ばれ、同年 4 月 29 日に訓練を受け、活動に参加した。 - JCPA の活動により、サブジバグ警察署の 6 つのビートエリアの巡回警察官と共に、計 30 人のコミュニティメンバーが活動に参加したことが確認された。											

2-6-3 成果 3 に関する指標とその達成状況

成果 3「施設を警備するための開発計画が準備される」の達成状況は、TAPP の大幅な遅延によって、BDP 側が日本側の支援を日常的に受ける体制を公式に設けることが困難な状況が継続した。しかし、成果 1 と 2 の活動実績を示すことにより、プロジェクト終了後の活動継続について非公式な折衝を繰り返し行い、表 20 および 2-5-7 に示した、終了後の展開計画についての議論を行った。

表 20 成果 3 の達成状況

指標	指標入手手段	評価結果
3. 施設を対象とした警備向上のための開発計画が準備される。		
3. 展開計画が策定される。	展開計画の提示	【完了】 警察側に展開計画を提示。 TAPP の大幅な遅延により警察側が日本側の支援の受け皿を設けることはできなかった。しかし、非公式な折衝を繰り返しおこない、議論を積み重ねて来た。

2-7 プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標の各指標に対する達成状況は以下のとおり。

2023/2024 会計年度の予算が確保されるため、各地の研修センターにおいてインサービス訓練として、SP&M 研修を継続実施する予定である。この際プロジェクトが準備・提供した SP&M 研修の教材（ガイドライン／マニュアル類）が公式に採用される。なお、教材の最終版は PHQ に提供済である。PHQ は SP&M 研修の他、JCPA と CSS からなる地域警察をビートポリシングの有効な方法として全国に普及するため、PHQ のビートポリシングの部署との協議を行う。また、これらを広く活用するため、活用するための通達を発出する予定である。

表 21 プロジェクト目標の達成状況

指標	指標入手手段	達成状況
プロジェクト目標：バングラデシュ警察の警備体制が強化される		
1. 警備（SP&M）にかか るガイドライン／マニ ュアルがバングラデシ ュ PHQ から承認される	1. マニュアル・ガ イドライン	【完了】 SP&M トレーニングの教材類は、包括的で明確 で、分かりやすいものになるように細心の注意 を払って作成された。これらは最終化を 2023 年 3 月末までに完了して、PHQ に提出されている。 この SP&M トレーニングの教材類は、次財政年 度 FY2023-24 の研修予算に実施されるインサー ビス訓練で使用されることから、正式に承認さ れたものとみなすことができる。
2. 最低でも 2,500 人の、 新任あるいは昇格した 警備補、警視補が訓練 プログラムを履修し、 警備（SP&M）システム に関するガイドライン ／マニュアルに基づい た BDP 所定の修了基準 を満たす。	2. 研修記録	【完了】 2023 年 5 月末の時点で 2,511 人の警察官が SP&M 訓練を受講する。 - 合計 2,511 人の警察官が上記研修の修了要件を 満足し、修了証を授与された （参考）2023 年 5 月 18 日完了時の実績 ・ PSC ダッカ：500 人 ・ DTS ダッカ：876 人 ・ BPA ラッシャヒ：517 人 ・ PTC クルナ：188 人 ・ Police Line（PL）チッタグラム：281 人 ・ Police Line（PL）シレット：149 人 ・ 全会場（合計）：2,511 人（ASP 級 500 人、SI 級 2,011 人）
3. 最低でも 1 所轄署管内 の 6 つのビートエリア で、JCPA が採用され る。	3. 完了報告書	【完了】 6 つのビートエリアで JCPA が採用される。 PHQ は、全ての地域警察を管轄する部門に対し て、JCPA と CSS をビートポリシングの有効な方 法として活用することを通達する。
4. 最低でも 3 カ所の所轄 警察署管内の、6 つの学 校が CSS を行う。	4. 完了報告書	【完了】 6 箇所の学校で CSS が採用される。 PHQ は、全ての地域警察を管轄する部門に対し て、JCPA と CSS をビートポリシングの有効な方 法として活用することを通達する。

第3章 本邦研修

3-1 背景

3-1-1 本邦研修の計画

本邦研修は、BDP の警備に関する能力向上を目的として計画された。本研修は警察の高級幹部の中で、将来本技術協力プロジェクトに関わる人材のうち、関係部署長を優先して選抜し対象として実施することとした。本研修は日本の警察機構の組織管理、教育システム、対テロ対策に関する項目に関して講義と視察を中心に実施した。参加者は日本の警備業務に関する議論を通じた理解のための機会を提供した。

当初の実施計画で日本側は、表 22 に示すように第 1 期・第 2 期に各一回ずつ、合計 2 回の本邦研修実施を予定していた。この計画により、2019 年 7 月に第 1 回目の本邦研修を実施した。しかし 2020 年初頭からの COVID-19 による渡航延期や TAPP 承認遅延により、第 2 回目の本邦研修は見送られた。

表 22 本邦研修(実施計画)

第 1 期：主要テーマ/警備体制と人材育成制度（10 日間）		
目的	内容	参加者
日本の警備体制と警備に関する人材育成制度	日本の警備体制：日本の警察、民間警備会社の警備に関する体制、取り組みなどを学ぶ。 警備に関する人材育成制度：日本の警察、民間警備会社の研修施設の視察などを通して、警備に関する人材育成制度を学ぶ。	PHQ、DMP、管区警察における警備担当部署の幹部警察官 BPA、PSC、警察訓練センター職員 計 15 人
第 2 期：主要テーマ/警備現場の視察（10 日間）		
目的	内容	参加者
日本の警備現場の視察	警備現場の視察：施設警備、地区警備など、日本の警備現場を視察し、警備の実践、モニタリング、品質管理、官民の連携、人的警備と機械警備の融合の状況などを学ぶ。	PHQ、DMP、管区警察における警備担当部署の幹部警察官 モデルサイトの警備責任者 計 15 人

本稿では 2019 年 7 月実施の本邦研修（第 1 回）について報告する。

3-1-2 本邦研修の名称

研修の公式な名称は、「日本の警備とその人的資源開発」である。

3-1-3 研修の目的と習得目標

この研修の目的は、「参加者は、日本の民主警察に接することを通じ、警察業務における課題を明らかにするとともに、これに対応する対策を提示する。」である。

習得目標は以下のとおり。

この研修を修了した参加者は、以下の各項目を満たす。

1. 日本における警備分野の官民パートナーシップの事例について説明することができる。
2. バングラデシュ警察における対処能力向上のための課題を説明することができる。
3. 日本の警察組織が実施している警備の特徴を把握する。

3-1-4 本邦研修の実施期間

本研修の実施期間は、2019年7月20日から2019年7月29日までである。

3-1-5 参加者

本研修には、バングラデシュ警察本部次長（総務および運用担当）を団長として計14人の警察関係者が参団した。（添付資料の参加者リスト参照）

3-1-6 実施体制

本研修はJICAの以下の体制により運営・実施された。

- JICA バングラデシュ事務所から派遣された職員がすべての研修に参加
- JICA 東京から研修責任者が参加し、運営管理全般を担当
- JICA から研修監理員2人が参加し、通訳と併せて研修参加者に対するロジスティック支援全般を担当した。

技術協力専門家チームからは以下の専門家が参加し、それぞれの専門性を生かして視察/講義/ワークショップを運営、管理した。

- 総括/組織開発
- 副総括/人的資源開発
- 警備（計画）
- 警備（モデルサイト1）
- 警備（モデルサイト2）
- 警備（犯罪防止）
- 研修教材開発1
- 研修教材開発2
- 施設警備1
- 施設警備2
- 業務調整/研修管理

3-2 プログラム概要

3-2-1 日程

本邦研修の日程を表23に示す。

表 23 研修日程

時間	活動内容	摘要
第1日: 2019年7月20日(土)		
午後	ダッカ発 TG322	
第2日: 2019年7月21日(日)		
～ 6:55	羽田着 TG682	
第3日: 2019年7月22日(月)		
午前	ブリーフィング／オリエンテーション	
午後	視察1: ALSOK 東京ガードセンター 講義1: ALSOK が運用する機械警備システム (担当 ALSOK) 講義2: 日本における警備警察の概要 (ALSOK)	
第4日: 2019年7月23日(火)		
午前	警察庁 (表敬) 講義3: 日本の警備警察における対テロ対策 (警察庁)	
午後	視察2: 警視庁警察学校 講義4: 日本の警察機構 (警察大学校)	
第5日: 2019年7月24日(水)		
午前	視察3: 警視庁通信指令センター	
午後	視察4: 東京スカイツリー (重要施設の警備事例) 講義5: 日本の重要施設の警備の事例 (東京スカイツリー) 講義6: 運用および司令体系 (ALSOK)	
	ALSOK 本社 視察5: 機械警備用機材 (ALSOK 本社) 講義7: 官民協力/民間警備会社との協力 (ALSOK)	
夕刻	JICA 本部 (表敬) 警察庁主催レセプション	
第6日: 2019年7月25日(木)		
午前	(JR) のぞみ #213 (新大阪 11:33)	
午後	視察6: G20 サミット会場 (インテックス大阪) 講義8: 警備警察および官民協力 (大阪 G20 首脳会合)	
	(JR) のぞみ #176 (品川 19:03)	
第7日: 2019年7月26日(金)		
午前	ワークショップ (研修の振り返り) ワークショップ (将来計画、戦略定義)	
午後	ワークショップ (プロジェクト計画の策定) 閉講式	
第8日: 2019年7月27日(土)		
午前	報告書準備	
午後	視察7: 警備事例 (迎賓館)	
第9日: 2019年7月28日(日)		
午前	荷造り・チェックアウト	
午後	視察8: 最重要人物の警備事例 (皇居) 視察9: 交通規制・雑踏警備事例 (有楽町駅周辺)	
第10日: 2019年7月29日(月)		
午前	羽田発 TG661 (バンコク経由)	

3-2-2 研修カリキュラム骨子

表 23 により、参加者は下記 8 項目の講義を聴講することにより日本の警察庁、警察大学校および日本の警察における官民協力の現状について説明をうけた。

- 講義 1: ALSOK が運用する機械警備システム（担当 ALSOK）
- 講義 2: 日本における警備警察の概要（ALSOK）
- 講義 3: 日本の警備警察における対テロ対策（警察庁）
- 講義 4: 日本の警察機構（警察大学校）
- 講義 5: 日本の重要施設の警備の事例（東京スカイツリー）
- 講義 6: 運用および司令体系（ALSOK）
- 講義 7: 官民協力/民間警備会社との協力（ALSOK）
- 講義 8: 警備警察および官民協力（大阪 G20 首脳会合）

加えて、以下の施設への視察を通じ、日本における警備の現状を把握した。

- 視察 1: ALSOK 東京ガードセンター
- 視察 2: 警視庁警察学校
- 視察 3: 警視庁通信指令センター
- 視察 4: 東京スカイツリー（重要施設の警備事例）
- 視察 5: 機械警備用機材（ALSOK 本社）
- 視察 6: G20 サミット会場（インテックス大阪）
- 視察 7: 警備事例（迎賓館）
- 視察 8: 最重要人物の警備事例（皇居）
- 視察 9: 交通規制・雑踏警備事例（有楽町駅周辺）

研修実施時に提供される教材の多くはパワーポイントによるものである。また、いくつかの不リーフレットやチラシ類も適宜提供された。ほとんどの資料類は英文で提供されている。パワーポイント資料の多くは安全管理上の理由で紙資料としての提供はできなかった。

3-3 視察と講義

3-3-1 講義

各講義の内容は、設定した習得目標に沿ったもので適切なものと考えられる。終了後の質問票調査の結果、1 人が習得目標 3「3. 日本の警察組織が実施している警備の特徴を把握する。」にやや否定的な回答をしたことを除き、当初設定した研修の習得目標を満足したと回答している。

これら講義のうち特に、警察庁、警察大学校、ALSOK 東京ガードセンター、G20 サミット会場（大阪インテック）の視察・講義が有益だったと回答している。加えて、講義のなかで説明された官民協力がバングラデシュにおいて未開拓な分野であることについて多くの指摘があった。

いずれの講義もその内容と教材とにもよく準備され、かつ高品質なものが提供された。講師もその内容をよく知悉しており説明もよく練られたものだった。講義の多くが日本語で説明されたものだったが、研修監理員の通訳が適切だった。一部の講義が長時間に渡るもので、改善の余地がある。具体的には、ビデオ教材の追加や参加者による討論があればより効果的な運営となると考えられる。

リーダーを含む全ての参加者は、講義の機会に講師に対して多くの質問を投げかけており、参加者の高い参加意識が窺われた。

3-3-2 視察

本研修は、1 週間の短い日程にもかかわらず、東京スカイツリーや、ALSOK 東京ガードセンターや、大阪 G20 サミット会場など、それぞれ ALSOK が警備業務を行っている会場を視察することができた。参加者からは、各会場の監視システムと迅速に対応する業務メカニズムが高度に発達・発展していることに感銘を受けたように見受けられる。その他、警備に関する官民協力がどのように実施されているかの事例を視察する機会となった。

その他、参加者の多くが、日本の警察署と交番の視察ができればより効果的だったとの感想があった。大阪の G20 会合の会場視察は、非常に有意義であったものの、大阪まで日帰りで視察を行ったことは、忙しく、今後の研修実施について課題となるとの指摘もあった。

3-3-3 ワークショップ

7月26日には、警備業務に関する議論をするためのワークショップを開催した。この機会に本邦研修のすべての日程を振り返り、ここから得られる教訓や、バングラデシュでの業務についての適用可能性等について議論した。参加者は3つにグループ分けし、日本とバングラデシュの間の業務の類似点と相違点について議論した。この際、(1) ALSOK 東京ガードセンター、警視庁通信指令センター（ならびに BDP の国家緊急対応サービス（999））との比較、(2) 大人数の部隊運用（東京スカイツリー）と、BDP が実施しているダッカ市内のセクレタリアトとの比較、(3) 大規模イベント（例えば G20 サミット）などを取り上げた。

ワークショップ全体を通じ、参加者は議論に集中したそれぞれの意見をよく尊重した会合を行うことができた。ワークショップ終了後、各グループの発表が行われここから得られた知見・教訓を全体で共有することができた。

表 24 ワークショップの内容

時間割	項目	摘要
9:00～9:05	集合・アジェンダの説明	
9:05～10:00	本邦研修全体に関する質疑応答	全員
10:00～10:15	休憩	
10:15～11:30	講義・視察の振り返り	総括・副総括
11:30～12:30	BDP の現状・今後の活かし方検討	
12:30～14:30	昼食・休憩	
14:30～15:30	午前中の続き	総括・副総括
15:30～15:45	休憩	
15:45～16:00	基本的戦略の検討	総括
16:00～17:00	人的資源開発（教育訓練等）、警察資源の有効活用、 新たな方法の摘要、資金確保等	

3-3-4 研修期間および研修内容

企画された研修期間の長短は概ね適切または短縮する余地があるとの意見があった。一方、全体の構成により発言しやすい環境が提供され、また研修の進行スピードも適切との意見が多かった。さらには参加者の多くが高位の幹部級であったので、研修実施期間を長くすることには困難があった。ほぼ全員の参加者から 研修内容に不満はなかったが、一人の参加者から警察署と交番の視察を希望する意見があった。

3-3-5 教材、プレゼンテーション等

7 月 18 日に開催された出発前オリエンテーション開催の際に、「日本の警察 2018 年版」と「警備警察概要」の 2 冊の教材がすべての参加者に提供された。参加者の宿泊先ともなった JICA の施設（JICA 東京）は、研修会場として適切なものであった。ほとんどのパワーポイント資料は、秘密のものだったが、一部についてはデータで提供された。

3-4 教訓および知見の活用

3-4-1 研修から得られた教訓・知見

研修中の講義での質問・回答や、ワークショップ中の議論の積み重ねにより、多くの学びの機会を提供することができた。多くのやり取りのなかから得られた学習成果は以下のとおりである。

- 強力な業務管理能力と規律。人材と技術の活用。
- 治安維持のための犯罪防止と公共安全の確保および人材と技術的スキルの融合。
- 日本における地域警察の取り組み。
- 緊急時におけるサービス対応方法

- 技術と人材開発訓練の関係性
- 警備における官民協力システム

3-4-2 帰国後の教訓・知見の利用

参加者は、帰国後にバングラデシュ警察の直面する課題を特定することが期待されている。参加者は、帰国後に自分自身の行動計画を立案し、プロジェクトの活動に関係者に説明するとともに、日本で得られた知識とアイデアを活動に反映させることが期待されています。すべての参加者は、BDP 内の日常の業務部署において学習した成果を共有するとともに、日常の業務に応用することが期待されている。



図 11 ワークショップ実施風景

第4章 プロジェクトの評価

4-1 評価 6 項目による評価結果

4-1-1 妥当性

評価結果レーティング： ④高い

本プロジェクトは、バングラデシュの (i) テロや治安に関わる政策上の整合に加えて、(ii) BDP がその能力の向上に直接寄与する支援であり同警察のニーズにも合致している。また、(iii) 市民へのサービスや信頼性の向上に向けた高い適切性がある。これらは、詳細計画策定調査の時点に確認した事項と大きな変化がない。従って本プロジェクトの妥当性は高い。

(1) 当該国における公共安全および治安維持の現状と課題

「1-4 背景」に詳述したように、バングラデシュ国は、高い経済成長を続け、2024 年には国連の後発開発途上国 (LDC) リストを脱する見通しである。安定した経済成長を背景に、日本企業の進出も拡大しつつある。一方、2016 年 7 月のダッカ襲撃テロ事件も契機となり、BDP を中心に公共安全と治安維持の取り組みを一層強化している。

ダッカ襲撃テロ事件以降、BDP は、イスラム過激組織等に対する取り締まりを強化し、関係者への捜査や逮捕等を進め、公共安全や治安維持に高い自信を持っている。しかし、犯罪予防の観点からの警備・パトロール活動等について、幹部や現場の管理者は専門的・技術的アプローチ（適切な警備計画の策定、報告・モニタリング体制構築、施設警備と要人警護の要諦を結びつけた計画、計画者の知識・経験に依存しない計画手法）の面で課題を抱えている。また、警察に期待される役割や責任が高度化、複雑化する中で、効果的・効率的な警備・パトロール活動を確立する必要性は今後一層高まるものと考えられる。このことは、バングラデシュ政府が警察に期待する、「賢い警察¹⁰」の実現に寄与するものである。

(2) 当該国における公共安全・治安維持政策と本プロジェクトの位置づけ

政府の中期政策大綱である「第 8 次国家 5 カ年計画 (2020 - 2025 年)¹¹」は、法と秩序の確保を重視し、国内、国境の治安確保、麻薬対策とともに、全ての市民の生命、財産の保護に取り組むとしている。特に警察が、市民や企業などに、質の高いサービスを提供し、安全な投資環境の確保に重要な役割を果たす必要があるとしている。警察機能を強化するため、下表に示す取り組みを行うこととしている。

¹⁰ 2023 年 1 月 2 日にダッカ市内で開催された警察週間の首相講話で、「我々の目標は、知識、科学、技術に優れた効率的で世界標準の”スマートポリス”を構築することである」「司法機関に対し、国民への奉仕を通じて、人々の信頼と信用を維持するために努力するよう要請する」と述べている。URL= <https://www.deepl.com/ja/translator#en/ja/urging%20the%20law%20enforcement%20agency%20to%20work%20for%20upholding%20people's%20trust%20and%20confidence%20achieved%20through%20services> 2023 年 4 月 25 日閲覧

¹¹ General Economics Division, Bangladesh Planning Commission, 2020. Eighth Five Year Plan (July2020-June2025) on 29 December 2020. URL= <https://oldweb.lged.gov.bd/UploadedDocument/UnitPublication/1/1166/8FYP.pdf> 2023 年 4 月 25 日閲覧

表 25 バングラデシュ第 8 次 5 か年計画(警察関連事項の抜粋)

項目	内容
国内外での能力開発と近代的なトレーニングセンターを通じて、警察官の効率性を高める	国内での研修、ワークショップ、セミナーの開催により、警察官のスキルや能力を高めるための適切な取り組みが行われる予定。警察職員を海外に派遣し、最新の警察知識、ベストプラクティス、バングラデシュの最近の問題や課題に対処するための開発を習得させる。研修機関の能力向上と警察官の能力向上というイニシアチブを実施するため、適切な予算配分を行う。また、BDP の計 30 のインサービス訓練センター整備のため、インフラ、設備、輸送、情報通信技術 (Information and Communications Technology: ICT) の改善にも十分な取り組みを行う。インサービス訓練センターのファシリテーターやインストラクターは、能力開発プロジェクトを通じ、国内外で訓練を受講する。インサービス訓練センターは、現場レベルの警察官に知識、技能、態度の変化を与えるため最大限の活用を図る。既存の訓練センターは、トレーニング、インフラ、関連サービスの質について女性に配慮した施設とする。
犯罪防止と地域警察活動 (Community Policing)	地域社会と警察との信頼関係や相互作用を改善し、司法や人権へのアクセスを向上し、犯罪の恐怖を軽減するための対策がとられる。BDP は、地域警察活動のためのツールとして、ビートポリシングの手法を全国的に適用する。この取り組みをさらに強化し、市民のためにより良い警察サービスを提供する。特に、地域警察活動を通じ犯罪を減らすための解決策を見つける努力を継続する。地域警察活動は、(a) 地域警察活動フォーラム、(b) セクターごとのコミュニティ参加、(c) オープンハウスデー、(d) ビート会合、(e) 若者や学生の参加、(f) 学校・カレッジベースの啓発プログラム、(g) 集会、(h) 犯罪防止会議、(i) 犠牲者の再契約、(j) 戸別訪問、家庭訪問などの実用化を進める。
ジェンダーに配慮した警察活動の推進	政府は、公平で敏感な取り締まりと被害者の支援サービスを確保することで、あらゆるレベルで女性と子どもの権利を確保することを約束する。特に、警察サービスにおけるジェンダー差別を緩和するために、バングラデシュ警察を通じて女性警察戦略 (Women's Police Strategy: WPS) を策定する予定である。

出所：第 8 次国家 5 か年計画 (2020 - 2025 年度)

また、BDP はそのビジョンと使命に以下を掲げている。

バングラデシュ警察のビジョンは、有能で効率的かつ献身的な専門家が、質の高いサービスを提供し、市民の信頼と尊敬を集め、バングラデシュをより住みやすく、安全な場所にするものである。

バングラデシュ警察の使命は、「法の執行、社会秩序の維持、犯罪の恐怖の軽減、公共の安全の向上、地域社会の積極的な支援による国内治安の確保に尽力する」ことである。

これら長期的展望の下、BDP の「戦略計画書 (2018-2020)」¹²には、犯罪防止を最重要課題の一つに取り上げている。犯罪防止の取り組みは、窃盗や傷害・殺人に加え、過激派グループや、サイバー犯罪、マネーロンダリング、組織犯罪なども対象とする。戦略計画書では、「警備警察

¹² Planning and Research Section. Bangladesh Police. Bangladesh Police Strategic Plan (2018-2020) URL=<https://www.police.gov.bd/storage/upload/announcement/Ti2gb0NZMTWLpblqyGXDK00OyLgcRZNgaSi3kU0b.pdf>
2023 年 4 月 25 日閲覧 なお、本書は 2023 年 2 月現在最新版である。

¹³」を、BDP の最も重要な機能の一つとし、「多様な市民との交渉力と対話力・発信力、強制力を背景とした強い法執行力」を要する専門的な業務と位置づけている。表 26 に警備警察の具体的な目標と戦略を示す。

表 26 BDP の警備分野の戦略目標(2018-2020)¹⁴

項目	内容
警備警察の目的	訓練を通じ、高度な職業人が具備すべき態度により、人権と人間の尊厳を守り犯罪事案に対する準備と機動力を強化し、高い業務効率を達成しながら公的秩序を管理する。
戦略目標	-定期的な訓練を通じて、モチベーションを継続し、模範的な行動の実現や、相手の出方に応じた力の行使、対応力の強化 -警備に関する職務遂行綱領の策定 -警備要員の人員充足、ロジスティック、設備を強化 -適切な態度で警備活動に従事するためのガイドライン策定 -警備要員の適切な運用 -警備要員の待遇改善（休暇、宿泊施設、給食、娯楽施設など） -警備要員と情報機関や現場部隊との効果的な連携の促進 -警備に用いる武器の使用状況のモニター -メディアとの関係促進 -国民の憲法上の権利や基本的な人権に対する理解・配慮の向上

出典: Bangladesh Police Strategic Plan 2018 - 2020 pp. 7-8

近年のバングラデシュ社会では、警察への期待がより高度化しつつある。バングラデシュ政府は、2031 年までに上位中所得国、2041 年までに高所得国への移行を目指している。また、2024 年には後発開発途上国（LDC）からの脱却が見込まれている。このような経済成長を背景として、警察に対して、「法と秩序による統治」「テロ対策」などを推進し、良好な投資環境を作るための貢献も求められている。本計画案は、これら政策趣旨に沿ったもので、政府中枢が繰り返す「市民に優しい警察」の実現にも貢献するものである。

以上のように本プロジェクトは、BDP の警備能力強化を通し、公共安全と治安維持に予防面から貢献するものである。このように、本プロジェクトはバングラデシュ政府の取り組みに沿っており、高い妥当性がある。

¹³BDP と日本警察の警備警察の相違の一つは、警備業務を総合的に所掌する警備局に相当する部局が存在していないことが挙げられる。BDP の警備分野では、所掌する専門の部署・部局が未分化で、地域別（管区警察および都市圏警察）と機能別（特別局、鉄道、高速道路、特殊部局（入国管理）、武装警察、公安管理、即応部隊、産業警察）等の各部局が警備業務を担っている。また、各地域警察でも、暴動やテロ、催事にとまなう暴力行為などに対処するための実力部隊として、日本の機動隊に相当する、治安維持部隊（Public Order Management）を配置しているものの、警備全体を統轄する部局は存在しない。

¹⁴ BDP の戦略計画書は、2017 年に策定された 2018-2020 版が最新版である。"

4-1-2 整合性

評価結果レーティング：④高い

本プロジェクトは、日本政府・JICA 開発協力方針との間に高い整合性がある。また、バングラデシュ社会の治安維持や安全確保への寄与により、JICA 事業を始めとする投資環境の維持・向上につながることも期待される。したがって、本プロジェクトは高い整合性を有している。

(1) 公共安全および治安維持に対する我が国および JICA の援助方針と実績

我が国は、2016 年 7 月のダッカ襲撃テロ事件の発生を踏まえ、外務大臣のもとに「国際協力事業安全対策会議」を設置し、「在外邦人の安全対策強化に係る検討チーム」が点検報告書を作成した。これを受け、バングラデシュ政府と大使館、JICA は 2 か月に 1 回、安全対策協議会を開催しており、在外邦人や ODA サイト等に対する安全対策の強化について協議を重ねてきた。

バングラデシュ政府はその国家開発である、第 8 次 5 カ年計画（2020-25）の基本戦略に、「包摂、貧困と不平等の削減による繁栄の促進」を掲げ、労働集約的で輸出志向型の製造業主導による成長、農業の多様化、中小企業（小規模産業）のダイナミズム活用、近代的なサービスセクター、ICT ベースの起業家精神、および海外での雇用促進等を重点的な経済施策に位置づけている。

同国政府は、バングラデシュの公共秩序と治安分野の実効性を高めるため、警察は地域社会の積極的な支援を受け、法執行、社会秩序の確保、犯罪の恐怖の最小化、治安の改善、などの国内治安の確保に、組織として取り組むこととしている。特に、効果的かつ透明性の高い警察組織を維持することは、法の支配と刑事司法制度改善の基本として、組織改革、訓練強化による効率化、対テロ対策強化、科学捜査、犯罪捜査・運用・起訴の能力向上、犯罪防止・地域警察、ジェンダーセンシティブな警察、デジタル化、999 システム強化、サイバー犯罪防止、モデル警察署設置、CCTV 導入、人身取引防止、ロヒンギャ難民帰還等に重点を置くとしている。

我が国の対バングラデシュ国別開発協力方針（2018 年 2 月）によると、ODA の基本方針（大目標）として、同国の「中所得国化に向けた、持続可能かつ公平な経済成長の加速化と貧困からの脱却」を支援するとしている。14 年の日・バ首脳会談で合意された「包括的パートナーシップ」でも、持続可能かつ公平な経済成長による成長と貧困からの脱却を後押しするため、同国の経済活動の活性化と社会の脆弱性の克服への取り組みを支援する、としている。

同国の「中所得国化に向けた、全国民が受益可能な経済成長の加速化」と、「社会脆弱性の克服」のため、(i) 援助国・機関との緊密な連携により二国間援助の効果向上、(ii) 我が国の技術力の活用も視野に入れた案件形成に留意すること、(iii) ガバナンス改善のため、あらゆる分野の支援における政府機能の強化、行政サービス向上を図ること、(iv) 安全対策に細心の注意を払い、必要な安全対策措置を講じること―の四つの留意点を掲げている。本プロジェクトは、その形成の経緯から上記の留意点のうち、(iii)と(iv)の2項目に関連している。同国の「中所得国化に向けた、持続可能かつ公平な経済成長の加速化と貧困からの脱却」を支援するとしている。2014 年の日・バ首脳会談で合意された「包括的パートナーシップ」でも、持続可能かつ公平な経済

成長（sustainable growth with equity）による同国の成長と貧困からの脱却を後押しするため、同国の経済活動の活性化並びに社会の脆弱性の克服への取組を支援する、としている。

そのため、同国の「中所得国化に向けた、全国民が受益可能な経済成長の加速化」と、「社会脆弱性の克服」の2つの重点分野（中目標）を掲げている。さらには、(i) 援助国・機関との緊密な連携により二国間援助の効果向上、(ii) 我が国の技術力の活用も視野に入れた案件形成に留意、(iii) ガバナンスの改善のため、あらゆる分野の支援において、政府機能の強化、行政サービス向上を図る、(iv) 安全対策に細心の注意を払い、必要な安全対策措置を講じる、の4つの留意点を掲げている。本プロジェクトは、その形成の経緯から上記の留意点のうち、(iii)と(iv)の2項目に関連している。

(2) 展開計画との整合

なお、本プロジェクトの同国展開計画（Perspective Plan 2021-2041）において、小目標 2-3 行政能力向上のうち、行政能力向上プログラムに位置づけられており、「中央では、国家健全性戦略を支援し、行政のアカウンタビリティ確保を目指す。また開発事業予算の適切な計画プロセスの確立等、公共投資管理能力強化を通じ政府の調整機能の強化に取り組む。地方では、郡、市、中核都市の各地方自治体において、住民と地方自治体の「協働」の実現に向け、計画作成能力の向上、業務プロセスの改善、職員的能力強化等を実施し、地方自治体の行政サービスの実施能力向上とそれに伴う住民の生活向上に重点を置いた協力を実施する。併せて、地方自治体を管轄する中央政府担当部局の能力強化を図る。」としている。

(3) 持続可能な開発目標（SDGs）との整合

国連の持続可能な開発目標（SDGs）の1項目に「公正、平和かつ包摂的な社会を推進する」があり、「平和で包摂的な社会を構築するには、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、効率的で透明な規制と政府予算の投入が必要である」とする。紛争や不安定な社会では暴力や犯罪が広く見られ、人権保護や法の支配の強化が重要である。特に、「国内および国際レベルで法の支配を促進し、すべての人々に平等な司法へのアクセスを確保する」というSDGsの目標は、本プロジェクトに直接関連している。バングラデシュ警察は、この目標を達成するための主要機関の一つであり、プロジェクトは、より安全なコミュニティと市民の保護を実現することを目指す。本プロジェクトが計画通り完了することにより、2023年中に、64の地区から500人の警視級および2,000人の警部級の現職警察官が高度なSP&Mトレーニングを受講することになる。このことにより、バングラデシュ全土でより安全な地域が実現し、市民との協力により生命と財産がよりよく保護されることに貢献することができる。上記のように本プロジェクトは、バングラデシュ警察の警備能力強化やそのための人材育成を通してSDGs達成にも貢献するものである。

(4) 両国警察間の国際協力

日本国の警察庁は2005年9月、警察による国際協力の基本方針、その方向性と今後実施する施策を示した「国際協力推進要綱」を制定し、国際協力を積極的かつ効果的に推進している。

同要綱の基本方針は「国際社会との協調」「アジア諸国に対する戦略的な国際協力」「我が国警察の特質等をいかした主体的な国際協力」「警察職員の意識改革」「派遣職員の安全と健康の確保」を掲げる。その実施の方向性として「文民警察活動」「知識・技術の移転」「国際緊急援助活動」の3点を示している。本件は、上記のうち「知識・技術の移転」に該当し、日本警察の特質を生かし、JICA と協力して、知識・技術の移転による国際協力を目指すプロジェクトと考えられる。

4-1-3 有効性

評価レーティング：③比較的高い

本プロジェクトは、2023年5月末の完了時点で、各成果のそれぞれについて指標を満たしており、想定の水準を達成している。これらの結果、想定した正のインパクトの一部が生じ始めていることが確認できる。したがって、本プロジェクトはやや高い有効性を示していると評価することができる。

(1) 指標の達成度

本プロジェクトは、成果1「警備（SP&M）にかかる訓練プログラムが整備される」に規定された指標に基づいて、研修事業を継続実施中で、プロジェクトの現地作業完了予定の5月末までに、35人の講師（マスタートレーナー）を育成し、SP&M研修は、SI級2,011人、ASP級500人の合計2,512人を育成した。

成果2「コミュニティを基礎とした安全意識向上のための、効果的なモデルが示される」に関し、官民合同犯罪防止活動、CSSとともに所定のビートならびに学校に対する活動が実施され、それぞれ指標を満足している。

成果3「警備向上開発計画のための組織体制が整備される」に対しては、バングラデシュ政府の手続きであるTAPPの承認の大幅な遅延等により、BDPとの対話の窓口以外の実質的な技術移転や経験の定着先となる受け皿構築などを含む実施体制の構築不十分なまま実施期間を終えようとしている。このことにより、成果に示された組織体制が十分構築できたといえない。

(2) 成果品等を通じた達成度ならびに技術の受容の程度

それぞれの活動を通じて準備された成果品は、C/P機関の求めに応じて最大限の品質、ボリュームで制作されており、研修や地域コミュニティでの実践と合わせ、その技術の受容状況に鑑みて非常に高い。また、作成されたマニュアル・ガイドライン類（教材などを含む）は、BDPにとってそれぞれの分野における最初の書類・手引で、利用者向けにベンガル語で整備されている。また、警察内部でのこれら成果品類の位置づけについても、正式な研修図書として関係先との交渉を進めており、速やかに省内手続きを取る予定である。

表 27 成果品等のまとめ

項目	成果品・今後の予定等
CSS	1 警察管区、3 警察署、6 小学校での実施
官民合同犯罪防止	1 所轄署（サブジバグ署の 6 巡回区域）30 人の地域リーダーによるセミナー実施済、30 人の地域リーダー中心に 6 ビートでの実施（BDP と実施について基本了解済）
SP&M 研修にかかる指標	マスタートレーナー35 人育成（2023 年 1 月 15 日～24 日 BPA で実施済） * 2,511 人を対象とする研修実施完了
教材等の整備	SP&M 研修用教材および SOP（標準作業手順書） CSS 研修教材 官民合同犯罪防止活動用教材・配布物等／ビデオ教材 CSS ビデオ教材（警察官向け） 最終セミナー（2023年5月22日）
実施体制整備	上記研修および、所轄での実践にかかる実施体制等に関する提案を取りまとめる（受け皿確認済：バングラデシュ警察本部人事局（採用担当）） 年間研修計画等への収録・研修の継続・警備計画の「主流化」を図る
SP&M	SP&M 研修用の継続実施（全国 30 カ所の PTC×2×50 人×70%=2,100 人／年）
信頼性向上	通達による実施確保（既往の住民対話の拡充として：Open House の拡大）

技術的な視点からは、研修を受講した警察官は、警備にかかる能力の観点から、地域協力も包含した警備計画の重要性理解や、計画策定の分野において基礎的かつ実用的なスキルと知識の向上が確認できる。また、中堅職員に対して 2,511 人の警察官が受講するという事実から、プロジェクト目標である「バングラデシュ警察の警備体制が強化される」は計画の研修が予定どおり完了することを通じ、関連する技術・知見が将来の警察において警備計画策定のデファクト・スタンダードとなる可能性が高いことから、バングラ警察の警備能力向上における体制強化に貢献するものと考えられる。

4-1-4 効率性

評価レーティング：②中程度

全体としてプロジェクトの効率性は中程度と評価される。COVID-19 等による渡航制限など、予見できない事象に対して「案件を止めない、成果を最大化するために何を優先するか」という機構の方針に沿って柔軟に対応した。渡航再開後の研修実施場所を BPA から各地の訓練センターに変更にともなう契約変更も、この措置に対応するものだった。所与の協力期間に、SP&M 研修の受講者目標を満足したことに加え、同研修を全国で前倒し実施したこと、CSS の目標を上回る学校数など、資源を上手に活用して、成果を達成した。また、少なからずインパクトが出現しつつあり、全体調整や意思決定の困難さを克服し、所与の成果を挙げた。しかし、活動時期に大きな偏りが生じたことは否めず、投入資源を効果的に活用する面からも、大きな課題が残った。

(1) 予見できない事態への対応

実施プロセスでは、予見できない事象への対応の連続に忙殺されてきた。例えば、C/P 側の体制変更（長官の離任による人事異動と実施内容に対する疑義の表明）、パンデミックによる渡航制限、渡航再開後の C/P 側の訓練計画変更（BDP の採用計画・訓練計画変更、BPA の利用制限、全国巡回への計画変更）、TAPP 承認遅延による活動停滞・遅延など、いずれもプロジェクトに対する影響は大きなものであった。しかし JV ではプロジェクトへの影響を最小とするように、柔軟な対応を試みて来た。そのため、計画内容の見直し、人員の組み換え、活動時期の変更などにより、これらの問題に対処してきた。TAPP 承認が遅延するため実施体制を固めることができなかった。反面、検討期間が長期に及ぶこととなったが、複数の研修計画を検討することができたため、結果的に BDP の警備分野の課題についての理解を深めることが可能となった。従って、業務管理の観点から効率性の高低を評価することができず中立と評価される。

投入資源のうち、機材は当初提案したものとは大幅な変更を強いられた。パンデミックによる採用計画変更により、BPA での研修実施を取りやめ、大幅な計画変更となった。巡回での実施のため、X 線検査機などの大型機材を利用する研修が不可能となった。このことは、研修受講生一人当たりの機材関連コストの低下に繋がった。このことは、将来にわたる研修実施の障害（機材整備の必要性）なども勘案すれば、効率性を高めたと考えられる。結果的として、調達面から効率性の高い研修計画となったと評価することもできる。

(2) 一部活動の見送りと、全体への目配り

本プロジェクトは TAPP 承認前の実施合意から 6 ヶ月弱という極めて短い時間に終盤の実施段階の活動を集中して実施した。その一方、3 つの成果達成へのバランスを常に考慮して運営してきた。

後半に多くの作業が集中したため、多くの妥協も強いられた。例えば、成果 1 は、受講者のターゲットと目標の受講者数を維持する一方、予定していた中間レビューや、複数回の教材見直し、追加での TOT 実施や、評価手法等のセミナーなどを見送った。また、本邦研修も中止とする事業実施スケジュールとなった。成果 2 も、実施対象の学校数やコミュニティ数は維持したが、警察関係者等を視察に招聘することなど、本活動を関係者に周知させる活動の一部を見送った。BDP は今回初めて日本との技術協力を実施することから、「目に見える成果」を出すことに集中した。

一方、成果 2 の活動（JCPA と CSS）は、活動の時間が限定されているなか、BDP が目指す「人々に親しまれる警察」の実現に向け最小限の投資で実現できる目配りをもって実施した。

これらの 2 手法は、現在 BDP が所轄警察署において広く実施する「住民対話」のスキームを拡充し、警察と住民の対話のチャンネルを多様化する効果も期待できるものとして提案した。実施にあたっては、既存の組織、体制を生かすため最小の投入で実施可能である。PHQ 地域警察を所管する部署と各地の警察本部の認識を高めることにより、普及のための費用や手間も低く高い効率性を期待することができる。

4-1-5 インパクト

評価レーティング：④高い

全体として本業務のインパクトは、いくつかの条件を付して「高い」ものになることが期待される。なお、下記に示すインパクトは、現在実施中の活動を警察が自ら継続することが条件である。従ってインパクトの大きさは、別項目に述べる提言等に基づき、本プロジェクトの終了後も BDP が活動を継続することに依存する。後述のように TAPP 未承認のため、C/P のみならずプロジェクト裨益者である一般の警察官（バングラデシュ PHQ に在職する一部の幹部を除く）と、直接にやり取りや意見交換することに制限があり、本来インパクトを生じることにも貢献する活動期間が限定されていたことにも留意する。

(1) 上位目標「バングラデシュ警察の警備能力が向上する」達成によるインパクト

上位目標の達成によるインパクトは、(i) SP&M 研修の受講者自身が閉じた組織¹⁵と考えられること、(ii) 指導・受講した関係者のポジティブな反応を PHQ が正当に評価する、(iii) 成果 2 の地域警察活動の継続の度合い、に依存すると考える。

本プロジェクトが提供した SP&M 研修を受講した中間管理職以上の警察官のうちの多数の受講対象者が、本研修を早期に受講することにより、警察全体で本研修の取り上げた計画手法や、SP&M に係わる人員などの警察資源が効率的に利用され、広く普及することにより期待される。これら研修効果を主眼としたインパクトは、以下のように推定される。

表 28 SP&M 研修受講者数および知見拡散の推定

研修効果が受講者を通じて同僚・部下に伝搬する水平展開を前提に、以下を想定する。

- ・ SP&M 研修の受講者数は 2,511 人で、養成されたトレーナーは 35 人である。各人はそれぞれ所属先で多くの部下を有する、本部や地方警察等の管理者とする。
- ・ 合計 2,546 人の SP&M 研修受講者の半数（50%）が、それぞれ同僚や部下等の警察関係者に対して、SP&M 研修の経験・知見を伝える。その結果、合計で 1 人あたり 10 人の警察関係者が同研修から得られた知見を知り実践する。（その結果、 $2,546 \text{ 人} \times 0.5 \times 10 =$ ）12,730 人が、本研修から得られた経験や知見を受容する。

この推定から、202,652 人在籍していると言われる警察官（2023 年推計）の 5%が毎年継続して SP&M 研修の影響を受けると考えることができる。

また、上記に加えて PHQ は、今後 3 年から 5 年間にわたり SP&M 研修を継続して実施することを前提としたインパクトを試算している。

¹⁵ BDP における知識・技術の伝搬・普及を考える際の仮説として、BDP の組織が IGP を頂点とした上意下達組織で上位の管理者の指示・命令や意向が下位の人材に浸透しやすいこと、昇任・昇格における年次が重視される組織であること、さらに比較的終身雇用が浸透していて職員が長期のわたり雇用されている。これらから、研修等による知識・経験の移転が組織内部に定着しやすいことが期待されている。

表 29 研修受講者数の推定

(1) 前提条件

- SP&M 研修は、インサービス訓練として現職の警察官を対象に継続実施する。
- BDP は全国に 30 カ所の県インサービス訓練センターがある。
- 計算上、各県インサービス訓練センターは、年に 1 回その定例の研修メニューに採用する。その結果、2 セメスターとして前期、後期で、それぞれ 30 カ所ずつ合計 60 カ所が毎年同研修を実施する。

(2) 積算（推定）

- 各回 1 バッチを 40 人で運営する（プロジェクトと同規模）と、受講者は $30 \times 80 = 2,400$ 人/年となる。
- 上記 3～5 年間実施すると受講者累計は、7,200～12,000 人となる。
- 計算上、上記の 70%と仮定すると、3～5 年間の累計で 5,000～8,400 人が受講すると推定できる。

上記の場合、202,652 人の全警察職員のうち 190,471 人が法執行を許された宣誓司法警察官¹⁶である（2023 年 4 月末実績）。このうち、SP&M 研修の対象とした SI 級以上の警察官（中間管理者）と ASP 級（初級幹部警察官）の合計は、3 万 2 千人である。現時点での受講者数（2,546 人）は母数（32,000 人）に対し約 8%で、5 年後の累計 8,400 人を加えた 10,946 人が SP&M 研修を受講するならば、34%となる。一方、ASP 級に限った推計でも、在籍 ASP 級の総数 1,934 人に対して、受講済の 500 人は 25.8%を占める。これらの結果から、普及理論¹⁷で考える Early Majority である正規分布の 34%に迫る占有率を ASP は占めており、全受講者を対象としても 5 年程度で普及のしきい値を超える可能性が高い。これらから、SP&M 研修の成果を早期に普及するための戦略として、多数の受講生を対象としたことは適切で、研修を継続することで、さらに大きなインパクトを期待することができる。

(2) その他のインパクト

この他、本プロジェクトから生じたインパクトのうち、ここまでに確認できた例を示す。

(i) 効果的な体験学習機会

本研修のアプローチは既往の BDP の研修と比較して、既往の研修とは異なるアプローチであり、今後の警察における現職警官への訓練の手法として一定のインパクトを与えたと考えられる。

「この SP&M 研修は卒業のための筆記試験も、腕立て伏せもないけれども、
今までで一番記憶に残る研修だ！」
捜査訓練センター（ダッカ）での開講式における、マスタートレーナーあいさつより

従来のインサービス訓練の多くは、座学による伝統的・一般的な提供方法が一般的で、必ずしも受講者の興味を引きつけるものではなかった。「現実的な警備状況に基づく課題解決」の機会を提供する本研修は、所属の異なる受講者で構成されたアドホックなグループワークにより、複雑化する警備事案の課題を解決するという学習機会を提供する仕組みを含んだ。これにより、

¹⁶ 宣誓司法警察官は、法の順守と執行を誓約した法執行官で、法執行機関の正規の代理として勤務するために必要な訓練、身元調査、認定を受けて入職している。宣誓司法警察官には、逮捕権、銃器所持などを公務として執行する権限を有する専門職の警察職員である。

¹⁷ 例えば、Rodgers Rogers, Everett M. (1983). Diffusion of innovations (3rd ed.). New York: Free Press of Glencoe. ISBN 9780029266502.

受講者の組成が単一になりがちな一般の研修との比較で、「実務に直結する訓練」であり、より現実的な実践を擬似的に再現する研修機会は、在職者に高いインパクトを与えている。

(ii) 防犯環境設計（CPTED）の紹介（警備戦術）

従来の警備分野が実施する研修は、BDP の伝統的な警備戦術を反映し、重要施設や重要人物をリスクから遮断する戦術を主眼に置くものである。この流れで BDP の「公共秩序維持」など、広義の警備領域では公権力行使の判断基準が、他の多くの西側諸国とは異なる。そのため、BDP の力の行使は、時にメディアや人権団体等から、格好の批判の矢面に立つ場合がある。これに対して、SP&M 研修では防犯環境設計を基礎に紹介し、防犯や警備など警察業務に共通する重要分野であるリスクに応じたゾーニングを基本とする警備計画の立案と実践の体系を紹介した。従来一部の幹部を対象とした知見を、広く中間管理者以上の警察官に紹介するのは、BDP の研修においては、初めての取り組みである。

防犯環境設計は、警備分野のみならず地域警察など、犯罪防止の基本をなすものである。今回、本プロジェクトが空間計画と警察資源の効率的な利用を組み合わせた研修を BDP に提供したことは、同警察の将来の発展に向けても、技術的に重要な出来事であると考えている。

(iii) 現実的・実践的な課題解決の機会

(i)が比較的若手で現場経験を有しない学習者視点でのインパクトを述べたものであるのに対し、ここでは警備戦術におけるインパクトを述べる。従来から BDP が行う警備戦術は、重要施設の警備・防護に重点を置く「施設警備」と、主として重要人物を犯罪事案等から守るための「警護」とを、統合して実施・運用する機会が少なかったと考えられる。いずれの優先度に関わらず、一般市民のアクセスや利便を犠牲にしても、施設・人物の警備・防護を実現することに高い優先度が置かれていたように見受けられる。

この研修は、国際会議など一般の参加者も加え、重要人物も列席し重要施設で行われるイベントの運営が円滑に行われるように、より複雑・高度な課題を提示している。このような警備戦術を基盤とする警備計画の立案運用は、近年その国際的地域が上昇している BDP においても優先度が高い課題であると考えられ、これらの事案を提供した意味は小さくない。

(3) プロジェクト設計時には想定されていなかったポジティブおよびネガティブな影響

冒頭に記載したように、TAPP の承認を待つ間、プロジェクトから生じる便益が裨益する一般の警察官等と接する機会が、制限されてきた。そのため、活動から生じるポジティブ・ネガティブな意味のある大きなインパクトを見つけることができなかった。

なお、以下の諸点はマスタートレーナーなどバングラデシュ側警察関係者や、CSS 実施に関わった関係者からの聴き取りから得た情報である。いずれも、活動の実施時期から十分な時間を経ておらず、また情報提供者が限られていて、明確な検証ができない情報である。しかし、今後インパクトを計測するにあたり、参考になる視点・事例を提供するものとして本項に記載する。

(i) 警備手法の改善（マスタートレーナーからの聴き取り）

本年 2 月 21 日にバングラデシュ国内で開催された大型イベントで、SP&M 研修で紹介された動線とアクセスコントロールの手法が応用されたと理解できる来場者の群集整理と、ID カードによる来場者の識別を行った模様。このイベントの来場者識別手法（来場者毎に色別 ID カード配布）は、これまで BDP の実施例がないため、研修の内容を参考にしたものと思われる。

BDP の既往の警備分野の研修は、警備対象の図面や人員の配置を考慮するものではなく、過去に例のない方法を紹介したものである。今後インサービス訓練として取り上げられるのであれば、新しい研修方法を紹介・改善したもので、研修や警備計画立案に対するインパクトだと考える。

(ii) 安全意識の変化（学校の教師からの聴き取り）

CSS に参加した児童たちは、このプログラムを気に入り、防犯教室・教育が継続して行われることを望んでいる。学校側も、周辺のセーフティハウスのオーナーたちと連携し、安全・安心な環境を作るために防犯活動継続していきたい。また、学校側も CSS 活動を受け、毎週末のクラスミーティングと、月に一度行われる学校全体の集会で防犯教育を行うことを希望している。

(iii) 警察官に対する意識の変化（保護者達からの聴き取り）

これまで子どもたちに対し、「お行儀よくしないと警察官が来るよ」と、警察官を畏怖すべき対象にしつけをしてきた。今回 CSS への参加によって、警察官は頼れる存在になったと思う。これまでは悪い警察官の印象が強かったが、CSS 活動に参加し身近で警察官と時間を過ごしたことにより、警察官への良い印象をもつことができた。今後もこのような取り組みを継続することを望んでいる。

(iv) 地域の防犯活動への参加（セーフティハウスのオーナーからの聴き取り）

CSS への参加のあと、来店客に対して CSS 活動を簡単に説明する機会がある。将来は、小学校と連携して地域の防犯活動を広げていきたいと考える。以前は、商店主同士で防犯活動のような、地域社会があり具体的な取り組みもあった。最近では地域のコミュニティは消滅状態だった。今回 CSS にセーフティハウスオーナーとして参加した。今後は同様な考えを持つ人々と、地域の防犯活動に再び取り組んで行きたい。

4-1-6 持続性

評価レーティング：②中程度

本プロジェクトは、バングラデシュ政府の治安維持に関する政策・制度面から今後も研修実施を継続する蓋然性は高い。BDP の組織・人材育成ニーズから提供した技術が継続して使われる可能性が高い。財務面からは、当面の予算確保がなされているが、組織面では、技術の受け皿となる組織や裏付けとなる指示の発出等が今後に委ねられている。これらの各項目を総合的に勘案すると、本プロジェクトの持続性は中程度と評価する。

(1) 政策・制度面

BDP の本プロジェクトに関連する政策・戦略の方向性は継続される蓋然性は高い。バングラデシュ政府はその中期計画である「第 8 次国家 5 カ年年計画（2020~2025）」で、法と秩序の確保、国内、国境の治安確保、麻薬対策とともに市民の生命、財産の保護に取り組むとしており、担い手である警察の役割について、市民や企業に対して高品質のサービス提供、安全な投資環境確保の必要性を掲げている。その優先事項に、国内外での能力開発、訓練の充実、警察の効率運用、犯罪防止、地域警察活動（Community Policing）、ジェンダー（女性と子どもの権利）配慮などを取り上げ、いずれも本プロジェクトのカバーする領域と重なる。

(2) 組織・人材面

様々な機会にバングラデシュ政府中枢が強調する、市民に対する警察の評判や信頼、すなわち「市民に親しまれる警察」の達成に、長期にわたり寄与するものと考えられる。バングラデシュ社会において、公務員、特に警察は人気の職業の一つである。狭き門であるが、長期的な雇用の安定性があり、試験に合格すれば定年までの勤務が多い。そのため、研修で提供された技術や知見は長期間組織内にとどまる傾向にある。本プロジェクトで提供された技術や知見は、警察組織が事件や事案に対処する能力を向上させるだけでなく、市民やビジネスの警察組織に対する信頼性を高めることにも役立つ。このような現在の BDP にとって必要不可欠な分野についての認識を持った人材が、本活動が継続的に行われることにより、早期に警察組織内の大多数を占めることが期待される。

プロジェクト実施・継続のための組織や人的な受け皿は、TAPP 協議の遅れにより JCC や PIC が設置できず、一部幹部との協議に限定されることとなった。一方で、2022 年 10 月以降の TAPP 承認を得ないまま主要な活動を行う協議と並行し、地域を対象に活動の見通しが見えてきた成果 1 と成果 2 の活動を、どのように継続、展開するか協議（成果 3）を進めて来た。

JCC など技術協力の実施体制を整備することができなかったものの、フォーカル・ポイントを通じた、警察幹部・プロジェクト関係者と活動終了後の活動継続や展開計画を協議した。このことは、成果 1・2 の成果品、研修・現場の活動実績を警察側関係者に示すことが可能になり、協力の効果やメリットが見通せるようになったことが貢献した。その結果、研修については、人事部局の訓練部署が受け皿となり、警察内の在職職員向け研修（インサービス訓練）として実施することに合意した。

地域警察に関係する活動（成果 2）は、活動実績と成果品をもとに説明することにより、将来の受け皿となるビートポリシング担当部署との協議をおこない、口頭であるものの、同部署が実施する地域警察研修で取り上げることが約束されている。

(3) 教育・研修面

教育・研修面の持続性は、本プロジェクトが当初 BPA において育成をする計画だったものが COVID-19 など様々な予見不可能な経緯で、地方の警察研修施設で実施することになった。このことは、当初プロジェクト後に意図されていた SP&M 研修の全国展開が、プロジェクト実施期間中に前倒しで達成することになった。地方の警察研修センターは、プロジェクトを通じ、シ

ミュレーション方式による最新の警備研修をその研修メニューにとり入れることができたなど、研修の実施能力向上に対してポジティブな寄与をしたと考えられる。

一方、今回の各地での研修実施は、プロジェクト側から専従の研修コーディネータを雇用し、各研修機関の研修コーディネータとの調整を行った。研修コーディネータの雇用は、研修に必要なロジスティック業務を円滑に行うことに加え、配置されたマスタートレーナーを雑務から開放し指導に集中させる効果が大きかった。プロジェクト終了後は、各研修機関がこれら業務を行うことが必要である。上記 (2) 後段に述べたように、TAPP 承認を待たずに開始したことから、プロジェクト終了後の実施に責任を負う部門や、組織的な対応がなお不明確であることが、研修運営上の懸念として指摘することができる。

(4) 技術面

研修と地域警察の新しい手法を紹介する研修に対するマスタートレーナー、受講者、地域住民の反響等から、BDP にとって必要性の高い内容の研修が提供できた。また、研修内容は、現場への応用・適用が可能で、現場の課題である人的資源の効率的な運用、指揮命令系統の明確化、指揮者の特定の経験や知見に過度に依存せず再現可能な計画など、技術的な有効性の高い手法を紹介することができた。このことは BDP において本技術が長期にわたり継続することに貢献するものと評価できる。

(5) 財務面

警察予算は内務省が所掌していることもあり、過去にも情勢や優先事項の変化による方針転換や長期にわたる停滞等も経験してきたことから、将来にわたる資金の確保について確証を得ることができず、懸念を完全に拭うことが難しい。しかし、いくつかのポジティブな兆候もある。例えば、バングラデシュ政府は、第 8 次 5 カ年計画において、警察機能の強化に向けトレーニング関連に適切な予算配分を行うこととしており、引き続き警察予算の確保がされる蓋然性は高い。また、プロジェクト終了後の継続実施について、プロジェクトのフォーカル・ポイントとの交渉を実施し、SP&M 研修の継続と（内国）予算の確保、地域警察部門に対して JCPA と CSS をビートポリシングの本来業務として採用するための働きかけを行って来た。その結果、インサービス訓練として SP&M 研修を継続実施する考えが示されている。また、そのために 2023/2024 年の予算が確保されているという説明を口頭で受けた。その裏付けとしてから、2023 年 7 月から始まる 2023/2024 会計年度ではなく¹⁸、2024/2025 会計年度の研修計画に記載されるとの方向性が示されている。

¹⁸ SP&M 研修の実施が大幅に遅延したことから、2023/2024 会計年度の予算書（案）は提出済で、当該年度の研修計画への登載時期に間に合わなかったため。

4-1-7 評価結果のまとめ

これらを JICA 事業評価ハンドブック（Ver. 2.0）¹⁹に基づき評価した結果を表 30 に示す。それぞれの評価結果を事後評価の基準ならびに評価フローチャートに基づき総合評価を試みた（図 12）。

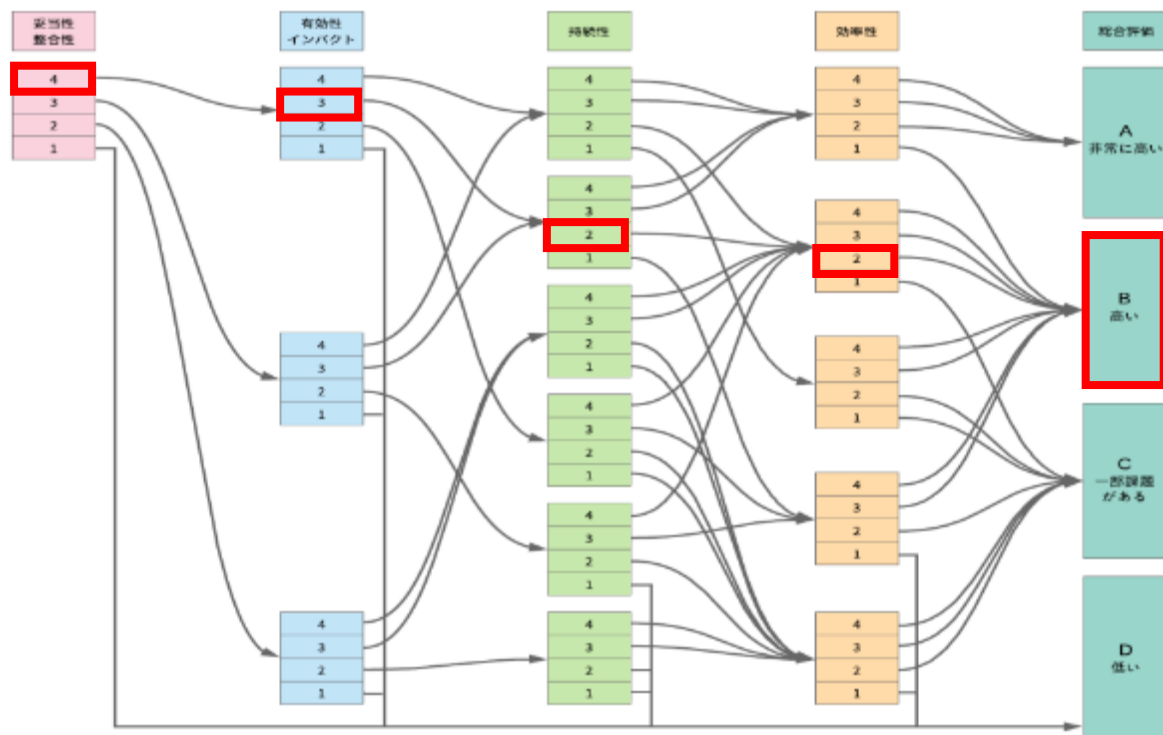
表 30 評価結果のまとめ

項目	評価概要	レーティング
妥当性	事業はバングラデシュの開発政策や、日本の援助政策ならびにその援助方針と高い整合性を有している。	4
整合性	受益者である BDP のニーズと強い合致がある。また、支援する日本警察の国際協力への考え方とも高い整合性がある。	4
有効性	終了次においてプロジェクトの設定したマスタートレーナー数、研修受講者数などの数値目標の達成度は高い。想定した教材類、マニュアル類は高い品質が確保されており、一部研修の効果が発現しつつある。	3
効率性	先方政府の承認手続き遅延により、一部の活動が遅延したが、終盤高い効率性で、目標を達成した。しかし、活動の偏りがあったことが否めず、資源の効率的利用に課題を残した。	2
インパクト	一部警備に関する手順、手法の改善例が見られる。座学を中心とした研修手法に実用的なシミュレーション方式の研修を紹介するなど、学びを促進する機会を提供した。	4
持続性	終了の段階で実施する組織・体制の確立について一部確証が得られていない。 財務面は、2023／2024 会計年度の予算確保がなされている点は高く評価できる。	2
総合評価	高い	(暫定) B

これら評価結果の各項目を勘案する評価の総合点は、暫定的な評価ながら、「高い」と評価することができる。この結果は、協力期間の終盤において政府手続きが未了ではあるものの、予め合意した枠組みで計画した活動の全てをやりきるため、双方が協力したことが、目標数値等の達成と、高い効率的な運営により、最終評価を高いものにした。総合評価（表 30）の持続性欄にも記載されているように、PHQ からは 2023／2024 会計年度に、SP&M 研修をインサーブス訓練として各地で継続実施するために一定の予算確保はされているという説明を得ている。

一方で、特に成果 2 を地域警察部門のビートポリシング手法として採用する取り組みを働きかけて来た。部門間調整も必要なことであるが、ビートポリシングの担当部署への直接の働きかけにより、同部門の実施する研修での紹介などの約束も得られており、採用に向けた取り組みが継続して行われるものと思われる。

¹⁹ 国際協力機構評価部 (2021). JICA 事業評価ハンドブック（Ver. 2.0） URL= https://www.jica.go.jp/activities/evaluation/guideline/ku57pq00001pln38-att/handbook_ver.02.pdf



出典：JICA プロジェクト評価ハンドブック（Ver. 2）20

図 12 レーティング・フローチャート

4-2 活動実施と成果達成に影響を及ぼした要因

本プロジェクトは、COVID-19 のパンデミックに加えて、バングラデシュ政府の予算承認プロセスである TAPP の承認が大幅に遅延したことにより、活動運営や先方との交渉等のすべての過程やそこから生み出される結果や事象に、多くの課題を惹起した。本節で正負の影響要因を TAPP やその承認プロセスとすると、これに帰結することになり、分析が表層に留まる恐れがある。本節の分析は、TAPP の影響を次節のリスク管理の観点から説明することを試み、本節では可能な限り他の項目に絞って述べることにした。

4-2-1 成果達成に寄与した促進要因

(1) 民間の発想と「柔軟性」を重視したこと

プロジェクト期間中の運営全般や、研修内容、活動計画の策定・実施において、民間の柔軟な発想・提案、対応をしてきたことを本プロジェクトの促進要因のひとつに取り上げる。

もっとも大きな要因は、「柔軟性」で、別項の「阻害要因」に取り上げた課題のひとつひとつには、日本側・バングラデシュ側ともに可能な限り柔軟に対応し解決してきた。BDP も、我々民間からの提案に対し、彼らに許される範囲のなかで最大限の対応をしてきた。結果として、「阻害要因」の多くが、案件実施を促進させることになった。特に、多くの予見できない遅延

²⁰ 国際協力機構. 評価部 (2021)

要因への対応、目標理解の齟齬について、都度解決を図って来た。これら、解決策や実施上の工夫は、「5-1 プロジェクト実施および運営上の課題・工夫」に項目を立てて詳述した。

(2) 「力の行使」とその限界の理解

日本の民間提案により、「警備能力強化」を進める本プロジェクトは、双方の（公的）権力の使い方（あるいは「力の行使」の許容範囲）の差異に留意して業務を進めた。民間警備会社ゆえに、権力行使のできない限界があるからである。

民間からなる日本側は、当初から力を行行使することなく、「犯罪防止のための環境設計（Crime Prevention through Environmental Design: CPTED）」の導入を提案し、成果1・2の活動もこの考え方を一貫して適用してきた。この提案は、公権力が使えない民間ならではの取り組みで、本プロジェクトの基礎をなす重要な理論・背景をなすものである。PHQ との当初の協議では、犯罪防止にかかる個別・具体的な捜査技術などに関心が移りがちだった。しかし、日本側が示す CPTED は、最終的に警察業務の領域をまたぐ共通領域にあることが理解された。特に 35 人を選定した TOT においては、「犯罪防止」の基盤の概念として、参加者の思考や、研修目的の理解は CPTED の援用により、彼らの意見や熱意を集約できる手応えが感じられた。より、具体的には、当初本部との議論などで見られたように個別の技能・技術に拡散しがちだったやりとりが改められた。「犯罪抑止のための環境づくり」～「警備計画づくり」～「コミュニティ警察」それぞれの位置づけ（特に CSS や官民合同について、PHQ が突出した興味を持つこと）など、全体統合を進めるうえでの理解不足を埋めることができた。結果として、講義では「環境づくり」に必要な要素として CPTED を紹介し、理解された。この過程で、意味ある提供ができたと考えられる。

(3) 警備計画の実習を中心においた研修としたこと

結果として TAPP の承認遅延により複数の代替案を検討することができた。また、遅延により研修の実施期間が大幅に短縮されたことから、与えられた時間・リソースの制約の必要性を再認識させ、大量の受講者を効率的に扱うことを強く意識する効果があった。

様々な検討を経て、CPTED を理論的背景とした警備計画を作成する実務研修とすることに決定した。研修の密度を上げるために、当初想定した「実大の施設での訓練」を捨て、ジオラマと地図を用いたシミュレーションを導入することとした。この方法を採用したことで、内容を単純化し基礎項目に絞りながらも、段階的・漸進的に高度な課題に取り組む設計となり、習得と定着を着実なものすることができた。

実施上の大きな課題は、参加・関与するマスタートレーナーや、受講者の経験・技量が明らかにならないところだった。当初計画された新任警察官を対象とする実施は、研修の範囲や難易度の設定に関する、情報が限られていた。しかし、最終的に在職の警察官を対象とすることとなった。この変更により、設定すべき水準が、明確化され適度な複雑さ、取り組む難しさを持つ課題を扱うことができた。これが、「受講者の学び」促進に寄与し、現職警察官である受講者の興味を引くことができた。

(4) 選抜された 35 人の C/P の貢献および TOT の実施

PHQ が選抜した 35 人のマスタートレーナーは、プロジェクトの成果達成を促進する上で重要な要因であった。彼らは警察の幹部級から選ばれ、選抜されたこと自体が職務のインセンティブにつながった。彼らは、SP&M 研修の実施のみならず、教材開発への支援や教材・講義の改善提案など、大きな貢献をした。また、マスタートレーナーとして多数の受講生を指導する力量やリーダーシップ、上官としての態度・対話の方法など、統率指導するためのロールモデルを示し、受講者に対しポジティブな影響を与えていた。

彼らは在職の勤務地で要職にあったが、通常業務から切り離して BPA で 10 日間にわたり TOT に参加した。TOT 実施のために幹部職員を長期間拘束して BPA で集中実施したことは、学習の質や教材の改善だけでなく、マスタートレーナーたちのネットワーク形成にとっても重要であった。彼らの貢献は、省内手続きの遅延やパンデミックによる計画変更を乗り越え、技術協力が生み出した財産となった。技術協力の活動初期から優秀かつ意欲に溢れた人材と共同作業を行うことが期待されたが、そのような機会が限定されたことは、運営上の損失であった。しかし、数週間であったが、彼ら 35 人を始めとする将来の BDP 幹部と JICA とが関係を持てたことは、両国関係者にとって、代えがたい資産となった。

4-2-2 成果達成の阻害要因

(1) 指示書

公示の際の「指示書」の内容と、BDP の求める要望の間に乖離があり、限られたリソースで、BDP の期待・満足度を上げるための工夫が求められた。

最も大きな乖離は、業務に着手した時点で、BDP はテロ犯人の多くを逮捕・起訴するなどテロ事案に対する自信を高めている時期で、すでに警備事案への興味・関心を失っていたことである。着任後、繰り返し地域警察の強化（例えば交番）や、サイバーセキュリティが提案された。テロ対策としての警備に対する優先度は、着手時点では高くなく、地域警察を中心とする、犯罪防止に重点が置かれたものであった。

BDP の要望に柔軟に対応することは、指示書にも記載があり、Bangladesh 事務所との業務打合においても念押しがあり、可能な限り対応して来た。契約交渉時に地域警察について追加人月と人員を得たが、本来の民間警備会社の範疇を超える要望でもあった。特に、警備と地域警察を全体的に統合することは、それぞれが警察業務の大きな領域で困難が伴う要望であった。また、警察側の要望とはいえ、C/P の所掌上縦割りになっている業務を、組織横断的に技術移転をする技術協力は、「二兎を追う」ことにもなる。また、TAPP 承認の遅れもあり、実施体制や組織面の体制構築もできない状況も重なり、難易度が高い業務となった。警察機構も巨大な官僚組織で、柔軟に対応した結果、複数部局に跨る業務となり、相応の工数が必要となり、受注者の柔軟性だけでは期待する結果を得ることに困難性が伴うこととなった。

(2) 犯罪防止の概念の広さ

警察が扱う犯罪事案は極めて多様で、直近のニーズは個別の捜査技術などについて高い技術を求めるものであった。当初から警察が要求する「犯罪抑止（Crime Prevention）」の概念には、

階級、職制のみならず使われる場面、人により多様で、異なる使われ方をしているように見受けられた。プロジェクト側としては、警察の要望に最大限に応える取り組みをして来たが、基本コンセプトに合致しない取り組み（当初指示書の現実との齟齬、警察の重点分野による検討ニーズ表明等）の調整にも相当の時間を費やした。プロジェクト人称は、指示書の「警備」と、PHQ が求める犯罪防止の概念のギャップは、些末なこととは見逃せない。

(3) 確立途中にある「市民との協力概念」

BDP は、一般国民の前で自分たちがどの立ち位置にあるべきか、なお模索している。言い換えると、近年のバングラデシュの国際的地位向上や、開かれた社会における社会・国民と警察との間の関係性構築の過渡期で、警察が自分の手をどのように差し出すかに迷う姿が見受けられた。本プロジェクトでも、地域社会との理解促進、警察の一般市民に對に対する「偏見」や「予断」の除去や、その反応としての市民の警察に對する偏見解消など、取り組むべき課題も数多く存在するなかで、一朝一夕に解決しない課題に取り組んだ。

政府中枢や警察幹部は、「市民に信頼される警察」、「女性（脆弱な者）に配慮する警察」を標榜するが、地域コミュニティの相手方・担い手である名目上のリーダーたちも、「下請け機関化」しており、「警察との協力」も、権力の発動機関としての警察との上下関係を否定することは難しい。「市民との協力」も警察視点では、捜査協力や内通のような「警察への協力」に留まりがちである。このことは、日本においても類似の課題を抱えている。本プロジェクトは、従来は、私的な領域として介入がしにくかった領域に取り組むアプローチのひとつを提示して、地域と警察の協力により、防犯意識や（暴力を許さない）安全な社会の形成を進めることに一石を投じたものと考えている。

4-3 プロジェクトのリスク管理

4-3-1 PDM 上の外部条件

2019 年 12 月に改訂された PDM に記載された外部条件は、活動レベルに「（バングラデシュ）政府は、公共安全の向上に継続して取り組む」が定義されている。改訂当時、BDP の対テロ対策が前向きに行われており、リスクとしては、大きなものではなかったと考えられる。それ以上のリスクについては、「前提条件」も含めて記載がない。

4-3-2 2 段階方式での技術協力プロジェクト固有のリスク

プロジェクトを俯瞰する課題として、TAPP 承認の遅延・未承認が、案件最大の障害・リスクとなったことを否定できない。

本プロジェクトは 2 段階方式で実施されて来たことから、詳細計画策定時の機構内部のリスク評価であるリスク管理チェックリスト作成にも、JV が一部関与している。しかし、その評価結果は、「リスクあり」と評価された項目はない。その理由は、R/D 締結は「二国間取り決め」ある技術協力協定のもとで、それぞれ履行を拘束されるため、そもそも国内手続きが遅延することのリスクを明示的に評価していないことに起因すると思われる。

同チェックリストの評価項目では、「不明」に評価された項目は、「政情・治安悪化による事業中断」、「先方政府の政策転換による事業大幅変更・中止」、「先方政府・実施機関関係者のコミットメント不足によるプロジェクト継続の困難性」、「プロジェクト終了後の自立発展性阻害要因の存在」、「(スコープ管理) 先方負担事項の遅延によるプロジェクト目標・成果・活動計画変更」、「(タイム管理) 先方負担事項の遅延による活動の遅れ」、「(コスト管理) 先方負担の不足」、「(人的資源管理) 先方 C/P の配置の遅れ」、「先方政府・実施機関とのコミュニケーションの困難性」の計 9 項目がある。

TAPP 承認の遅延は上記リスクのうち、「先方負担（事項）」にかかるリスクそのもので、予見されていたリスクとは言えるものの、リスク回避について日本側ができる支援や貢献（TAPP 関連の図書作成、関係省庁への説明資料準備など）を、相当程度行って来た。また承認プロセスの促進についても、常にその進捗に関心を持って関係部署と連絡を取り合ってきた。本来は技術協力における政府の約束事項（二国間取り決めの義務）に当たるため、PDM の外部条件に記載すべき事項ではないが、今回の事案のように、大幅な遅延を生じさせるのであれば、PDM 上のリスクとしても明示的に取り扱うことが望まれる。現在、機構のバングラデシュ事務所が技術協力案件での TAPP の取り扱いを協議中と聞くため、その推移にも留意する必要がある。

第5章 プロジェクト実施運営上の課題等

5-1 プロジェクト実施および運営上の課題・工夫

本項では、プロジェクトの運営全般に関する課題と工夫を述べる。

5-1-1 運営リスクへの対応

プロジェクト運営においては、専門家の着任直後からプロジェクト枠組みの合意内容（R/D 合意）への疑義や、変更提案²¹が、求められた。現状認識を共有するためのワークショップでは、警備に対する課題に関する彼我の認識齟齬や、BDP 側の認識する優先事項とプロジェクトの組みとの差異などが明らかになった。

当初日本側は、これらの変更要求に対して、原則として誠実に検討・対応することを表明する一方、案件形成経緯やR/D合意の趣旨を逸脱する提案を謝絶することも厭わない姿勢で、業務全般を進めてきた。技術協力プロジェクトの経験を有しない PHQ と、「警察官でない専門家」である日本側のやり取りの当初は必ずしも噛み合わないものであった。日本側は、彼らとの関係性構築と信頼醸成に資源を傾注することに重点を置き、技術的な観点からの理解を深めることに時間や人を当てて来た。第 1 期の調査の結果、日本側が得た BDP が広く運用・適用する警備戦術では、バングラデシュ社会の特徴（高い人工密度、交通手段の選択、群衆密度の管理手段不在、許容される「力の行使」の範囲）を理解した。また、先方の技術・運用の歴史や日常の資源・手段・限界などの背景にも着目し、最初から存在する認識や考え方の違いを受け入れ、批判をしないことに努めた。機構関係者も含め、時に大きな譲歩を求められる場面も多かったが、事業を円滑に進めることに尽力した。最終的に先方政府の手続き遅延は決着することができなかったが、参加した 35 人のマスタートレーナーの努力もあり、2,500 人を対象とする研修の目標と、地域との新しい協力関係構築に目処を立てることが可能となった。

5-1-2 計画変更への柔軟な対応

民間からなる JV が柔軟性を発揮した事例の中で、最も象徴的な事例は、度重なる計画変更に対応して来た事である。テロ事案から形成された本プロジェクトは、大幅な計画変更に対応した。

特に、援助事業を主たる業務分野としない ALSOK の立場では、関係者の努力と経営側の理解・協力があつたことを強調したい。具体的には、本プロジェクトはパンデミックによる渡航制限期間中も、渡航再開後にすぐに研修を実施するため、詳細な研修計画の準備を継続していた。しかし渡航再開が遅れ、再開後の協議で、BPA での実施案も棄却され、現在実施中の最終案への再度の変更が必要となり、結果的にフルスケールの研修計画を複数準備することとなり、ALSOK 側には非常に大きな負担を強いる結果となった。

²¹ 警察側のリーダーシップ変更後（犯罪防止、地域警察、サイバーセキュリティ）への対応要求。再度の人事異動による説明不足による停滞。TAPP 関連図書の作成支援。感染症による警察側の採用・育成計画の大幅見直し。左記による BPA の利用差し止めや、複数回の研修方法・内容の見直しを指す。

度重なる変更に対して日本側は、常に抑制的な態度で BDP に向き合った。すなわち警察出身の専門家チームでないという事実は与件・前提として、日本の経験を紹介するという抑制的な態度で接して来た。具体的な例は、BD 警察の現状・課題については、十分な調査・分析のうえ、その真因までよく理解して、アプローチの差異として示すことに努めた。例えば、案件形成時にも指摘された、一部警察官の配置の弱点、職務態度の弛緩、指示命令記録の不在などを取り上げることを敢えて避け、真因を分析のうえ対応策と代案を提示することに努めた。提案には、どのようなメリットが得られるのかを示すように配慮した。

5-1-3 研修実施上の工夫

(1) JV 間の役割分担の明確化

共同事業体での実施ゆえに、JV 構成会社間で役割分担を明確にして業務を行った。

IC Net はプロジェクトマネジメントと研修管理等の人材育成分野全体に責任を負った。ALSOK は、警備にかかる技術面を担当し、特に最も作業量の大きな SP&M 研修の研修コンテンツを提供することを担当した。実際の作業は警備にかかる技術コンテンツを JV 全体で検討し、警察との調整を行いながら、時間表に合わせて研修モジュールとしてまとめていく作業を、5 日分順番に行った。また、講義で利用する教材やハンドアウト等の準備では、ALSOK が提供した基本的なアイデアをもとに、具体的な教材の形式にまとめる作業を共同で行った。

(2) 研修マネジメントを重視した運営

プロジェクトは、2,511 人という多くの受講者を対象にした研修プログラムを実施した。TAPP 遅延のため、同時に実施する研修の数も多く（最大 3 カ所での同時実施）週にロジスティックス面が非常に複雑で、どのようにマスタートレーナーを支援するかが大きな課題の一つであった。これらロジスティックス面の手配は、英語で対応できる上流の業務と、ベンガル語必須の中流・下流の業務があり、ローカルコンサルタントも活用して実施した。PHQ との調整の作業量は複雑で大きく、例えば日程調整、マスタートレーナー、受講者の手配、所属先への調整等を IC Net が行った。日程が極めてタイトななか実施される SP&M 研修のロジスティックス等の調整業務は極めて複雑なもので、プロジェクト、PHQ、マスタートレーナー、実施場所ならびに受講者との間の連絡調整や、情報共有が必要とされるマネジメントは、円滑な実施に不可欠なものであった。

完成した教材類は、全国に分散した研修実施場所に、指定の日時に届けること、マスタートレーナーに対する様々なロジ支援は瞬時の判断も必須で、現地雇用のアシスタント等と連携して対処した。日本側は、受講者の出席管理、マスタートレーナーへの支援（教材配布、受講証手配）などのため、専任のトレーニングコーディネータを各会場に配置して、研修施設窓口との調整を直接行うようにした。

また、講義の指導の質を維持するため、5 日間の研修実施中の受講者からの意見や感想などをタイムリーに把握するため、筆記式の簡易な評価を毎日記載させ、当日の講義が終わったあとに、マスタートレーナー間でその内容を把握し、翌日以降の研修に資する仕組みを置いている。

また、研修全体の評価のため、マスタートレーナーはグループ活動に対する評価を行うとともに、参加者は講義やマスタートレーナーに対する感想や自身の学びや習得に関する設問を集計した。本プロジェクトは参加者数が 2,500 人と多数の受講者を対象とした研修であることから、オンラインで研修評価を実施した。BDP は自前の通信系統が脆弱で日常の業務でも携帯電話を使っている。そのため、TOT におけるオンラインによる研修評価の試行を経て、SP&M 研修でもオンラインによる評価を行った。

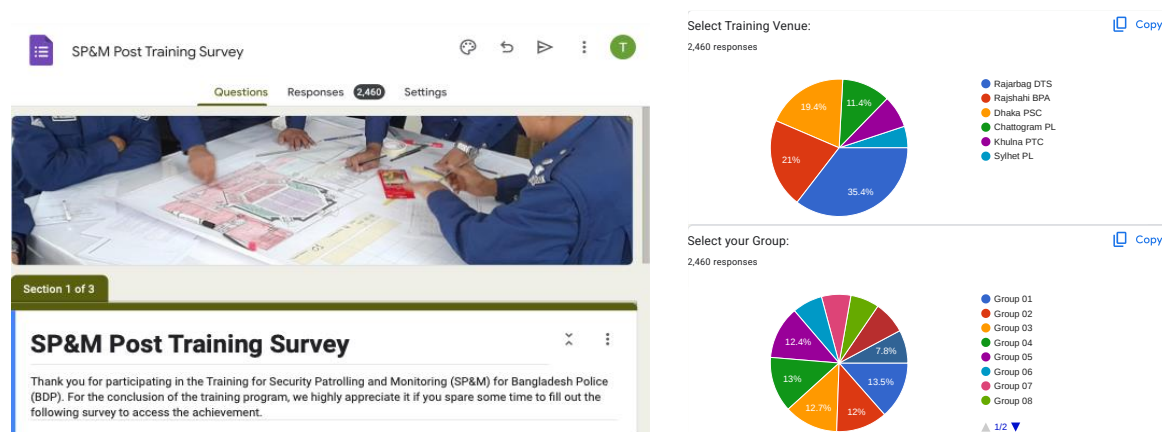


図 13 オンライン方式による研修評価(フォームおよび出力例)

オンライン評価の利点は、本プロジェクトのように遠隔実施でも受講者に予め QR コードを掲示することで、集計の手間をかけることなく自動集計される。また、情報の加工もスプレッドシートで出力されるため、簡易に対応することができる。このことは、この規模の研修を効率的かつタイムリーに情報収集ができることから、通信状況が許されるのであれば今後も活用して行きたい。

(3) 研修の質確保と警察側との連携

研修の質（テーマの選定、講義の内容、構成、興味を引く話題選定）の確保こそが、本研修を順調に終わらせるための工夫の一つであった。受講者の学習体験が質の高いものになるように、内容や提供の仕方に工夫をして、自然に定着をするように設計された研修を提供した。そのために、マスタートレーナー自身が、この研修の出題する課題や、教材等に興味を引くための工夫・配慮を心がけた。

ここまで BDP 側の関与が薄い状態で事業を進めて来たことから、日本側にとって最初の大きな関門は、TOT の実施であった。SP&M 研修で 2,500 人の警察官を実際に指導する彼ら自身が、この研修は有意義なもので、自信と興味を持って指導できるものを提供する必要があった。しかし、TOT の開始まで警察側の関係者との接点が限られており、提示した研修プログラムに現場の指揮や計画づくりに豊富な経験をもつ警察幹部にどのように受け入れられるかは、専門家にとっても必ずしも十分な勝算のあるものではなかった。特に、誰を主たる対象者とするのかについて、警察側から十分な情報提供がなく、受講生のターゲットの職域や、課題の難易度設

定が疑問とならないかと考えた²²。また、民間企業が採用できる警備戦術²³を基礎にシナリオを準備したため、警察官であるマスタートレーナーからどのような修正意見・提案がでるか、興味を持って TOT を実施した。

TOT の実施期間を通じ、マスタートレーナーと内容について十分な議論ができたことも質の確保に資する結果となった。「質の確保」には多くの視点があるが、ここでは調査から得た知見を基礎として日本のものを直接的に持ち込まない事を心がけ、基本の繰り返し、理論の裏付けを紹介することなどに配慮して設計した。これらの点について、マスタートレーナー間で理解されたとうかがえる。また、テーマ設定についても、当初声の大きかった、バングラデシュの事例を取り上げるという意見に対して、まずは基本を確実に習得させるという点に重きを置く狙いも関係者間で理解を得ることが出来た。

また、既存の警備計画の多くが「勘やコツ」あるいは「慣行」に依拠したものも多く、現場で実施されている手順や警備対策の根拠が説明できないことが多いようだった²⁴。そのため、敢えて単純な課題を与え、基本を着実に習得することを狙った。課題の出し方は、最初に単純な一階建施設を対象とした計画からはじめ、次に同じ建物の敷地や建物外周の計画、その次の段階では複数フロアの施設警備計画など、段階的に課題の難易度を上げて、類似する課題を繰り返し学習することにより、理解の定着を図るアプローチも問題なく受け入れられた。

このように、経験豊富なマスタートレーナーにも十分受け入れられる質の高い研修を提供し、マスタートレーナー自身が自信を持って大規模な研修を行うことができた。

(4) 教材開発におけるマスタートレーナーとの協力の重要性

質の高い研修の提供とならび、マスタートレーナーや受講者の興味を引く教材の準備が不可欠と考え、多くの手間と資源を投入した。

研修で使用する教材の内奥確認とベンガル語への翻訳ならびに校正は、いずれも手間のかかるもので、ローカルコンサルタント、採用した通訳のみならず、TOT を受講したマスタートレーナーの協力で質の高い教科書と作ることができた。特に、SP&M 研修の開始後、少数のマスタートレーナーを選抜し PHQ に集合し 5 日間かけて教材類の最終化作業を行った。このプロセスで、講義や指導上の疑問や課題を調整・解決し、マスタートレーナーや研修場所による差異や理解の齟齬を修正することができた。

研修で使用する教材もその多くを専門的知見や技術のある団員が制作に関わるもので、利用する研修参加者があたかも実際の警備業務を行うために提供されたような「リアリティ」を感じ

²² 日本側が想定した対象者は、ほぼ全ての職域の警察官を想定した。提供した教材の内容は、施設警備を課題にしているが、同時に提供した成果 2 の地域警察よりの活動紹介（官民合同犯罪防止活動、CSS）と組み合わせると、警察が行うべき地域の安全向上に資する考え方・実践例が理解されるはず、という仮説のもと研修を設計していた。TOT の結果この仮説は受け入れられた。

²³ 警察組織が採用する警備戦術では、周辺地域や周辺建物の封鎖、道路等の通行規制など、公権力を背景にした措置を行うことが一般である。研修で採用したシナリオは、最小限の規制に留めたソフトなアプローチでの警備シナリオを想定した。

²⁴ 例えば、警察関係者からはバングラデシュの事例採用（ケーススタディ）を採用することを求める声が多かった。しかし、実際の大規模施設の警備事例は、非常に複雑で基本習得には適さない。そのため敢えて、習得すべき課題の練習を効率的に行うことのできる、テーマに合致した施設を課題として提供した。

じることのできるものを提供した。ジオラマと地図・図面類の制作には、建築・都市計画設計に知見・経験のある団員が、ダッカ市内の設計事務所に依頼して制作した。図面類は、団員自身がコンピュータ支援設計（Computer Aided Design : CAD）を利用して制作した。いずれも、都市計画プロジェクトで使うものと同等以上の質のものを提供した。また映像教材は、TV 番組の制作プロダクションでの知見を有する団員を配置して制作したものである。いずれも、予算に限りのあるなかで、高い品質の教材を提供することにより、受講者の関心を高め、研修効果を高めるという考えかにより最大限の努力をした。

5-1-4 成果 2(官民合同防犯活動、CSS)実施上の工夫

(1) TAPP 未承認な状況での実施上の課題と対応背景

成果 2 は、官民合同防犯活動、CSS の実施に際し、TAPP 未承認な状況に起因して常に難しい判断を強いられた。都度できることから始めることで対応して来た。

成果 2 では地域住民を巻き込んだ信頼性向上の活動のモデルを提示するため、JCPA と CSS の両者を提案し、警察側に受け入れられた。しかし、いずれもバングラデシュにとって新しい手法を提供するもので、文字通り技術移転の受け皿となる警察（いずれも地域警察を担う DMP の所轄警察官）の関与が必須と考えた。また専門家の想定は、活動準備の段階から、専門家と協力し「DMP の地域警察活動」として実施することにより、オーナーシップ醸成や、警察の地域との関係性強化などに資することを想定していた。

しかし TAPP 未承認により、警察から正式な関与を得ることができず、上記の意図を満足させることができなかった。また、警察からの関与のないまま、地域コミュニティに対する働きかけをして、警察の信頼性を向上するための活動を行う論理矛盾も存在した。さらに 2022 年 11 月以降、政治的緊張が高まる事態となり、援助関係者のダッカ市内一部地域への立ち入り注意の方針が示され、街頭における活動リスクも存在していた。

これらに対して、ローカルコンサルタントを雇用し、彼らの支援や警察幹部からの非公式な協力のもと、可能なことを見つけ文字通り斬新的に業務を進めて来た。得られた成果は、その積み重ねの結果とすることができる。以下にその内容を概説する。

(2) JCPA の対応

上記のような困難に対し、官民合同活動では、関係者の個人的な関係性を活用して実施にこぎつけることができた。例えば、本分野ではローカルコンサルタント（退官した警察官）を雇用して業務を行った。このローカルコンサルタントが署長を務めて来たサブジバグ署にアプローチして、彼の地域住民との関係性を活用して、実際に現場の活動を促すことができた。官民合同犯罪防止活動は、ワークショップのみならず、屋外での一般ボランティアを動員する活動であることから、安全確保が必須である。また、本来警察の信頼性向上が活動のアウトカムの一つなので、警察が公式に関与することも必要で、これらの条件が整うことが必要と考えていた。

最終的に、TAPP 承認を得ず各活動を実施することとなり、警察幹部から所轄署に対して口頭で指示が発出されるなど、活動に必要な条件の一部が整ったと判断された。また、所轄警察を通じ、DMP 幹部に働きかけ、2023 年 2 月に開催された街頭での活動の出発式に出席を得た。

(3) CSS の対応

CSS 活動を推進するファクターは、第 1 期の詳細計画策定調査からの所轄警察署関係者との人間関係に加えて、PHQ から要望された映像制作への対応のための専門家派遣により、警察側が、撮影場所確保を始め許可を出さざるを得ない状況になったことが挙げられる。また警察は、一度組織決定がなされ、ひとつの方向に動きだせば、その達成に向け一斉に動き出す組織なので、映像制作を梃子に業務を進めることができた。

前者は、TAPP 承認前に地域での活動が許される状況で、第 1 期に実施した調査を通じた関係性が活かされた。グルシャン管区の指揮官が、現在も同じ部署に在職しているという偶然があり、最初は非公式に所轄署や学校との関係性を構築し、業務を進めることができた。映像制作は、団員の撮影や編集に従事できる時期が限られており、PHQ との交渉では、この時期を逸すると映像制作ができないという交渉により、様々な支援を得ることができた。特に実施する 6 つの学校との交渉では、最初のアプローチに警察からの非公式な承認を PHQ ならびに JICA 事務所が発出したことで大きく前進することができた。

CSS 活動のための地域住民との関係性構築においては、プロジェクトが雇用したローカルコンサルタント（退官した警察官）が重要な役割を果たした。彼が担当した交渉は、対象の学校のほかセーフティハウスを担う地域の商店主などを動員するための折衝で、彼らに活動の趣旨やその内容を説明し理解を得ることができた。

5-1-5 成果 3: 展開計画(持続性確保のための交渉)

(1) SP&M 研修（成果 1）の継続を促す交渉

プロジェクトは、本年 5 月に現地での活動を終了後も、SP&M 研修を含む各活動が持続的に実施されることの確証を得るため、様々な交渉を行ってきた。警察幹部は極めて多忙のため、短時間の面会を重ねて行った。また、予算策定のタイミングで、活動が再開しておらず、成果や達成した実績を予算策定プロセスに反映することができなかった。相手国の予算策定プロセスとプロジェクトの実施サイクルを合致させることの困難さを痛感する結果となった。

大前提である TAPP 承認が遅延するなか、警察側でも最大限の努力をしていることが感じられた。警察側は、SP&M 研修を実施するために、通常の範囲を超えた投資をして来たこと、活動のイニシアチブを発揮して継続実施してきたことを理解している。その結果、口頭での説明に限られるものの、持続的に活動が継続するための確証を得ることができた。

ここまでの業務で、SP&M 研修のための教材と SOP 一式がバングラデシュ側に提供され、これらを利用する SP&M 研修は、BDP のインサービス訓練として、一式が承認・実施される予定である。なお、当初検討して来た CC に SP&M で紹介した文書類（図面、組織表、配置表のセット）を組み込むことは、協議の結果見送りとなった。その理由は、CC は旧英国統治下以来の文書の形式を踏襲しており、その内容・書式は、警察法に規定されており、用意に変更すること

ができない。研修プログラムの認証は、警察独自の手続きで行うことが可能とのこと。また、研修実施を裏付ける予算の確保は、少なくとも 2023/2024 会計年度の研修予算を確保し、提供した SP&M 研修を継続する予定であるとの考えが表明されている。

(2) 地域警察：信頼性向上に資する活動（成果 2）の継続を促す交渉

成果 2 に規定されている 2 つの活動（官民合同犯罪防止、CSS）は別個のスケジュールと対象者で個別に実施してきた。これらの活動は両方とも地域警察の「本来業務」で、地域リーダーや学校等との関係性強化に必要なアプローチと位置付けることができる。両方の活動のプロジェクト終了後の受け皿となる組織は、運用部局の地域警察（ビートポリシング）担当セクションである。プロジェクトは、SOPを含む教材や、学習用のビデオ等一式をこの部門に引き渡すことなどを交渉し、口頭で基本合意を得た。普及を促進するため、本部同セクションがダッカの訓練センターで実施する研修で紹介をする旨口頭で説明を受けた。プロジェクトは、地域警察業務を将来に渡り維持・展開するための提案をしている（詳細を p. 77「6-2-2 官民合同犯罪防止活動および CSS の実施計画およびその体制（提案）」に記載）。

また、本プロジェクトに関わった人事および開発部門が、運用部門と合同で会議を開催して、これら新しい手法の採用に向けて情報交換を行う会合を開催したいとの意見がそれぞれの部門から表明された。なお、これら手法をビートポリシングの現場で採用・実践するかは、所轄署のビートポリシング責任者の判断に委ねられる。この点は「成果達成の阻害要因」の「(1) 指示書」(p.64)に記載したように、縦割りの期間で、技術協力プロジェクトを担当した部署と運用や DMP 等を含む、複数の部門間で引き続き調整をすることが必要である。この点は、成果の達成時期が TAPP 遅延により後ろ倒しになり、彼ら関係者を現場に招くことが十分にできなかった。しかし、DMP 関係者を出発セレモニー（2023 年 2 月 18 日実施）に招待するなど、機会をとらえて警察幹部への周知を図った。

5-1-6 その他の活動(広報)

本プロジェクトの広報は、当初 TAPP 未承認のためその取り扱いに慎重を期した。しかし、BDP 関係者自身が、個人あるいは BDP 内のグループ等のフェイスブックへ掲載を始めたため、支障がないものとして、都度掲載を行った。BDP 内の掲載先は多様で、BP) や女性幹部警察官の会である Bangladesh Women Police Network などに活動の内容を紹介するポスティングがあった。なおプロジェクトは一般紙や TV 等への掲載可能性を探ったが、BDP は自身のカメラマンを送り込むなど必ずしも積極的な掲載を行わなかったことを付記する。

日本側はバンングラデシュ事務所のフェイスブックに多数の掲載を行った。

5-2 教訓

以下にプロジェクトから得られた教訓を示す。

5-2-1 民間主導の JV が警察プロジェクトで果たした役割

JV が民間主導で組成され業務を実施したことは、見方によって功罪様々な評価ができる。また、BDP の本プロジェクトに対する期待は、日本側が警察関係者を派遣してくることだと考えられる。プロジェクトを終了する今の段階では、警察チームによる技術協力としなかったことにより得られた利益は大きかったと考える。その理由は民間中心のチーム編成により、比較的自由にコミュニケーションを取ることができた。その理由は、警察組織は階級を拠り所にして機能する組織で、外国人であっても、相手が警察関係者であれば階級と序列でものごとを決める傾向がある。専門家チームが民間主導で組成されたことにより、少なくとも階級が介在した予断やバイアスが軽減された。民間である日本側は、階級を全く重要視しないが、警察側も相手の階級にとらわれずに、仕事をすることができた。

5-2-2 2 段階方式による技術協力プロジェクトのリスク

4-3-2には、技術協力プロジェクトのリスク管理の観点から、2段階方式を採用することに伴う両政府の承認手続きがリスクであることを軽視できないことを記載した。従来から詳細計画策定調査で PDM や R/D の確定後、2 国間での約束であることを理由として、「速やかに当事者国の国内手続きを終える」としており、必ず履行されると考えるため、リスクとは捉えていないのが一般と承知している。本プロジェクトで経験したように、2 段階方式で当初の R/D をもとに相手国側が国内手続きを済ませて居ない場合、過去事例からみて手続きに必要な時間と手間を正確に評価することが必要と考える。

またバングラデシュでは、多くの案件が本プロジェクトと同様に TAPP の承認待ちで長い期間にわたり活動が停滞している事例があると聞いている。バングラデシュ政府との関係で、類似の事例が多数存在するのであれば、通常の詳細計画策定調査を行い TAPP の承認を、調達手続き開始のトリガーとすることも検討することが望ましい。あるいは、調査フェーズと実施フェーズを明確に分離して、TAPP 承認後に改めて調達手続きを行うことも検討するべきである。

第6章 上位目標達成に向けた提言

6-1 上位目標達成の見通し

本プロジェクトの上位目標の達成に向けた進捗の程度は以下のとおりである。

表 31 上位目標の達成に向けた進捗

指標	指標入手手段	評価結果
上位目標: バングラデシュ警察の警備能力が向上する		
1. 警備（SP&M）に関する研修（官民合同犯罪防止活動と CSS を含む）が、バングラデシュ警察のインサービス訓練プログラムのひとつとして定期的に実施されている。	報告書・発出されたレター	2023/2024 会計年度のインサービス訓練として実施予定 同会計年度に実施するための予算は確保済
2. 地域警察の新しい手法（官民合同犯罪防止活動と CSS）が、ビートポリシングに採用されている。	報告書・発出されたレター	2 つの手法はいずれも地域警察の本来業務であることから、ビート部門責任者から同部門の研修を通じた周知と、関係者への働きかけが行われることが確認された。 2023 年 5 月普及セミナーの際、IGP から同手法の展開に強い感心が表明された。

先方政府の手続きの遅延により、協力期間の最終盤に多くの活動が集中した。そのため、上位目標達成のための先方政府関係者等との課題の共有や、その対応のための協議等の時間が、十分確保でなかったことは事実である。一方、SP&M 研修の受講者数（2,500 人）などの目標を達成し、この研修への PHQ の関心や有効性の認識が高まった。そのため、本研修をインサービス訓練として継続実施するため、2023/2024 会計年度の予算が確保されている。このことは、教材やマニュアル類が、各研修実施・運営部門に承認される裏付けであり、今後も継続実施されることについて高い蓋然性がある。また、地域警察の新しい手法（官民合同犯罪防止活動と CSS）について、地域警察部門の本来業務として、実施されている住民等との対話の方法を多様化するための手法として、継続利用がなされる見通しである。

6-2 上位目標達成に向けた実施計画および実施体制

6-2-1 SP&M 研修の実施計画およびその体制（提案）

(1) 実施体制

プロジェクト終了後の SP&M 研修の継続実施は、BDP が想定するように、本プロジェクトの運営体制が引き続き維持されるものと理解される。その前提条件である、研修運営の基本的な枠組みは、本報告書の 4-1-5 インパクトで述べている。同推定の規模で継続運用すると過程すると、最低限以下のような実施体制を置くことを提案する。

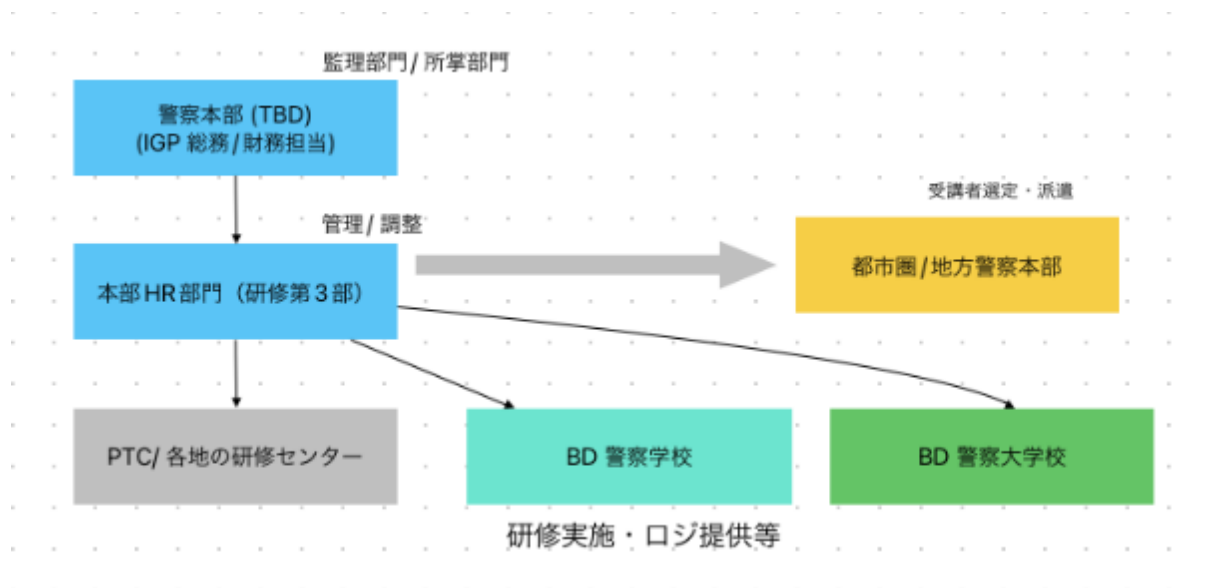


図 14 プロジェクト終了後の実施体制

(i) 研修担当部署の確定

SP&M 研修の継続実施を所掌する専門部署を、PHQ の人事部門内（現状は窓口となっている研修第 3 部）におき、必要に応じて適切な人員を配置することが必要である。この部署の役割は、SP&M 研修の運営における司令塔司令塔として、実施・運営に関わる様々な調整（日程調整、マスタートレーナー確保、受講者推薦依頼など）、評価、報告書作成などの全体調整やこれら各業務を、必要に応じて地方機関等に委任・移管する。

(ii) 研修実施部署

SP&M 研修は在職警察官を対象とするインサービス訓練として、バングラ警察の研修プログラムに受容される予定である。本研修の実施と運営を担うのは、各地域の警察研修センター（PTC）と首都圏警察の研修センターである。本部の指示により、特にロジスティックス（宿泊、食事等の提供）を中心とする現地での研修実施に必要な環境を提供する。

(iii) 評価および改善を担当する部署

本研修は、日本の技術協力プロジェクトの成果をもとに、BDP の実情に合わせた内容である。従って、研修の運営にあたり、受講者やマスタートレーナー等のフィードバックの収集・分析により、警察の SP&M を提供する現場での活動に即したものである必要がある。SP&M 研修は、実施後定期的な評価（参加者からのアンケート調査、実践状況の確認、定量的な効果測定）が必要となる。この部門の業務は、評価に加え、分析結果を警察上層部に報告することが含まれる。報告結果は、今後の SP&M 研修の改善、成果を他の部署や組織に共有し、現場における実践との乖離を埋める、運用の改善などに生かされる。

6-2-2 官民合同犯罪防止活動および CSS の実施計画およびその体制(提案)

(1) 実施組織（タスクフォース（Task Forces: T/F）およびタスクチーム（Task Teams: T/T））の必要性

本プロジェクトの成果 2 に位置づけた JCPA と CSS は、その結果、実施及び運営過程の考察などから、両活動をプロジェクト終了後も継続して実施するため、警察が実施している地域警察に位置づけることが望まれる。全国の所轄警察署で定着しつつあるビートポリシングなど既存の地域警察活動の手段を多様化する考え方で、これら既存の取り組みを統合的に実施することで、高い効果を狙うことができる。

(2) 実施組織の必要性

BDP の警備能力向上では、警察の対処能力向上と、地域住民・コミュニティの警察に対する信頼向上の 2 項目を柱にしている。前者は、主として SP&M 研修を通じた「警備計画策定（Development of Security Plan）」により、防犯環境設計理論、効率的な資源配分、など従来から行われている属人的な警備を、犯罪防止理論の適用や、部隊レベルで活用可能な資源を動員することを目指している。この手法の導入により、抵抗性・監視性・領域性の確保や、現可能な警備活動を主流化すること、再現・検証可能な警備計画を導入することにより、警察全体の警備能力向上を目指している。加えて、JCPA と CSS の紹介・実践を通じ、既存の地域警察活動の拡充や質の向上、警察に対する信頼向上を実現する。いずれも既往の地域警察の一手法として実践する。

一般市民や学童の参加を促す後者の活動では、防犯マップに 基づいた危険な地点を把握することにより、地域の犯罪防止能力向上を目指す。

(3) 所掌する機関・組織構成

JCPA と CSS の両活動を継続して実施するため、これらの活動を予定している各首都圏の警察本部に活動実施を司る T/F を設置する。T/F の役割は、現場で事業を実施することに先立つ企画や提案や庁内の調整を担う。また、実施する部隊の運用を管理・監視することのほか、実施する所轄部隊・所轄署との連絡調整などの「指揮命令の明確化」や、所轄署の監理を所掌する。T/F は、これら実現のため、各首都圏 PHQ 所属の幹部警察官を中核に、所轄警察署との指揮・調整を図る機能を有する。T/F は、プロジェクトが作成した様々な教材・資料類を一元的に管理・保管するとともに、本プロジェクトを運用する所轄署への助言・支援を継続して行う。また、不定期での講義の実地検証を通じ、問題点・課題の抽出や、対策を講じ運営能力の維持・向上を図る。その他、物品管理や集計データの管理、アンケート調査、マスタートレーナー資格の認定、褒章にかかる様々な制度策定などを行うこととする。全体の組織構成を図 15 に示す。

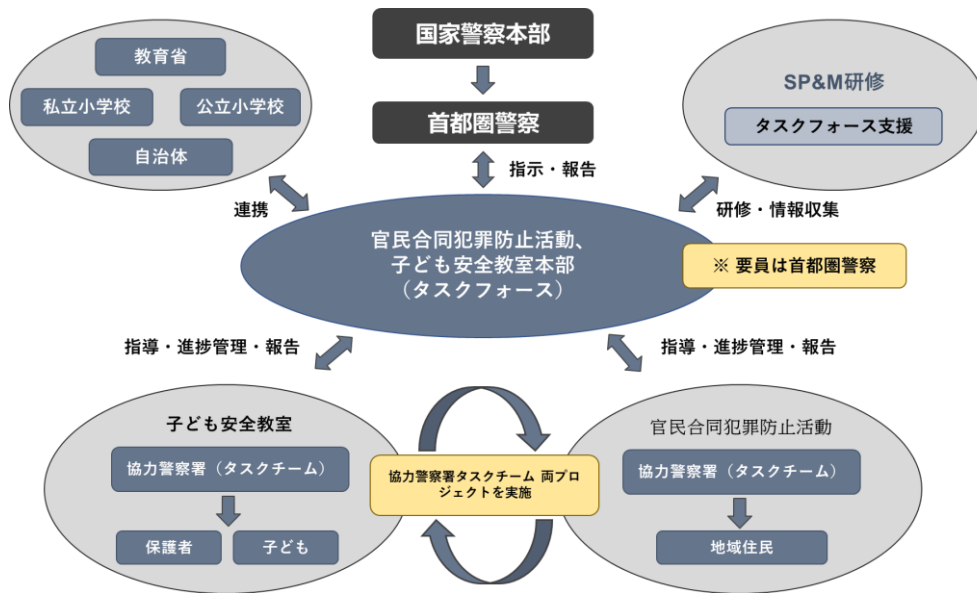


図 15 組織体制・役割

(4) 実施のための 機関・組織構成 (T/T)

現場での実践を担う組織として、T/T を配置する。その警察組織は、当面首都圏 PHQ 隷下の地域警察署である。その窓口は、窓口は広報部または広報部と類似の業務を担う部署とする。現地における拠点は、地域警察署内である。所轄署における人員は、管理監督者として警部相当クラスを配置する。管理監督者は T/F と連携し計画・実行・評価・改善を繰り返し行い、T/T の能力維持・向上を図る。その際に、不定期で講義の実地検証を行い、問題点・課題を抽出し対策を講じる。

所轄署における T/T の活動は、最大 3～4 人程度を指名し、その責任者の階級は警部補相当クラスを置くのがふさわしい。副責任者は警部補相当クラスを配置し、可能な限り 1 人以上の女性警察官をすることが望ましい。T/T は、講義、防犯マップ作製、地域住民・学校に対するアンケート調査、物品管理、各種調整、各種報告、その他の役割を担当し、今後、プロジェクトの成果として、マスタートレーナー資格者が配置された場合は、T/F からの支援として、T/T に対してフィールドトレーナーを通じた指導育成や管理監督を行う。

(5) 実施計画

これらの実施計画（案）を示す。

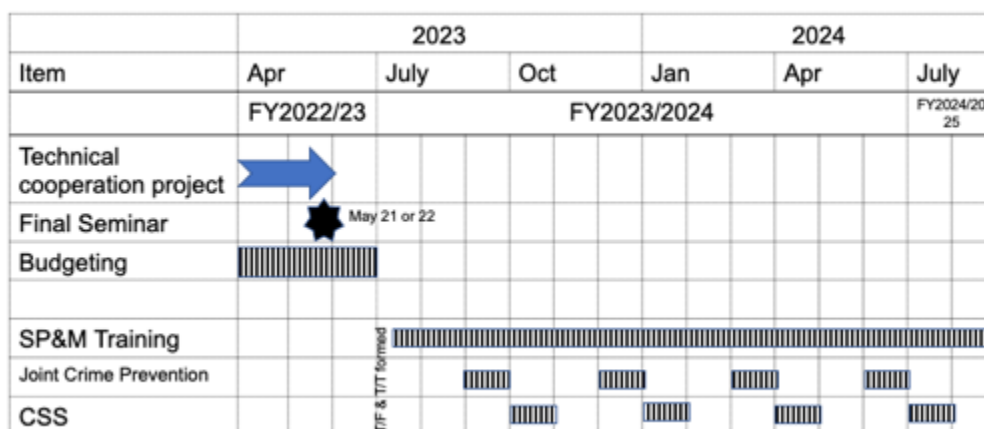


図 16 実施計画(案)

6-3 提言

本項において、本プロジェクトが提案実施した警備能力強化に関する様々な活動を踏まえ、事業の成果が引き続き維持されるための提言を行う。本プロジェクトは COVID-19 や TAPP の遅れなどにより、研修や関連する活動が、バングラデシュ社会に対して定着・展開するための活動が十分に実施することができなかった。日本側はプロジェクトの効果を長期的に定着させるため以下の諸点を、BDP が継続実施することを提案するとともに、その結果について今後も高い関心を持ってモニターしたい。

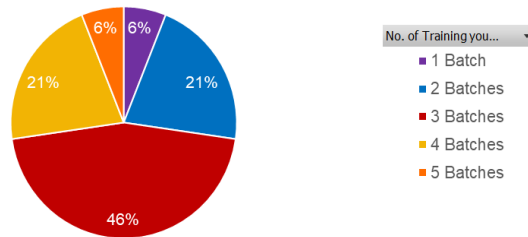
6-3-1 長期的な成果達成のために必要な相互の取り組み強化

日本側は、その許される範囲で R/D 枠組みを超えても事業促進のため、警察側の様々な要求に柔軟に対応してきた。その結果、BDP 側の当面の指標である 2,500 人を対象とした研修は達成した。研修の内容や有効性については、多くの関係者を対象とした調査の回答から、研修教材の改善の必要性が指摘されるものの、今後の継続についてポジティブな回答を得ている。残りの期間について、日本側は内容の充実などを進めている。バングラデシュ関係者の協力も得ながら、教材等の改善に取り組み、完全なものを提供する。これら受講者の意識調査やマスタートレーナーの意見等を総合的に判断し、今後の BDP の能力向上に資するものと考えている。

特に研修の有効性・適用に関して、マスタートレーナーから高い評価を得ることができて、彼らも強く継続を推奨している。この点も勘案のうえ、SP&M 研修を継続することを強く要望する。

No. of Training you served as a Trainer

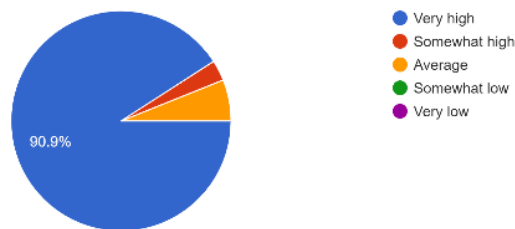
33 responses



1. General Comment/ Overall Reaction

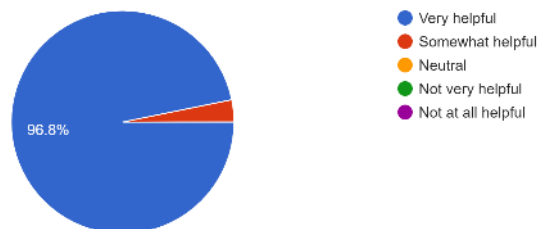
1.1. What was your impression of the trainers' attitude and motivation toward addressing their challenges?

33 responses



1.2. How much do you think the trainees' attitude towards addressing their challenges contributed to achieving the content and objectives of the training?

31 responses



2. Level of Learning

2.1. Do you think that SI and ASP who participated in the training gained confidence in performing security duties and acquiring the necessary knowledge and skills?

33 responses

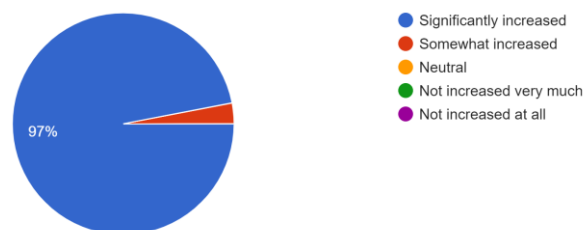
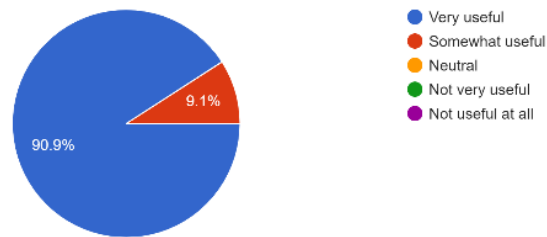


図 17 マスタートレーナーへの質問票調査結果 (1)

3. Usefulness in Police in General

3.1. How much do you think the content of the SP&M training is useful for their current job?

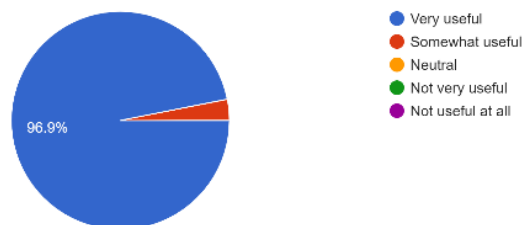
33 responses



4. Usefulness for Specialized Services in Security Areas

4.1. Do you think that the content of the SP&M training is useful as a training program for officers working in the security field?

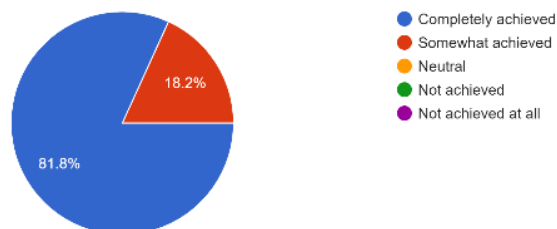
32 responses



5. Training in General

5.1. How much do you think the objective of conducting the SP&M training was achieved through your involvement as a trainer?

33 responses



5.2. How satisfied are you with the content and structure of the SP&M training, based on your involvement as a trainer?

33 responses

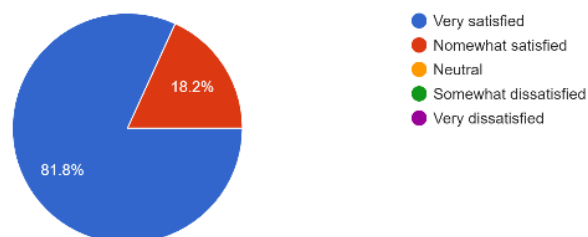
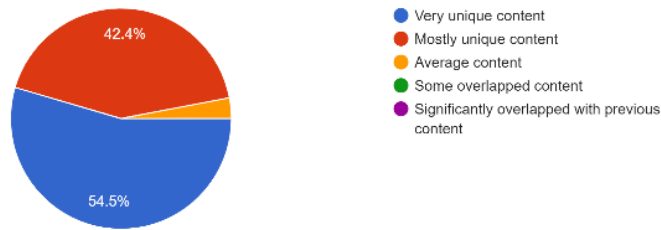


図 18 マスタートレーナーへの質問票調査結果 (2)

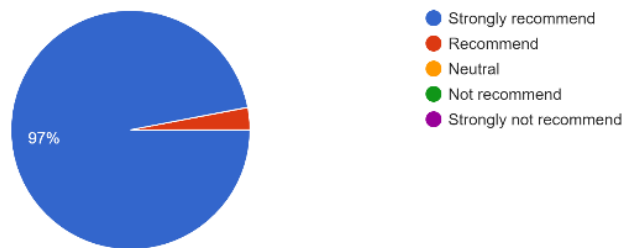
5.4. How would you evaluate the SP&M training in comparison to the various in-service police officer training currently being implemented by the police, in terms of having uniqueness in the content?

33 responses



5.5. Would you recommend your current subordinates to take this training?

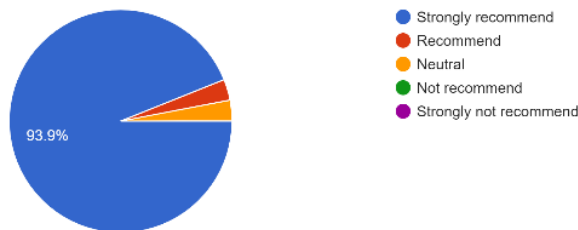
33 responses



6. Prospect for Continuing the Training

6.1. Would you recommend to the police headquarters to continue implementing this SP&M training in the next fiscal year?

33 responses



6.2.(1) Which field of police officers do you think would be suitable to target for this in-service training?

32 responses

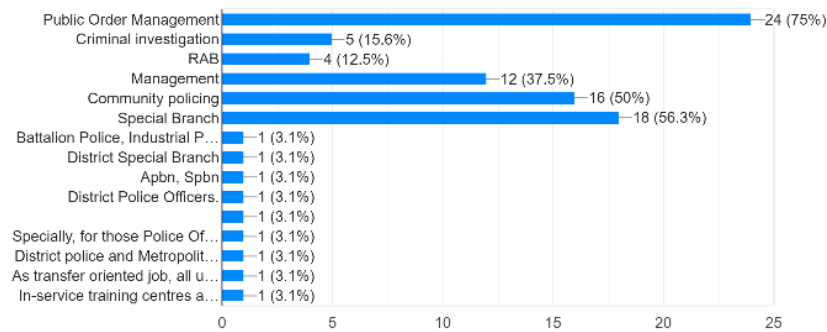


図 19 マスタートレーナーへの質問票調査結果 (3)

上記のように、日本側は相互の信頼のもと開発された研修の継続を強く推奨、期待する。

一方日本側は、TAPP 承認の遅延により展開計画の策定やその交渉機会が限定されてきたことを遺憾に考えている。今後の継続については、BDP 側から具体的な政策や方針を日本側に示し、それに基づいた実施を求める。

6-3-2 予算措置の必要性

この研修を継続実施するためには、バングラデシュ側の内国予算を確保することが必須である。年間研修計画に登載するための前提条件ともなっており、実施を所掌する人事・訓練部門が抱える最大のハードルとなっている。ここまでの実施は JICA 側の負担により実施されて来た経緯もあり、日本側もバングラデシュ国内予算での継続実施に強い関心を持っている。BDP 内部の政策や方針を踏まえつつ、警察自身が計画達成を保証する予算措置に関して、日本側に確証を示すことが必要と考える。

添付資料

添付資料 1-1	PDM (Version 0)
添付資料 1-2	PDM (Version 0.1)
添付資料 1-3	PDM (Version 0.2)
添付資料 2	業務フローチャート
添付資料 3-1	詳細活動計画（第 1 期）
添付資料 3-2	詳細活動計画（第 2 期）
添付資料 4	業務従事者の従事計画/実績表
添付資料 5	参加者リスト（TOT）
添付資料 6	SP&M 研修 トレーナー情報
添付資料 7	SP&M 研修実施スケジュール表
添付資料 8	CSS 実績表
添付資料 9	本邦研修の参加者リスト
添付資料 10	SP&M 研修トレーナーに対する質問票調査結果
添付資料 11	SP&M 研修参加者に対する質問票調査結果
添付資料 12	機材リスト

添 付 資 料

添付資料1-1 PDM (Version 0)

PDM Ver 0 (2017.07.25)

Executive Agency : Bangladesh Police
Duration : November 2017 - October 2020
Target Group: Bangladesh Police
Target Area : Dhaka, Model sites to be selected

Project Design Matrix: Capacity Enhancement of Bangladesh Police

Annex 3

Narrative Summary		Objectively Verifiable Indicator (OVI)	Means of Verification (MOV)	Important Assumptions
Overall Goal Capacity of Bangladesh Police on security patrolling and monitoring is improved	(1) Number of security patrolling plans based on guideline/manual	Annual/quarterly report by Bangladesh Police		
	(2) Number of monitoring reports on security patrolling status	Annual/quarterly report by Bangladesh Police		
	(3) Number of monitoring report on security patrolling submitted by field	Annual/quarterly report by Bangladesh Police		
	(4) Number of trainees received training on security patrolling and monitoring	Annual/quarterly report by Bangladesh Police		
	(5) Number of requests on security patrolling made by related stakeholders	Annual/quarterly report by Bangladesh Police		
Project Purposes				
System of security patrolling and monitoring is strengthened	(1) Guideline/manual for security patrolling and monitoring system is approved by Bangladesh police	Letter of approval		Bangladesh Police's priority to improve security patrolling and surveillance remains
	(2) Level of understanding of Bangladesh Police on guideline/manual for security patrolling and monitoring system	Project report		
	(3) Number of training programs on improving security patrolling and number of cases utilized at security sites	Project report		
Outputs				
1 Guideline/manual for strengthening security patrolling and monitoring system is developed	(1) Number of security patrolling plans for model sites based on guideline/manual	Project report		(1) Appropriate officers of Bangladesh Police and related training institutes are assigned in Project Implementation Unit
	(2) Number of monitoring reports for model sites on security patrolling status	Project report		
2 Training program for enhancing capacity of security patrolling and monitoring is improved	(1) Number of monitoring report on security patrolling submitted by model sites	Project report		(2) Security patrolling and surveillance is considered as one of main subjects at relevant training institutes
	(2) Number of master trainers received TOT	Project report		
3 Development plan for improving security patrolling and monitoring facilities is prepared	(1) Number of police officers at relevant divisions received training program	Project report		
	(2) Development plan is prepared	Project report		
Activities			Inputs (Bangladesh side)	
1-1 Review current status of security patrolling and monitoring system and identify issues 1-2 Develop draft guideline/manual for strengthening security patrolling and monitoring system 1-3 Based on 1-2, develop security patrolling and monitoring plan for model sites 1-4 Based on 1-3, implement security patrolling and monitoring activities in model sites and conduct periodical review 1-5 Based on 1-4, finalize guideline/manual for strengthening security patrolling and monitoring system			(1) Personnel - Project Director 1 (XXX) - Deputy Project Director 2 (XXX) - Counterpart personnel (Bangladesh Police) (2) Equipment and Facilities Office space and facilities (3) Local Cost Salaries/remuneration and other allowances for C/P personnel, running expenses for utilities, tax and CDVAT, other necessary expense	
	2-1 Review current training plan, training curriculum/materials on security patrolling and monitoring and identify improvement points			
	2-2 Update training plan and training curriculum/materials on security patrolling and monitoring			
	2-3 Based on 2-2, conduct TOT on security patrolling and monitoring			
	2-4 Based on 2-3, conduct trainings on security patrolling and monitoring			
3-1 Review existing facilities for security patrolling and monitoring system 3-2 Prepare development plan for improving security patrolling and monitoring facilities system			Inputs (Japanese side)	Preconditions The Government continues to commit improving public security
			Japanese Experts (1) Chief Advisor (2) Security patrolling and monitoring (Plan Development) (3) Security patrolling and monitoring (Model Sites) (4) Training material development (5) Facilities for security patrolling (6) Training Plan (7) Project Coordinator/Training management Local Consultants Japan/Third Country Training Equipment and Facilities Computers, Printers, Photocopy machines, other necessary equipment and instrument Local Activities Cost related survey training programs and materials, workshops/seminars, etc	

添付資料1-2 PDM (Version 0.1)

Project Monitoring Sheet I (Revision of Project Design Matrix)

Project Title:

Implementing Agency:

Target Group:

Period of Project:

Project Site:

The Project for Strengthening Crime prevention Capacity of Bangladesh Police

Bangladesh Police

Bangladesh Police

Duration: 30 March 2019 – the date 27 months from the date of the arrival of the first dispatch of the Japanese experts in the second phase of the project

Bangladesh Police HDQs, Police Academy(Rajshahi) and Selected sites by PIC

Version 0.1

Dated: Feb 2020

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption	Achievement	Remarks
Overall Goal Capacity of Bangladesh Police on security patrolling and monitoring is improved	(1) Number of security patrolling plans based on guideline/manual (2) Number of monitoring reports on security patrolling status (3) Number of monitoring report on security patrolling submitted by field (4) Number of trainees received training on security patrolling and monitoring (5) Number of requests on security patrolling made by related stakeholders (6) Degree of residents' awareness on security and safety at selected communities (7) Degree of pupils' awareness on security and safety in the selected schools	(1) Annual/ quarterly report by Bangladesh Police (2) Annual/ quarterly report by Bangladesh Police (3) Annual/ quarterly report by Bangladesh Police (4) Annual/ quarterly report by Bangladesh Police (5) Annual /quarterly report by Bangladesh Police (6) Interview with community members (7) Interview with school principles	The budget proposal related to implementation of the newly developed system of security patrolling and monitoring nation-wide is appropriated by fiscal process of Bangladesh		
Project Purpose System of security patrolling and monitoring is strengthened	(1) Guideline/manual for security patrolling and monitoring system is approved by Bangladesh police (1-2) The Development Plan (also known as dissemination plan) approved by Bangladesh Police (2) At least XX number of newly recruited and/ or promoted SIs and ASPs completed the training program and fulfilled the requirements showing the Level of understanding of Bangladesh Police on guideline/manual for security patrolling and monitoring system (3) Number of training programs on improving security patrolling and number of cases utilized at security sites (3-2) At least two (2) police stations adopt Joint Security Awareness Activities (3-3) At least two (2) police stations adopt Child Safety School Program	(1) Letter of approval (1-2) Development Plan (also known as Dissemination Plan) (2) Project report (3) Project report (3-2) List of trainees/ Training report (3-3) List of police stations	Bangladesh Police's priority to improve security patrolling and surveillance remains		
Outputs 1. Training Program for Security Patrolling and Monitoring (SP&M) is improved 2. Effective models for promoting community-based security awareness are presented 3. The institutional arrangement for Development plan for improving security patrolling and monitoring is established	(1-1) Number of security patrolling plans based on guideline/manual (1-2) Number of monitoring reports on security patrolling status (1-3) Number of monitoring report on security patrolling submitted (2-1) At least XX number of master trainers received TOT and fulfilled the requirement (2-2) Number of police officers at relevant divisions received training program (3) Development Plan is prepared	(1-1) Project report, (1-2) Project report (1-3) Project report (2-1) Project report (2-2) Project report (3) Project report	Appropriate officers of Bangladesh Police and related training personnel are assigned in Project Implementation Unit Security patrolling and surveillance is considered as one of main subjects at relevant training institutes		

Activities	Inputs	Pre-Conditions
Activities for Output 1. Training Program for Security Patrolling and Monitoring (SP&M) Improved 1.1 Review current status of security patrolling and monitoring system and identify issues 1.2 Based on the analysis derived from 1.1, develop draft guideline/manual for strengthening security patrolling and monitoring system 1.3 Review current training plan, training curriculum/materials on security patrolling and monitoring and identify improvement 1.4 Based on 1.3, update training plan and training curriculum/materials on security patrolling and monitoring 1.5 Based on 1.4, nominate prospective instructors and conduct TOT on security patrolling and monitoring 1.6 Collaborate with the instructors to prepare training plan for delivery 1.7 Based on 1.6, conduct trainings on security patrolling and monitoring 1.8 Conduct follow-up and finalize training plan and training curriculum materials on security patrolling and monitoring 1.9 Based on 1.8, finalize guideline/manual for strengthening security patrolling and monitoring system Activities for Output 2. Effective models for promoting community-based security awareness are presented 2.1 Review the current practices of community involvement carried out by Bangladesh Police and identify issues and its characteristics 2.2 Carry out training on Joint Security Awareness Activities 2.2.1 Based on the analysis derived from 2.1, prepare draft guideline/ manual for Joint Security Awareness Activities 2.2.2 Based on 2.2.1, develop and prepare the training plan for Joint Security Awareness Activities 2.2.3 Based on 2.2.2, carry out TOT on Joint Security Awareness Activities 2.2.4 Based on 2.2.2 and 2.2.3, the trained trainers carry out trainings on Joint Security Awareness Activities 2.3 Carry out training on Child Safety School Program 2.3.1 Based on the analysis derived from 2.1, prepare draft guideline/ manual for Child Safety School Program 2.3.2 Based on 2.3.1, develop and prepare the training plan for Child Safety School Program 2.3.3 Based on 2.3.2, carry out TOT on Child Safety School Program 2.3.4 Based on 2.3.2 and 2.3.3, the trained trainers carry out trainings on Child Safety School Program 2.4 Carry out monitoring and evaluation of all trainings (e.g. 2.2.3, 2.2.4, 2.3.3 and 2.3.4), and draw lessons derived from its analysis 2.5 Finalize training plan and training materials Activities for Output 3. The institutional arrangement for Development plan for improving security patrolling and monitoring is established 3.1 Review existing security patrolling and monitoring system 3.2 Analyze the effect of promoting the system of security patrolling and monitoring based on Output 1 and 2 throughout Bangladesh 3.3 List the necessary activities for promoting the system of security patrolling and monitoring throughout Bangladesh 3.4 Estimate the necessary cost for carrying out the activities identified in Activity 3.3 3.5 Analyze the cost effectiveness 3.6 Prepare the budget proposal based on the findings for submission 3.7 Prepare development plan for improving security patrolling and monitoring system based on activities 3.1 to 3.6	The Japanese Side Japanese Experts (1) Team Leader/ Institutional Development (2) Deputy Team Leader/ Human Resources Development (3) Security Patrolling and Monitoring (Development Plan) (4) Security Patrolling and Monitoring (Enhancement of Response Capacity) (5) Security Patrolling and Monitoring (Enhancement of Trust and Confidence in Police) (6) Security Patrolling and Monitoring (Crime Prevention) (7) Training Material Development (8) Project Coordinator/ Training management Local Consultants Japan/Third Country Training Equipment and Facilities Computers, Printers, Photocopy machines, other necessary equipment and instrument Local Activities Cost Related survey, training programs and materials, workshops/seminars, etc	The Bangladesh Side (1) Personnel - Project Director 1 (as listed in Annex 6 of R/D) - Deputy Project Director 2 (Ditto) - Counterpart Personnel (Bangladesh Police) (2) Equipment and facilities - Office space and facilities (3) Local Cost - Salaries/ Remuneration and other allowances for CIP personnel, running expenses for utilities, tax and CONAT, other necessary expense Pre-Conditions The Government continues to commit improving public security Issues and countermeasures

添付資料1-3 PDM (Version 0.2)

Project Design Matrix (PDM)

Project Title: The Project for Strengthening Crime prevention Capacity of Bangladesh Police
Implementing Agency: Bangladesh Police
Target Group: Bangladesh Police
Period of Project: March 2019 – June 2023
Project Site: Dhaka, Rajshahi, Chattogram, and Sylhet

Version 0.2
Dated: As of April 2023

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
Overall Goal			
The capacity of Bangladesh Police on Security Patrolling and Monitoring (SP&M) is improved.	1. The SP&M training (including Joint Crime Prevention Activity and Child Safety School (CSS)) has been implemented regularly as one of the in-service training programs of Bangladesh police. 2. The new approaches for community policing (Joint Crime Prevention Activity and CSS) have been adopted in beat policing.	1. Instructions issued by Bangladesh Police 2. Annual/ quarterly report by Bangladesh Police 1. Instructions issued by Bangladesh Police 2. Annual/ quarterly report by Bangladesh Police	The budget proposal related to implementation of the newly developed system of SP&M nation-wide is appropriated by fiscal process of Bangladesh
Project Purpose			
The system of SP&M is strengthened.	1. The guidelines/manual for SP&M system is approved by the Bangladesh police. 2. At least 2,500 SIs and ASPs completed the training program and fulfilled the requirements of SP&M training based on the guidelines/manual for SP&M system. 3. Six (6) beat areas of one (1) police station adopt Joint Security Awareness Activity. 4. Six (6) schools of two (2) police stations adopt CSS Program.	1. Letter of approval 2. Project report 3. Project Report 4. Project Report	Bangladesh Police's priority to improve security patrolling and surveillance remains
Outputs			
1 The training program for SP&M is improved.	1.1 Number of security patrolling plan based on guidelines/manual 1.2 Number of monitoring reports on security patrolling status 1.3 Number of monitoring report on security patrolling submitted	1.1 Project report 1.2 Project report 1.3 Project report	Appropriate officers of Bangladesh Police and related training personnel are assigned in Project Implementation Unit. Security patrolling and surveillance is considered as one of main subjects al relevant training institutes.
2. Effective models for promoting community-based security awareness are presented.	2.1 At least six police officers are able to demonstrate a complete set of activities as following the manuals/ guidelines of CSS. 2.2 At least 30 community members join the beat officers to participate in the joint crime prevention activity.	2.1 Project report 2.2 Project report	
3. The institutional arrangement for development plan for improving SP&M is established.	3. Development Plan is prepared	3. Project report	

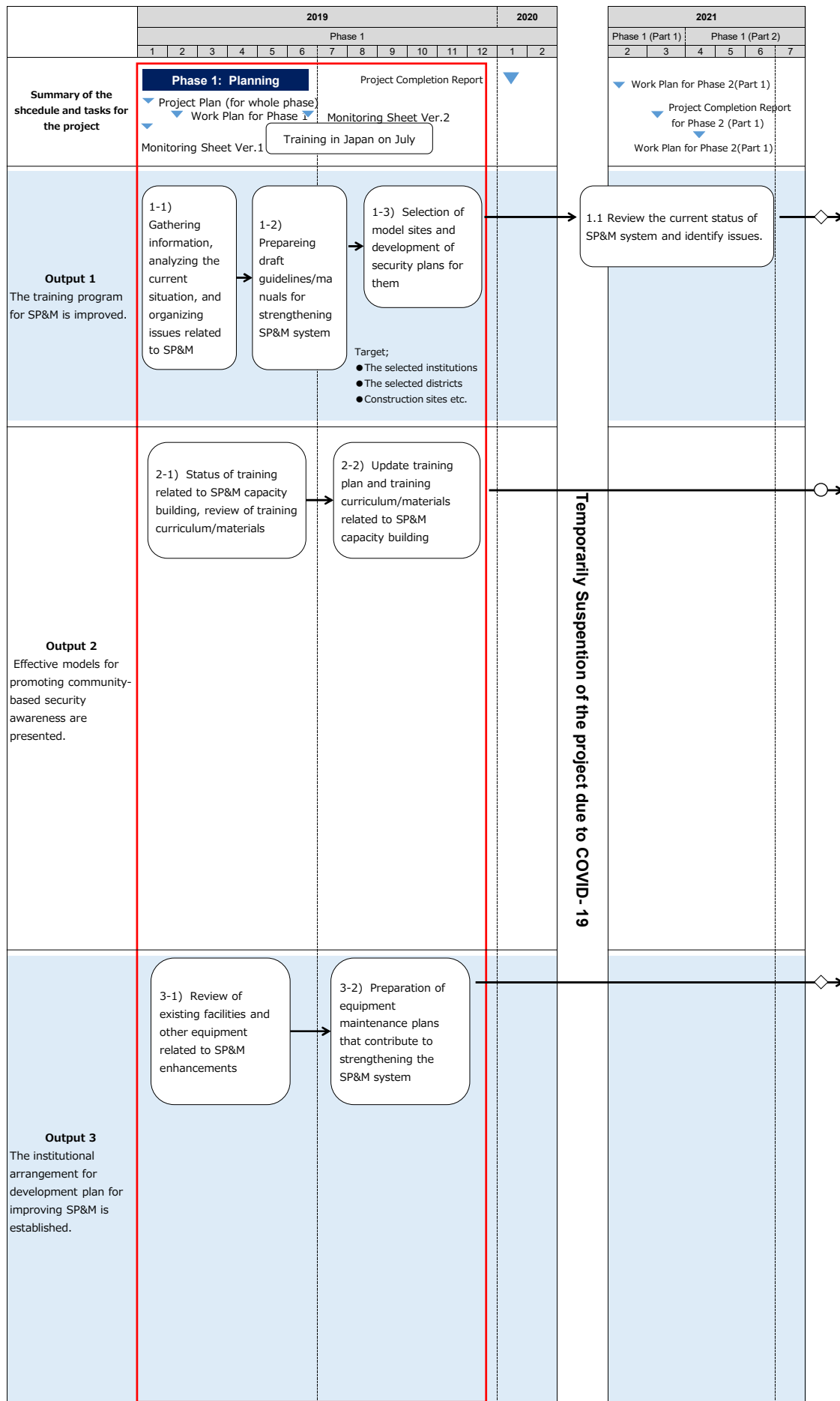
Project Design Matrix (PDM)

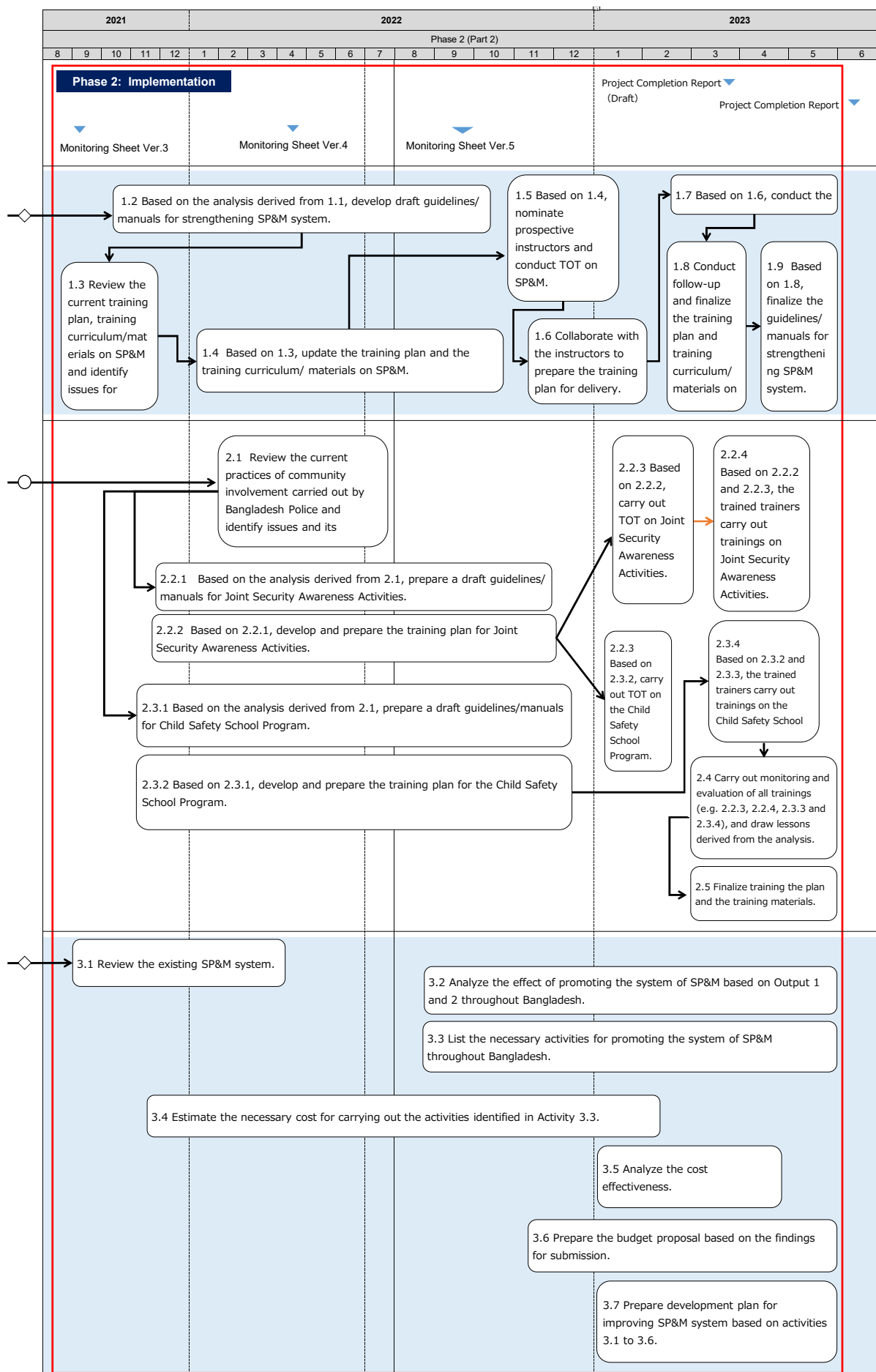
Project Title: The Project for Strengthening Crime prevention Capacity of Bangladesh Police
Implementing Agency: Bangladesh Police
Target Group: Bangladesh Police
Period of Project: March 2019 – June 2023
Project Site: Dhaka, Rajshahi, Chattogram, and Sylhet

Version 0.2
Dated: As of April 2023

Activities	Inputs		Pre-Conditions
	The Japanese Side	The Bangladesh Side	
Activities for Output 1. The training program for SP&M is improved. 1.1 Review the current status of SP&M system and identify issues. 1.2 Based on the analysis derived from 1.1, develop draft guidelines/ manuals for strengthening SP&M system. 1.3 Review the current training plan, training curriculum/materials on SP&M and identify issues for improvement. 1.4 Based on 1.3, update the training plan and the training curriculum/ materials on SP&M. 1.5 Based on 1.4, nominate prospective instructors and conduct TOT on SP&M. 1.6 Collaborate with the instructors to prepare the training plan for delivery. 1.7 Based on 1.6, conduct the training on SP&M. 1.8 Conduct follow-up and finalize the training plan and training curriculum/materials on SP&M. 1.9 Based on 1.8, finalize the guidelines/ manuals for strengthening SP&M system. Activities for Output 2. Effective models for promoting community-based security awareness are presented. 2.1 Review the current practices of community involvement carried out by Bangladesh Police and identify issues and its characteristics. 2.2.1 Based on the analysis derived from 2.1, prepare a draft guidelines/ manuals for Joint Security Awareness Activities. 2.2.2 Based on 2.2.1, develop and prepare the training plan for Joint Security Awareness Activities. 2.2.3 Based on 2.2.2, carry out TOT on Joint Security Awareness Activities. 2.2.4 Based on 2.2.2 and 2.2.3, the trained trainers carry out trainings on Joint Security 2.3.1 Based on the analysis derived from 2.1, prepare a draft guidelines/manuals for Child Safety School Program. 2.3.2 Based on 2.3.1, develop and prepare the training plan for the Child Safety School Program. 2.3.3 Based on 2.3.2, carry out TOT on the Child Safety School Program. 2.3.4 Based on 2.3.2 and 2.3.3, the trained trainers carry out trainings on the Child Safety 2.4 Carry out monitoring and evaluation of all trainings (e.g. 2.2.3, 2.2.4, 2.3.3 and 2.3.4), and draw lessons derived from the analysis. 2.5 Finalize training the plan and the training materials. Activities for Output 3. The institutional arrangement for development plan for improving SP&M is established. 3.1 Review the existing SP&M system. 3.2 Analyze the effect of promoting the system of SP&M based on Output 1 and 2 throughout Bangladesh. 3.3 List the necessary activities for promoting the system of SP&M throughout Bangladesh. 3.4 Estimate the necessary cost for carrying out the activities identified in Activity 3.3. 3.5 Analyze the cost effectiveness. 3.6 Prepare the budget proposal based on the findings for submission. 3.7 Prepare development plan for improving SP&M system based on activities 3.1 to 3.6.	<u>Japanese Experts</u> (1) Chief Advisor (2) Security patrolling and monitoring (Plan Development) (3) Security patrolling and monitoring (Model Sites) (4) SP&M (Crime Prevention) (5) Training material development (6) Facilities for- security patrolling (7) Training Plan (8) Community Police (7) Project Coordinator/ Training management Local Consultants Japan/Third Country Training <u>Equipment and Facilities</u> Computers, Printers, Photocopy machines, other necessary equipment and instrument <u>Local Activities Cost</u> Related survey, training programs and materials, workshops/seminars, etc.	(1) Personnel - Project Director (Bangladesh Police) - Deputy Project Director (Bangladesh Police) - Counterpart Personnel (Bangladesh Police) (2) Equipment and facilities - Office space and facilities (3) Local Cost - Salaries/ Remuneration and other allowances for counterpart personnel, running expenses for utilities, tax and, other necessary expenses	The Government continues to commit improving public security <Issues and countermeasures>

添付資料2 業務フローチャート





添付資料3-1 詳細活動計画（第1期）

契約件名：バングラデシュ国警備能力向上プロジェクト（第1期）

			2019										2020	
			3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
業務全体に関する事項														
定期的モニタリングと成果の確認	計画													
	実績													
業務計画書及びワークプラン	計画													
	実績													
本邦研修の実施（国内作業/準備を含む）	計画													
	計画													
JCC/PIC開催	計画													
	実績													
業務完了報告書（第1期）	計画													
	実績													
成果1：警備体制強化に係るガイドライン/マニュアルが作成される														
1-1 警備体制に関する情報収集、現状分析及び課題等の整理	計画													
	実績													
1-2 警備体制強化ガイドライン/マニュアル(案)の作成	計画													
	実績													
1-3 モデルサイトの選定及びモデルサイトを対象とした警備計画の策定	計画													
	実績													
成果2：警備能力向上に係る研修プログラムが改善される														
2-1 警備能力向上に係る研修プログラムの改定プロセスの確認	計画													
	実績													
2-2 警備能力向上に係る研修実施状況、研修カリキュラム/教材のレビュー	計画													
	実績													
2-3 警備能力向上に係る研修計画、研修カリキュラム/教材の更新	計画													
	実績													
成果3：警備体制向上に係る設備整備計画が作成される														
3-1 警備体制強化に係る既存の設備等のレビュー	計画													
	実績													
3-2 警備体制強化に資する設備整備計画の作成	計画													
	実績													

凡例：



実績



計画

添付資料3-2 詳細活動計画（第2期）

契約件名：バングラデシュ国警備能力向上プロジェクト（第2期パート1、2）

		第2期																												
		パート1												パート2																
		2021												2022												2023				
		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
業務全体に関する事項																														
定期モニタリングと成果の確認	計画																													
	実績																													
業務計画書及びワークプラン	計画																													
	実績																													
本邦研修の実施（国内作業／準備を含む）	計画																													
	実績																													
JCC／PIC開催	計画																													
	実績																													
業務完了報告書	計画																													
	実績																													
活動1.「成果1.警備（SP&M）にかかる訓練プログラムが整備される」にかかる活動																														
1.1 警備（SP&M）の現状をレビューするとともに、課題を明らかにする	計画																													
	実績																													
1.2 1.1から得られた分析に基づき、警備（SP&M）システムに関するガイドライン／マニュアルの案を作成する	計画																													
	実績																													
1.3 警備（SP&M）に関する現状の訓練プログラム、訓練カリキュラム／教材をレビューし、改善点を明らかにする	計画																													
	実績																													
1.4 1.3に基づき、警備（SP&M）に関する訓練計画、訓練カリキュラム／教材を修正する	計画																													
	実績																													
1.5 1.4に基づき、教官候補を選定し警備（SP&M）に関するTOTを実施する	計画																													
	実績																													
1.6 教官と協働して訓練実施のための計画を策定する	計画																													
	実績																													
1.7 1.6に基づき、警備（SP&M）に関する訓練を実施する	計画																													
	実績																													
1.8 警備（SP&M）に関する訓練とカリキュラム／教材の内容に関するフォローアップと再修正を行う	計画																													
	実績																													
1.9 1.8に基づき、警備（SP&M）強化のためのガイドライン／マニュアルの修正を行い完成させる	計画																													
	実績																													
活動2.「成果2.コミュニティを基礎とした安全意識向上のための、効果的なモデルが示される」にかかる活動																														
2.1 現状の、バングラデシュ警察による地域住民の参加の取組をレビューし、課題とその特徴を明らかにする	計画																													
	実績																													
2.2.1 2.1から得られた分析に基づき、合同安全意識強化活動のためのガイドライン／マニュアル（案）を作成する	計画																													
	実績																													
2.2.2 2.2.1に基づき、合同安全意識高揚活動のための訓練計画を開発・作成する	計画																													
	実績																													
2.2.3 2.2.2に基づき、合同安全意識高揚活動のためのTOTを実施する	計画																													
	実績																													
2.2.4 2.2.2と2.2.3に基づき、合同安全意識高揚活動のための訓練を実施する	計画																													
	実績																													
2.3.1 2.1から得られた分析に基づき、こども安全教室プログラムのガイドライン／マニュアル（案）を作成する	計画																													
	実績																													
2.3.2 2.3.1に基づき、こども安全教室プログラムのための訓練計画を開発・作成する	計画																													
	実績																													
2.3.3 2.3.2に基づき、こども安全教室プログラムのためのTOTを実施する	計画																													
	実績																													
2.3.4 2.3.2と2.3.3に基づき、こども安全教室プログラムのための訓練を実施する	計画																													
	実績																													
2.4 上記全ての訓練（e.g. 2.2.3, 2.2.4, 2.3.3 および 2.3.4）の評価を実施し、これらの分析から教訓を見出す	計画																													
	実績																													
2.5 訓練プランと訓練教材の最終修正を行う	計画																													
	実績																													
活動3.「成果3.警備能力向上にかかる開発計画のための体制が整備される」にかかる活動																														
3.1 現状の施設警備（SP&M）システムをレビューする	計画																													
	実績																													
3.2 成果1、2、警備（SP&M）をバングラデシュ全国に展開することによる効果を分析する	計画																													
	実績																													
3.3 バングラデシュ全国に警備（SP&M）システムを展開するために必要な活動をリストアップする	計画																													
	実績																													
3.4 活動3.3を実施するのに必要なコストを計上する	計画																													
	実績																													
3.5 コストに対する効果を分析する	計画																													
	実績																													
3.6 分析結果に基づき、予算案の提出のための準備をする	計画																													
	実績																													
3.7 活動3.1から3.6に基づく警備（SP&M）設備の改善のための展開計画を策定する	計画																													
	実績																													

添付資料4 業務従事者の従事計画/実績表

契約件名：バングラデシュ国警備能力向上プロジェクト

1. 現地業務				※現地隔離期間のうち業務に従事しない日数（直接人件費対象）は「隔離期間(直人費対象)」行に記載							
				2021年							
担当業務	所属先	格付	渡航回数	5	6	7	8	9	10	11	12
1 総括／組織体制強化	IC Net	2	計画	7							
			隔離期間(直人費対象)								
			実績	6							
2 副総括／人材開発計画	IC Net	3	計画	9				2	27	2	4
			隔離期間(直人費対象)					0/04-26/04	13		15
			実績	7				0/14-17	10/25-30/31	10/27-30	12/1-9
								2	2	2	10
3 警備能力強化(全体計画)	総合警備保障	2	計画	13				2	13	13	15
			隔離期間(直人費対象)					9/18-30/09	10/27-31		
			実績	9				0/14-17	10/27-31	11/14-30	12/1-31
								2	11	11	15
4 警備能力強化(警察学校(主)安全学校(副))	総合警備保障	3	計画	10							
			隔離期間(直人費対象)								
			実績	7							
5 警備能力強化(安全学校(主)警察学校(副))	総合警備保障	3	計画	9							
			隔離期間(直人費対象)								
			実績	1							
6 警備研修教材開発1	総合警備保障	4	計画	4							
			隔離期間(直人費対象)								
			実績	1.5							
7 研修管理1／警備研修教材開発2	IC Net	4	計画	5					10/21-22/09-31	11/1-31	
			隔離期間(直人費対象)						10/23-29	11/23-29	
			実績	0.5					10/21-22/09-31	11/1-24	
									4	24	
8 研修管理1／警備研修教材開発2	IC Net	4	計画	5							
			隔離期間(直人費対象)								
			実績	1							
9 警備研修教材開発3	IC Net	4	計画	5					4	24	
			隔離期間(直人費対象)								
			実績	1							
10 警備能力強化(犯罪防止)	ジャイロス(IC Net 補強)	3	計画	9					4	30	9
			隔離期間(直人費対象)						10/23-29		
			実績	7					10/21-22/09-31	11/1-10	12/1-9
									4	30	9
11 業務調整／研修管理2(D枠)	IC Net	6	計画	9							
			隔離期間(直人費対象)								
			実績	3							
12 業務調整／研修管理2(D枠)	IC Net	6	計画	0							
			隔離期間(直人費対象)								
			実績	4							

2. 国内業務				2021年							
担当業務	所属先	格付	渡航回数	5	6	7	8	9	10	11	12
1 総括／組織体制強化	IC Net	2	計画	—	—	—	—	—	—	—	—
			実績(国内)	2/14	0/23	7/20	0/23	0/3	10/11-13/02	11/14-25/03/27/31/5/6/9	1/1
2 副総括／人材開発計画	IC Net	3	計画	—	—	—	—	—	—	—	—
			実績(国内)	1	1	1	0	1	11	1	1
3 警備能力強化(全体計画)	総合警備保障	2	計画	—	—	—	—	—	—	—	—
			実績(国内)	—	—	—	—	—	—	—	—
4 警備能力強化(警察学校(主)安全学校(副))	総合警備保障	3	計画	—	—	—	—	—	—	—	—
			実績(国内)	—	—	—	—	—	—	—	—
5 警備能力強化(安全学校(主)警察学校(副))	総合警備保障	3	計画	—	—	—	—	—	—	—	—
			実績(国内)	—	—	—	—	—	—	—	—
6 警備研修教材開発1	総合警備保障	4	計画	—	—	—	—	—	—	—	—
			実績(国内)	—	—	—	—	—	—	—	—
7 研修管理1／警備研修教材開発2	IC Net	4	計画	—	—	—	—	—	—	—	—
			実績(国内)	—	—	—	—	—	—	—	—
8 研修管理1／警備研修教材開発2	IC Net	4	計画	—	—	—	—	—	—	—	—
			実績(国内)	—	—	—	—	—	—	—	—
9 警備研修教材開発3	IC Net	4	計画	—	—	—	—	—	—	—	—
			実績(国内)	—	—	—	—	—	—	—	—
10 警備能力強化(犯罪防止)	ジャイロス(IC Net 補強)	3	計画	—	—	—	—	9/6-14	—	—	—
			実績(国内)	—	—	—	—	0/6-14	—	—	—
11 業務調整／研修管理2(D枠)	IC Net	6	計画	—	—	—	—	—	—	—	—
			実績(国内)	—	—	—	—	—	—	—	—
12 業務調整／研修管理2(D枠)	IC Net	6	計画	—	—	—	—	—	—	—	—
			実績(国内)	—	—	—	—	—	—	—	—



2022年												2023年						合計		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	現地	PM	
																		96	3.20	
																		0	0.00	
																		151	5.03	
																		223	7.43	
																		14	0.47	
																		239	7.97	
																		295	9.83	
																		14	0.47	
																		295	9.83	
																		220	7.33	
																		0	0.00	
																		270	9.00	
																		180	6.00	
																		0	0.00	
																		112	3.73	
																		60	2.00	
																		0	0.00	
																		59	1.97	
																		114	3.80	
																		7	0.23	
																		28	0.93	
																		114	3.80	
																		0	0.00	
																		23	0.77	
																		114	3.80	
																		0	0.00	
																		25	0.83	
																		237	7.90	
																		7	0.23	
																		234	7.80	
																		214	7.13	
																		2	0.07	
																		112	3.73	
																		0	0.00	
																		0	0.00	
																		88	2.93	
現地業務小計																		計画	1639	54.62
																		国内業務	44	1.47
																		実績	1636	54.52
2022年												2023年						合計		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	国内	PM	
																		83	4.15	
																		66	3.32	
																		2	0.10	
																		20	1.00	
																		0	0.00	
																		0	0.00	
																		6	0.30	
																		0	0.00	
																		6	0.30	
																		14	0.70	
																		15	0.73	
																		0	0.00	
																		0	0.00	
																		34	1.70	
																		0	0.00	
																		23	1.17	
																		3	0.15	
																		5	0.25	
																		0	0.00	
																		3	0.15	
																		10	0.50	
																		19	0.97	
国内業務小計																		計画	112	5.60
																		実績	198	9.89
合計(現地業務+国内作業)																		計画	1751	60.22
																		実績	1834	64.41
モニタリングシートver.4												モニタリングシートver.5						業務完了報告書		
印刷												印刷						印刷		

添付資料5 参加者リスト(TOT)

The Project for Strengthening Crime Prevention Capacity of Bangladesh Police Bangladesh Police Headquarters

Training of Trainers (TOT) on Security Patrolling and Monitoring (SP&M) List of Participants

Venue: Bangladesh Police Academy (BPA), Shardah, Rajshahi, Bangladesh
TOT Duration: 15-24 Jan, 2023

Not According to Seniority

S.No.	Name	Designation	Organization / Present Work Place	Gender
1	Omitted	Superintendent of Police (SP)	Traffic & Driving School, Dhaka	Male
2		Deputy Police Commissioner (SP)	DB, Barishal Metropolitan Police	Male
3		Deputy Police Commissioner (SP)	Prosecution Wing, KMP, Khulna	Male
4		Assistant Inspector General (AIG)	Personal Management-2, PHQ	Male
5		Commandant (SP)	In Service Training Center, Satkhira	Male
6		Commandant (SP)	In Service Training Center, Kustia	Male
7		Deputy Police Commissioner (SP)	Matihar Division, RMP, Rajshahi	Male
8		Assistant Inspector General (AIG)	Director, Bangladesh Police Liberation War Museum	Male
9		Commandant (SP)	In Service Training Center, Rajshahi	Male
10		Commandant (SP)	In Service Training Center, Mohalchari, Khagrachari	Male
11		Commandant (SP)	In Service Training Center, Bogura	Male
12		Deputy Police Commissioner (SP)	Rangpur Metropolitan Police, Rangpur	Male
13		Superintendent of Police (SP)	PBI, Pirojpur District	Male
14		Deputy Police Commissioner (SP)	Detective Branch, RMP, Rajshahi	Male
15		Superintendent of Police (SP)	Crime Management , Range Office, Mymensing	Male
16		Superintendent of Police (SP)	In Service Training Center, Madaripur	Male
17		Superintendent of Police (SP)	Crime Management, Range DIG's Office, Chattogram	Male
18		Superintendent of Police (SP)	Tourist Police, Rangamati	Male
19		Superintendent of Police (SP)	PBI, Mymensing District	Male
20		Superintendent of Police (SP)	PBI Bogura District	Male
21		Superintendent of Police (SP)	Tourist Police	Male
22		Addl. Deputy Police Commissioner (SP)	North Division, KMP, Khulna	Male
23		Superintendent of Police (SP)	Operations Wing, Anti-Terrorism Unit, Dhaka	Male
24		Superintendent of Police (SP)	Admin & Finance, Lalmonirhat	Male
25		Additional Superintendent of Police	Bangladesh Police Academy Sardah, Rajshahi	Male
26		Additional Superintendent of Police	Police Training Center, Rangpur	Male
27		Additional Superintendent of Police	Traffic & Driving School, Dhaka	Male
28		Additional Superintendent of Police	Headquarter, RMP, Rajshahi	Male
29		Additional Superintendent of Police	Admin & Finance, Dinajpur	Male
30		Additional Superintendent of Police	(Crime and Ops.) Dinajpur	Male
31		Additional Superintendent of Police	Confidential Wing, PHQ, Dhaka	Male
32		Additional Superintendent of Police	Admin & finance, Faridpur	Male
33		Additional Superintendent of Police	Range DIG's Office, Sylhet	Male
34		Additional Superintendent of Police	Habiganj District	Female
35		Additional Superintendent of Police	Bangladesh Police Academy Sardah, Rajshahi	Male

添付資料6 SP&M研修 トレーナー情報

The Project for Strengthening Crime Prevention Capacity of Bangladesh Police Bangladesh Police Headquarters

Training on Security Patrolling and Monitoring (SP&M)

List of Trainers

Training conducted from Feb. 18 to May. 18, 2023

Not According to Seniority

S.No.	Name	Designation	Organization / Present Work Place	Gender	No. of Training Assigned	DTS (Dhaka)	PSC (Dhaka)	BPA (Rajshahi)	PTC (Khulna)	PL (Chattogram)	PL (Sylhet)
					100	36	20	20	8	10	6
1		Deputy Police Commissioner (SP)	DB, Barishal Metropolitan Police	Male	4	4					
2		Deputy Police Commissioner	Prosecution Wing, KMP, Khulna	Male	1	1					
3		Assistant Inspector General (AIG)	Personal Management-2, PHQ	Male	1		1				
4		Commandant (SP)	In Service Training Center, Satkhira	Male	3		1		2		
5		Commandant (SP)	In Service Training Center, Kustia	Male	3				2		1
6		Deputy Police Commissioner (SP)	Matihar Division, RMP, Rajshahi	Male	2			2			
7		Assistant Inspector General (AIG)	Director, Bangladesh Police Liberation War Museum	Male	3	1	2				
8		Commandant (SP)	In Service Training Center, Rajshahi	Male	3	1	1	1			
9		Commandant (SP)	In Service Training Center, Mohalchari, Khagrachari	Male	3		1			2	
10		Commandant (SP)	In Service Training Center, Bogura	Male	2		2				
11		Deputy Police Commissioner (SP)	Rangpur Metropolitan Police, Rangpur	Male	2			2			
12		Superintendent of Police (SP)	PBI, Pirojpur District	Male	5	3	2				
13		Deputy Police Commissioner (SP)	Detective Branch, RMP, Rajshahi	Male	2			2			
14		Superintendent of Police (SP)	Crime Management , Range Office, Mymensing	Male	3	2	1				
15		Superintendent of Police (SP)	In Service Training Center, Madaripur	Male	3	2		1			
16		Superintendent of Police (SP)	Crime Management, Range DIG's Office, Chattogram	Male	4					4	
17	Omitted	Superintendent of Police (SP)	Tourist Police, Rangamati	Male	3						3
18		Superintendent of Police (SP)	PBI, Mymensing District	Male	3			1			2
19		Superintendent of Police (SP)	PBI Bogura District	Male	3	2	1				
20		Superintendent of Police (SP)	Tourist Police	Male	3		1		2		
21		Addl. Deputy Police Commissioner (SP)	North Division, KMP, Khulna	Male	4		2		2		
22		Superintendent of Police (SP)	Operations Wing, Anti-Terrorism Unit, Dhaka	Male	5	3	2				
23		Additional Superintendent of Police	Bangladesh Police Academy Sardah, Rajshahi	Male	3			3			
24		Additional Superintendent of Police	Police Training Center, Rangpur	Male	4	2	1	1			
25		Additional Superintendent of Police	Traffic & Driving School, Dhaka	Male	3	2	1				
26		Additional Superintendent of Police	Headquarter, RMP, Rajshahi	Male	4	1		3			
27		Additional Superintendent of Police	Admin & Finance, Dinajpur	Male	3	1		2			
28		Additional Superintendent of Police	(Crime and Ops.) Dinajpur	Male	3		3				
29		Additional Superintendent of Police	Confidential Wing, PHQ, Dhaka	Male	2	1	1				
30		Additional Superintendent of Police	Admin & finance, Faridpur	Male	3		3				
31		Additional Superintendent of Police	Range DIG's Office, Sylhet	Male	4	2				1	1
32		Additional Superintendent of Police	Habiganj District	Female	4	2					2
33		Additional Superintendent of Police	Bangladesh Police Academy Sardah, Rajshahi	Male	2			2			

添付資料7 SP&M研修実施スケジュール表

Schedule for implementation of SP&M training

*1 week = 1box

Region		Info		Trainee	2023																			Total												
		Location	Venue		Type	Capacity	STRT END	February			March			April			May			Plan (Total)	Actual (Total)															
Dhaka	Dhaka	PSC	100	ASP, SP (above)	5	12	16	18	23	26	4	9	12	16	19	23	26	30	2	6	9	13	16	20	23	27	30	7	11	14	18	2,500	2,511	500		
					Plan																															
					Trainers' SL#																															
					Actual																															
					Plan																															
North Bengal	Rajshahi	DTS	100	SI	Plan																															
					Trainers' SL#																															
					Actual																															
					Plan																															
					Trainers' SL#																															
South Bengal	Khulna	PTC	50	SI	Plan																															
					Trainers' SL#																															
					Actual																															
					Plan																															
					Trainers' SL#																															
Sylhet	Sylhet	PL	50	SI	Actual																															
					Plan																															
					Trainers' SL#																															
					Actual																															
					Plan																															
Chattogram +Cumilla	Chattogram	PL	50	SI	Plan																															
					Trainers' SL#																															
					Actual																															
					Plan																															
					Trainers' SL#																															
The Number of Venues							0	2	3	4	4	4	4	4	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	6	4	4	4							
No. of batches							0	4	4	4	6	7	7	7	0	4	0	4	0	0	0	0	0	6	6	6	6									

Weekly count (Planned):

Weekly count (Actual):

Total attendee (ASP level):

Total attendee (SI level):

Number of trainers:

200	400	700	1,050	1,400	1,600	1,900	2,200	2,500
195	379	670	996	1,345	1,556	1,881	2,172	2,511
0	0	0	82	176	176	288	392	500
195	379	670	914	1,169	1,380	1,593	1,780	2,011
8	16	28	42	56	64	76	88	100

添付資料8 CSS実績表

CSS Management Form (School Management Status)

Elementary School Setting Standards

Areas that are not office areas

Areas where there are no violent crimes.

Areas with a reasonable number of confectionery and stationery shops where children are likely to drop in.

No	School name	Teacher briefing date		Number of teachers	Number of guardian	Number of target students	Number of applicabl e students	Total number of students				1st			
		Date	number of teachers (Number of participants)					number of guardians (Number of participants)	Elementary school junior high school student	Total number of students who have taken CSS classes ② Grade 3rd (B & G) ③ Grade 4th (B & G) ④ Grade 5th (B & G)	①Day & time of lesson ② Grade 3rd (B & G) ③ Grade 4th (B & G)	Boy	Girl	Mask	
		Total		114	238		1,847	Total	1,452	569	883	327	117	210	327
1	Bhola Govt. Primary School 01876-530053 01554-339383	1st	27 Nov, 2022	14	25				male	female	①	27 Nov, 2022 AM 11:30			
		2nd				3rd grade	②	68	32	36	②	11	4	7	
		3rd				4th grade	③	56	27	29	③	13	6	7	
		4th	14 Mar, 2023	9	35	5th grade	④	79	28	51	④	20	7	13	
		2	23	60	total number	370	S.Total	203	87	116	Total	44	17	27	
2	Uttor-Purbo Badda Govt. Primary School 01964-647707	1st	30 Nov, 2022	11	23				male	female	①	30 Nov, 2022 AM 11:45			
		2nd				3rd grade	②	77	30	48	②	0	0	0	
		3rd				4th grade	③	98	24	74	③	27	6	21	
		4th	13 Mar, 2023	9	15	5th grade	④	85	22	62	④	33	12	21	
		2	20	38	total number	370	S.Total	260	76	184	Total	60	18	42	
3	Shatarkul Govt. Primary School 01724-140405	1st	1 Dec, 2023	9	28				male	female	①	1 Dec,2023 PM12:00			
		2nd				3rd grade	②	60	30	30	②	13	6	7	
		3rd				4th grade	③	104	44	60	③	18	5	13	
		4th	16 Mar, 2023	4	0	5th grade	④	80	34	46	④	28	7	21	
		2	13	28	total number	158	S.Total	244	108	136	Total	59	18	41	
4	Badda Govt. Primary School 01849-446873	1st	24 Nov, 2022	14	40				male	female	①	24 Nov, 2022 AM 11:30			
		2nd				3rd grade	②	51	22	29	②	10	5	5	
		3rd				4th grade	③	56	30	25	③	25	15	10	
		4th	21 Mar, 2023	9	0	5th grade	④	157	74	86	④	20	10	10	
		2	23	40	total number	376	S.Total	266	126	140	Total	55	30	25	
5	Shahjadpur Govt. primary School 01733-447705	1st	29 Nov, 2022	10	35				male	female	①	29 Nov, 2022 AM11:00			
		2nd				3rd grade	②	91	36	55	②	5	3	2	
		3rd				4th grade	③	103	35	68	③	14	3	11	
		4th	15 Mar, 2023	5	0	5th grade	④	43	12	31	④	33	11	22	
		2	15	35	total number	223	S.Total	237	83	154	Total	52	17	35	
6	Abdul Hamid Dorji Govt. Primary School 01741-197114 01533-338711	1st	04 Dec, 2022	10	37				male	female	①	4 Dec, 2022 AM11:30			
		2nd				3rd grade	②	31	10	21	②	14	5	9	
		3rd				4th grade	③	88	27	61	③	21	9	12	
		4th	20 Mar, 2023	10	0	5th grade	④	123	52	71	④	22	3	19	
		2	20	37	total number	350	S.Total	242	89	153	Total	57	17	40	

Ne	School name	2nd				3rd				4th			
		① Day & time of lesson	Boy	Girl	Mask	① Day & time of lesson	Boy	Girl	Mask	① Day & time of lesson	Boy	Girl	Mask
		② Grade 3rd (B & G) ③ Grade 4th (B & G)				② Grade 3rd (B & G) ③ Grade 4th (B & G)				② Grade 3rd (B & G) ③ Grade 4th (B & G)			
		Total	140	245	385	375	144	231	375	365	168	197	365
1	Bhola Govt. Primary School 01876-530053 01554-339383	① 14 Feb, 2023 AM10:45				① 01 Mar, 2023 AM10:45				① 20 Mar, 2023 AM10:45			
		② 24 11 13				② 14 7 7				② 19 10 9			
		③ 10 3 7			57	③ 15 10 5			51	③ 18 8 10			51
		④ 23 6 17				④ 22 10 12				④ 14 5 9			
		Total 57 20 37				Total 51 27 24				Total 51 23 28			
2	Uttor-Purbo Badda Govt. Primary School 01964-647707	① 13 Feb, 2023 AM11:00				① 28 Feb, 2023 AM11:00				① 16 Mar, 2023 AM10:00			
		② 15 6 10				② 18 0 18				② 44 24 20			
		③ 25 10 15			70	③ 22 8 14			62	③ 24 0 24			68
		④ 30 10 19				④ 22 0 22				④ 0 0 0			
		Total 70 26 44				Total 62 8 54				Total 68 24 44			
3	Shatarkul Govt. Primary School 01724-140405	① 16 Feb, 2023 AM11:00				① 02 Mar, 2023 AM11:00				① 16 Mar, 2023 AM10:00			
		② 14 7 7				② 33 17 16				② 0 0 0			
		③ 21 6 15			60	③ 28 9 19			61	③ 37 24 13			64
		④ 25 9 16				④ 0 0 0				④ 27 18 9			
		Total 60 22 38				Total 61 26 35				Total 64 42 22			
4	Badda Govt. Primary School 01849-446873	① 20 Feb, 2023 AM 11:30				① 06 Mar, 2023 AM11:30				① 21 Mar, 2023 AM10:00			
		② 20 7 13				② 15 8 7				② 6 2 4			
		③ 9 2 7			69	③ 15 8 6			72	③ 7 5 2			70
		④ 40 18 22				④ 40 19 24				④ 57 27 30			
		Total 69 27 42				Total 72 35 37				Total 70 34 36			
5	Shahjadpur Govt. primary School 01733-447705	① 23 Feb, 2023 AM11:00				① 05 Mar, 2023 AM11:00				① 15 Mar, 2023 AM10:00			
		② 29 12 17				② 29 11 18				② 28 10 18			
		③ 25 9 16			64	③ 35 12 23			64	③ 29 11 18			57
		④ 10 1 9				④ 0 0 0				④ 0 0 0			
		Total 64 22 42				Total 64 23 41				Total 57 21 36			
6	Abdul Hamid Dorji Govt. Primary School 01741-197114 01533-338711	① 12 Feb, 2023 AM11:30				① 12 Mar, 2023 AM11:30				① 20 Mar, 2023 AM10:15			
		② 12 4 8				② 5 1 4				② 0 0 0			
		③ 20 6 14			65	③ 26 7 19			65	③ 21 5 16			55
		④ 33 13 20				④ 34 17 17				④ 34 19 15			
		Total 65 23 42				Total 65 25 40				Total 55 24 31			

添付資料9 本邦研修の参加者リスト

(As of July 21, 2019)

#	Name	Position	Section/Organization
1		Additional Inspector General of Police (Addl. IGP)	Administration & Operation, PHQ
2		Deputy Inspector General (DIG)	Finance & Development, HQ
3		Deputy Inspector General (DIG)	Crime Management, PHQ
4		Superintendent of Police (SP)	Mymensing District Police,
5		Deputy Commissioner (DC)	Lalbag Division Dhaka Metropolitan Police (DMP)
6		Superintendent of Police (SP)	Sylhet District Police
7	Omitted	Special Superintendent (SS)	Special Branch
8		Superintendent of Police (SP)	Cox's Bazar District Police
9		Assistant Inspector General (AIG)	Crime-East, PHQ
10		Deputy Commissioner (DC)	Traffic-South Division, Dhaka Metropolitan Police (DMP)
11		Additional Superintendent (Addl. SP)	Staff Officer to Inspector General of Police, PHQ
12		Additional Superintendent (Addl. SP)	Training-3 Division, PHQ
13		Additional Superintendent (Addl. SP)	Staff Officer to Additional Inspector General of Police, PHQ
14		Additional Superintendent (Addl. SP)	Administration Division, PHQ



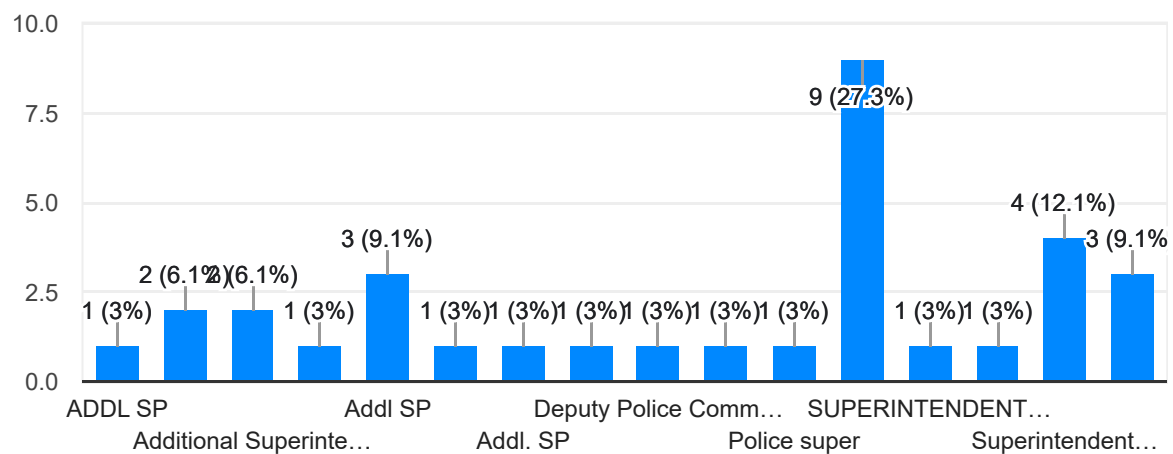
Questionnaire Survey to the Trainers

33 responses

[Publish analytics](#)

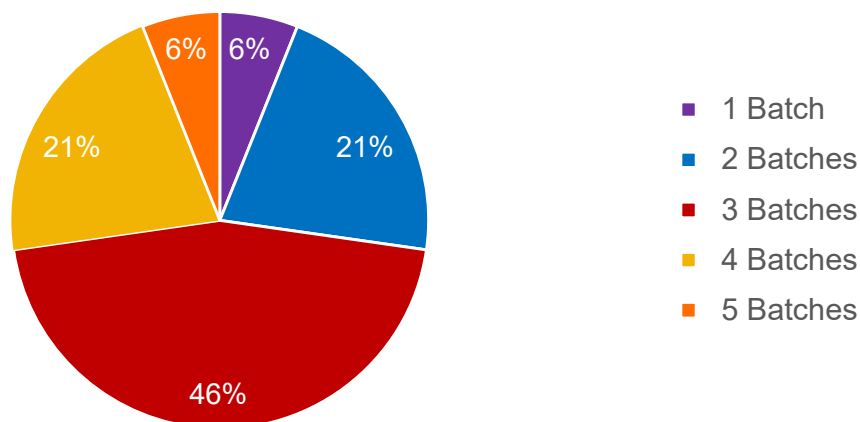
Rank

33 responses



No. of Training you served as a Trainer

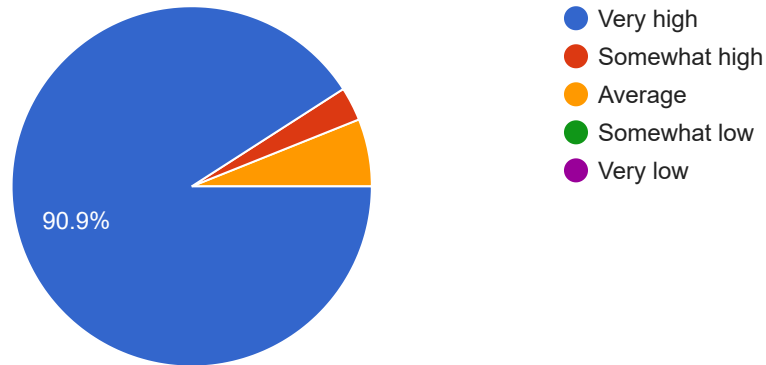
33 responses



1. General Comment/ Overall Reaction

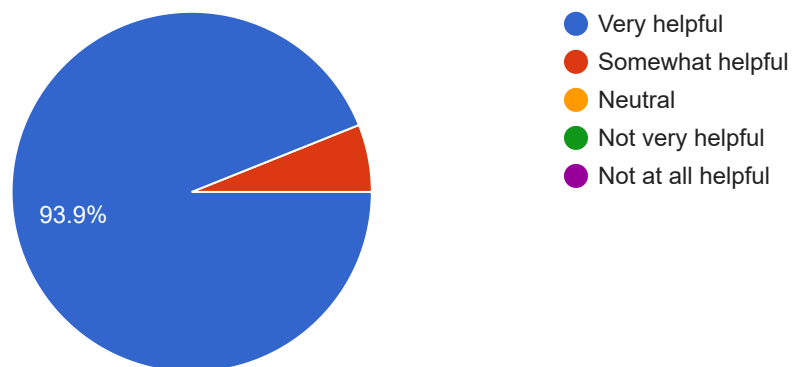
1.1. What was your impression of the trainers' attitude and motivation toward addressing their challenges?

33 responses



1.2. How much do you think the trainees' attitude towards addressing their challenges contributed to achieving the content and objectives of the training?

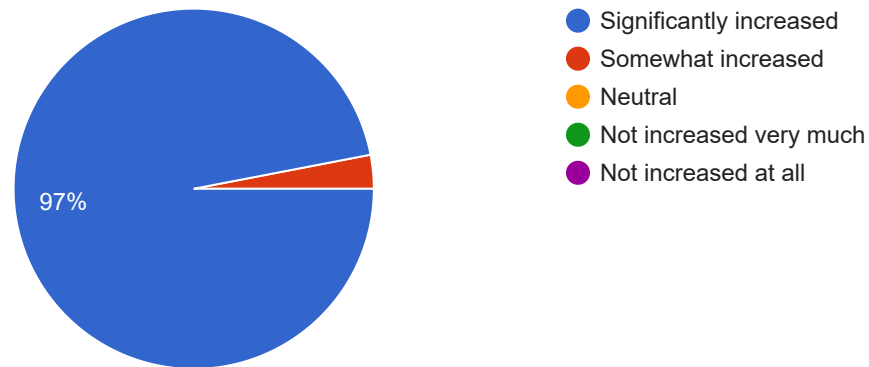
33 responses



2. Level of Learning

2.1. Do you think that SI and ASP who participated in the training gained confidence in performing security duties and acquiring the necessary knowledge and skills?

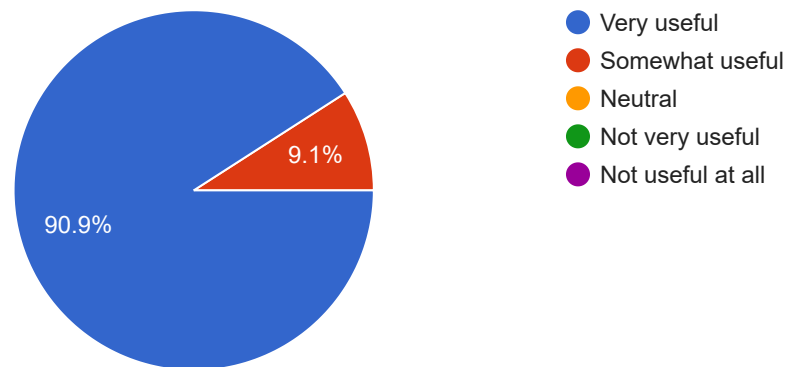
33 responses



3. Usefulness in Police in General

3.1. How much do you think the content of the SP&M training is useful for their current job?

33 responses



3.2. What are the reasons for your answer?

29 responses

- > Gives Ideas of Planning to implementation
- > Paves ways to modify or changes if required
- > Uses some standards of queue management

- 1) Before this training they (trainees) used to prepare Security Plans for any event with just common sense.
- 2) In the SP&M training they learnt some methods and formulas very useful for preparing an effective Security Plan.
- 3) With the SP&M training contents the trainees learnt some basic theories on Prevention of Crime. Now trainees know the reasons of crime and the ways to prevent them.
- 4) Through SP&M training the trainees could learn community policing approach (particularly the Koban model of Japan) for crime prevention.
- 5) SP&M training contents helped the trainees learn a crime prevention program namely Child Safety School (CSS) in Gulshan area of Dhaka.
- 6) The videos in the SP&M training program were very helpful to understand the importance of preparing an effective Security Plan.
- 7) With the leanings in this training the trainees will now use methodical approaches in preparing and executing a Security Plan.
- 8) As a whole the training uplifted the level of knowledge on policing.

As security is our main business so it should be implemented properly which has been thought here properly

The module of SP&M course is time worthy & highly practical. Though theoretical sessions are a bit boring but practical sessions are interesting. There is a competition among the groups. They left no stone unturned to prove their group the best. It opens their way of thinking & brings out the best. At the end they realise which one is the best. So in their careers they will be able to decide themselves with the best possible solution.

The training contents is rich which is relevant in real-life Policing. The way of teaching and learning is interactive and participatory for both trainers and trainees. In the arena of BD police activities, this training is so pragmatic in regarding queue management and flow line control. Security control and flow line control are integral part of a comprehensive security plan. This training covers the key component of a security plan. This training has contributed to us in all these aspects.

SP&M Training gave the participants a new thinking topic. It increases their capacity regarding queue management and VIP security. They have successfully learned the idea. However there are more factors in their practical job situation. Now the question is how they will implement or infiltrate this idea with the prevailing security management system of Bangladesh Police. Actually it depends on individual capacity.

Most of the trainees expressed that this kind of training regarding security patrolling and monitoring was never given before. This is the first time they have gained such knowledge of

security planning. Before this training, they used their own experience to handle the situation which was not perfect.

This training is expected to bring positive changes in the police so that we can perform our patrolling activities and security duties more efficiently and effectively.

I am so much confident about those issues.

I found the contents of the training is very useful, beautifully organized. Participants easily comprehended those.

The trainee are learning the content in black & white

This security plan will ensure security but reducing manpower and time. Efficiency will increase to prevent crime Through environmental design. Also 999 house will increase the community involvement.

SP&M training is very much related to the daily law and order task for Police, and this training learns an essential technique for the police member. No doubt all the trainees are benefited from this training.

job satisfaction, effective job performance

I think the SP&M training is important for police

The sessions were very Active.

I observed the interest of the participants to know about Zoning, flow line & queue management , access control, 3P/1 m2

environmental design, deployment, child Safety school programme, Crime Opportunity Theory, Routine Activities Theory etc.

So this training programme is very much relevant with police professional activities.

1. Almost everyday police has to ensure security of various political, social and international event.

2. In different area like railstation police has to manage crowd.

3. Police is doing community based Policing, the Safety School programme will help police officer to think in different way

Overall observation and monitoring

It helps to make a complete and sophisticated security plan. Besides venue security, we can apply this system at others programs like VIP duties, mass gatherings, fairs and so on.

Contents of this training will enrich them with technical knowledge and skills that are transferable and systematically applicable. In their current job /posting all of them must execute tasks that are addressed in the SP&M training and content of this training will help them to tailor new security plan for their current job.

Because this training is helpful for police personnel.

Because every day police is doing such types of various programme. From now they will do the programme with plan on field in a scientific way.

Every police personnel is responsible to give security to the community who are the participants of the SP & M.

The contents of SP&M are very relevant and time worthy. Making a foolproof security plan requires understanding both the theoretical and practical training. Participants are very active in class activities which demonstrate their eagerness to learn the updated and improved method of preparation of a security plan.

It is very practical.

Standard of service and skill should be improved with respect to time as we are going to developed country.

They will be able to make a strong security plan taking into consideration of controlling access, flow line, security map and other security measures which will prevent any kind of crime and incident.

I think the trainees have been taught with highest integrity with materials provided by JICA. But in the present context of Bangladesh Police it will be tough to implement the knowledge, idea, concept gathered by training assisted by JICA. Because these level Police personnel are not allowed to contribute their knowledge to the Senior Police Officers. Rather the Police authority extremely biased with nepotism and partial behaviours and sometimes extreme corruption with the system. And they have proved it distributing Trainers to take part in training session. But undoubtedly it's very effective training for taking the security measures if we can implement in the practical field.

Thanks with kind Regards for selecting me as Trainee as well as Trainer.

Thanks all the team Members of JICA.

At the same time I wish to work with you in future if you give me the opportunity.

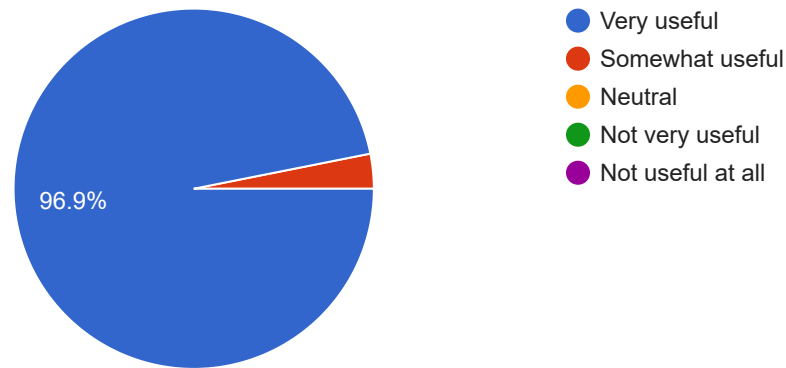
Best wishes for all JICA Team Members and Japan People as well as Japan Government for your cooperation.

We do but not such an organized way

4. Usefulness for Special ed Services in Security Areas

4.1. Do you think that the content of the SP&M training is useful as a training program for officers working in the security field?

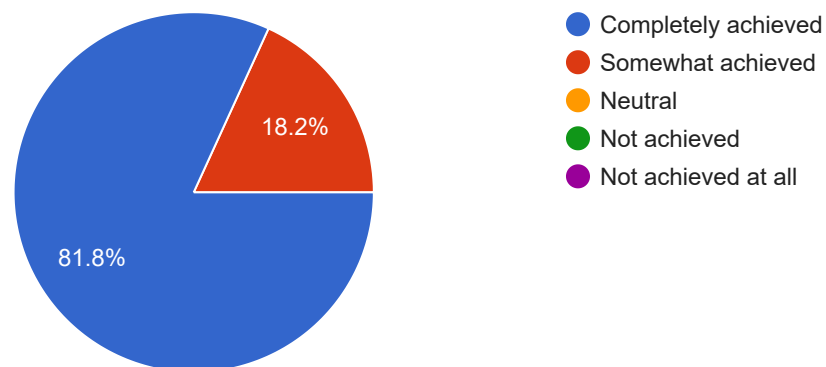
32 responses



5. Training in General

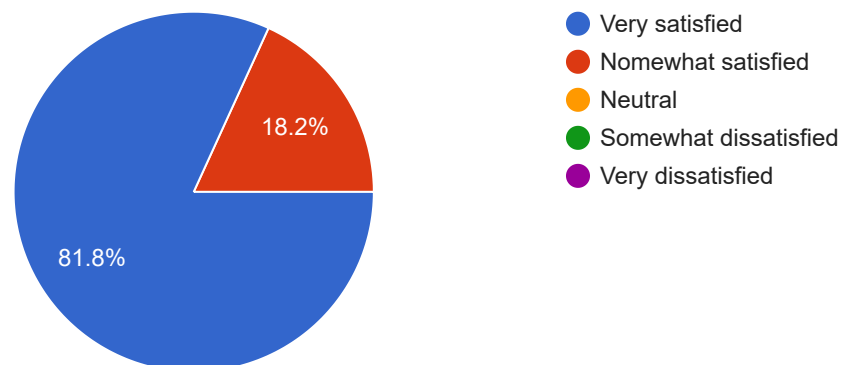
5.1. How much do you think the objective of conducting the SP&M training was achieved through your involvement as a trainer?

33 responses



5.2. How satisfied are you with the content and structure of the SP&M training, based on your involvement as a trainer?

33 responses



5.3. What are the reasons for your answer?

32 responses

For 5 days training programme, SP & P accommodate many issues with practical learning.

- 1) The module of the SP&M training is wel written.
- 2) Each chapters are systematically organised.
- 3) Everything in the module has been taught step by step.
- 4) Practical classes like building Teams and involving the team members in preparing security plan was very attractive for the trainees. They enjoyed the Team Works.
- 5) Diorama (3D presentation) was another very interesting part of the SP&M training.
- 6) Presentation of each team works before the class was very useful.
7. Instead of one (1) trainer, this training involved two (2) trainers for one batch. It was very helpful to remove boredom in the class.

Their spontaneous participation as well as the observation of our prudent JICA team

In TOT we learned from JICA experts. Then we prepared the module according to our style and our socio-economic conditions. Then as a trainer we transmit our knowledge to the trainees. I think we have done it successfully.

This training focuses on the basic of a comprehensive security plan.

Time Demanding course in Bangladesh's perspective

The concept and content of this particular training is very simple. The logistics are more than enough to deliver the knowledge to the participants. So I am fully satisfied as a trainer.

Video content was not up to the mark.

I think this content and training structure was fruitful for trainees

I am giving answers from my experience

I found spontaneous participation of participants in those training program positively.

It was an extraordinary experience to be part of this highly interesting and useful course

We help the trainee to learn one thing in different ways. For this reason, contents are learnt by memory to the trainees.

Some sentences are not suitable Bengali in meaning. These are to be modified. All Though contents are very useful.

The way of giving the training and the training materials and also the techniques- all are unique, and that is why I'm satisfied.

I clearly delivered speeches and explained sp @ m in my lecture and got feedback.

Need more information

I'm satisfied with the content, But Video is little bit long & new video may be made to make the session more effective.

The Title and content is not on the line,

Both trrainers and trainees are. highly satisfied.

Smart contents and management

- * Concrete sense of security
- * Because of person-wise duties and responsibilities, security measures will be strengthened.
- * Integration of this idea with our existing command certificate (CC)

Previously I knew this type of contents but those were not systematically developed. I think the contents and structure of this training successfully connected all the dots of crime prevention approaches.

Learning new thing, new idea and new experience.

Because all police members in plan and operation has not been involved yet.

The instruments that supply in the training are appropriate for the in-service trainees.

The contents are a blend of theory and practice.

It was a modern approach and participatory.

All training materials are good but there is something to be improved.

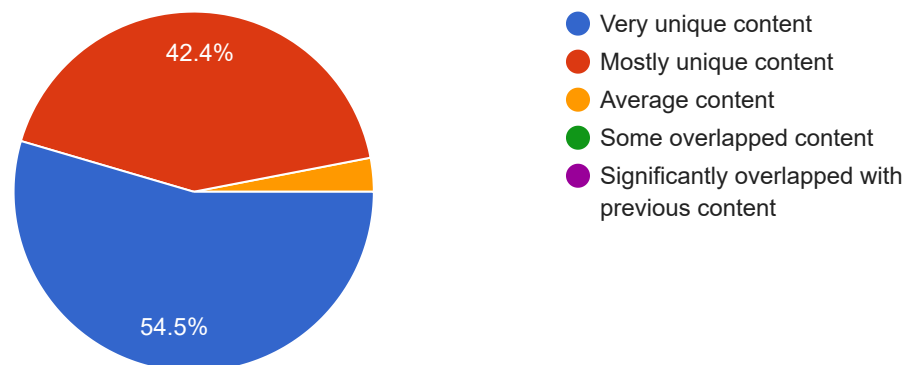
Now police officers who received the training are able to make excellent security plan for any kind of national and international conference, meeting etc.

Because I face the crude reality what I have received from Bangladesh Police.

We can effectively use in our workplace

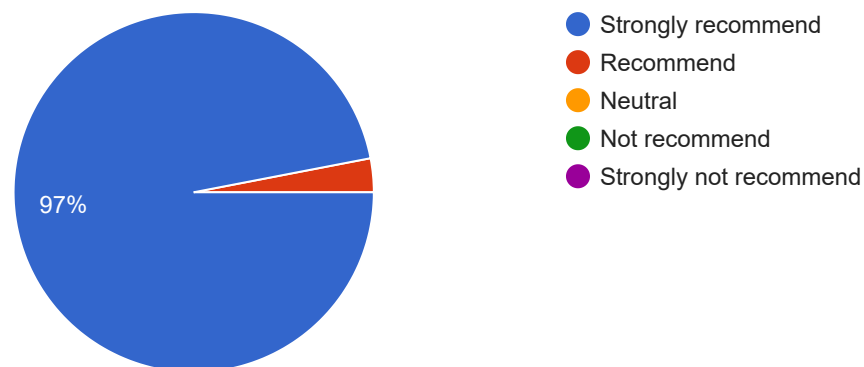
5.4. How would you evaluate the SP&M training in comparison to the various in-service police officer training currently being implemented by the police, in terms of having uniqueness in the content?

33 responses



5.5. Would you recommend your current subordinates to take this training?

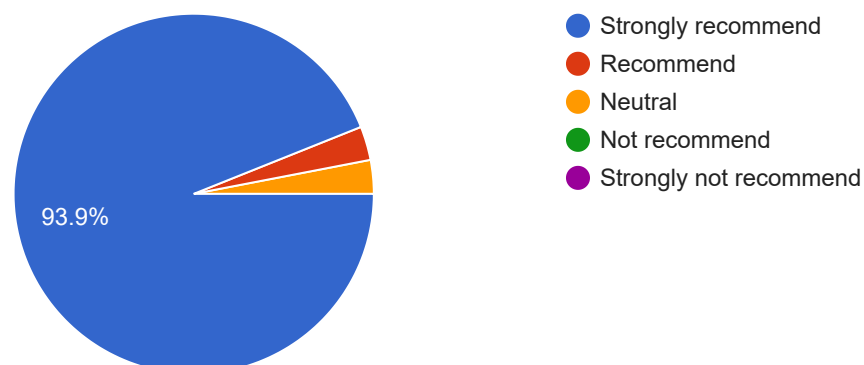
33 responses



6. Prospect for Continuing the Training

6.1. Would you recommend to the police headquarters to continue implementing this SP&M training in the next fiscal year?

33 responses

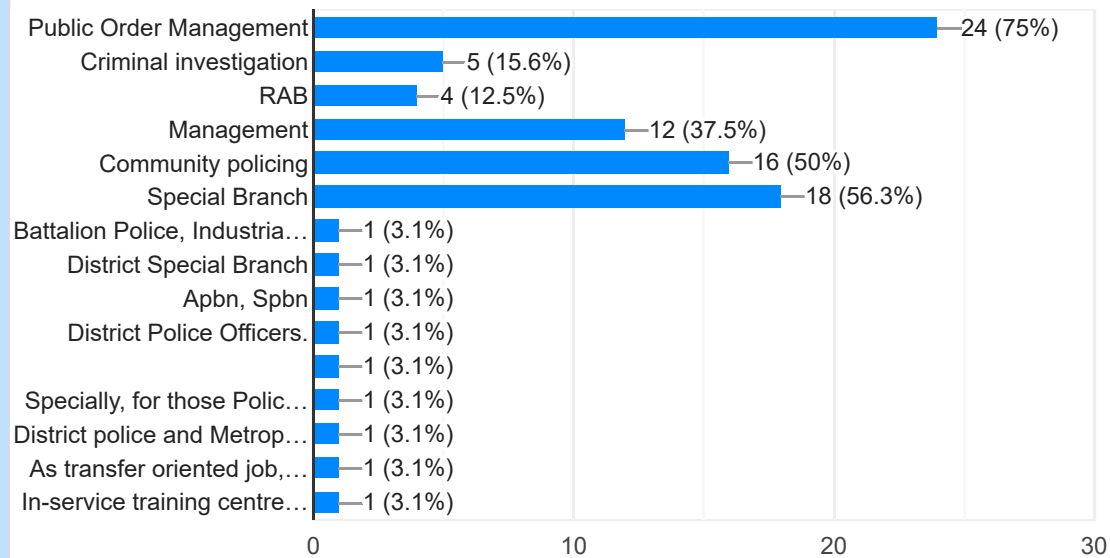


For those who answered "Recommend":

6.2.(1) Which field of police officers do you think would be suitable to target for this in-service training?

 Copy

32 responses



6.2.(2) What kind of support will “you” as a trainer need from the police headquarters or your post (superiors) to get involved with the continuation of the development and the delivery of the TOT and Training of the SP&M?

31 responses

Nothing more needed.

- 1) Firstly I need to be selected as a trainer for the upcoming days.
- 2) Local Authority (my current unit) should not hesitate to release me from my current job to participate as a trainer.

Training materials & Budget

In 2022-23 fiscal year only 2500 persons will be able to get SP&M training. Police headquarters should take initiative to increase the numbers of trainees. So it will spread in all units of Bangladesh Police.

Providing opportunity for the trainers and trainees to take part in this session.
Circulate orders to other subordinate units to compell them in taking part in this training.

Should be supportive and cooperative

Up to now the support from PHQ and my Post was satisfactory. However the quality of the venue of DTS is not up to the mark (due to their new building conversion process). PHQ may shift the venue to other suitable training centre in Dhaka.

Need Official Permission.

I will give full cooperation as directed by Police Headquarters

Showing positive attitudes are very important support that needed.

Police Headquarters is very supportive about this program. But I think JICA can develop and groom a group of trainer's by bringing them to Japan for observing the actual situation prevailing in that country. This interaction will enhance their capabilities as well as motivate to contribute lot more.

Honestly speaking, I get proper support from police headquarters. PHQ can make an arrangement with JICA to start a training in Japan.

Required budget and approval.

Management and training materials

scope of attending the training programs

Logistics

By PHQ, on behalf of honourable IGP Sir, new circular may be circulated to all units of Bangladesh Police to follow some basic principles such as - Flow Line, Queue management, 1.0 pp/ Sqm, Detour Method, using gate metal detector for Access control: 10 Second /Person, for making an Effective Security Plan.
And for Community Policing using CSS method.

Just need an official order

The controlling authority of the trainers to be convinced that the trainers are called in without their own persuasion. Symmetrical opportunity of the trainers for taking classes must be confirmed

Financial

- * Ensuring this training for all police personnel
- * Senior officers will suppose to experience from Japan
- * To continue this course for reasonable duration.

Police Headquarters may convene meetings with the trainers frequently. It can pursue the current trainers to continually improve the contents. A pool of trainers can be built to develop the CSS concept and material related with it.

Near posting place.

All supports are already given.

To have general instruction to follow strictly the programme plan with deployment in all programme.

All sorts of facilities that needed in a training course.

Arranging refresher course for the trainers.

I am enthusiastic and willing to support to make it fruitful.

Good condition of classroom & transport facility.

My name can be suggested as completed TOT of SP&M and conducted two courses successfully.

Sufficient budget, General circulation

6.2.(3) What kind of institutional and financial support to continue the TOT and SP&M training regularly?

31 responses

PHQ can decide and propose for funding.

All necessary financial and institutional supports should be granted to continue the training. Here accomodation, food and transport facilities are the basic requirements.

PHQ should realize it regarding this issues

In the advisory level it should be minimum Superintendent of Police. The quality of documentary prepared for trainees should be improved & up to the mark. Financial support also to be increased.

Logistical support, especially accommodative support.

Present Condition is better

The current financial and logistic support from JICA is quite satisfactory. However the institutional supports e.g. suitable venue, quality food etc. should be ensured by the Police Headquarters.

Question is not clear !

Institutional financial aid should be run as it is now

Regular pattern institutional and financial supports are required.

Adequate funding is necessary to make the program successful.

We get enough institutional & financial support.

Daily allowance, transport cost and training allowance both for Trainees and trainers.

Logistic supports

well decorated institutions and adequate financial support

Finance and logistics

The present training centres, training materials & financial support.. Is Okay, It may be continued.

A good Training facilities, a good budget for papers, pencils fooding and accommodation of the trainees and trainers

Existing support is enough.

Making it a in house program and ptc/ bpa/ in service traing centre may be used as venue

- * Provide training at district level.
- * Practical execution of this training at field levels.
- * Financial support should be increased.

Trainers' motivation depends on the financial gain as well as career progression. JICA may offer some training programs on the CSS and crime prevention approaches currently prevailing at Japan so that trainers' can improve their cognitive abilities and gain from brainstorming and discussions with the experts within the field of knowledge.

Need more financial support.

Financial support as well as logistics

Support from phq and moha to continue the training.

As you provided.

Invest more on training and capacity-building of training centres to provide training more effectively and efficiently.

JICA and PHQ can coordinate to continue the project for more 2/3 years.

Have opportunity to get higher training related topic in Japan and satisfactory honorarium

Training can be continued at different police training centers and Inservice Training Centers across the country.

Infrastructure logistics and budget

For those who answered, "Do not recommend":

6.3. What is the reason for not recommending?

0 responses

No responses yet for this question.

7. Final Comment

7.1. Drawing from your experience as a trainer in this training course and your interactions with the trainees, please provide any advice or suggestions for improving this training and any future initiatives.

32 responses

Need to cover more officer and to incorporate in basic training programme.

1) The duration of the course was only 5 days. From my experience this time is a bit short. Adding another day would be more comfortable.

2) A field level demonstration for learning Queue Management Methods was felt from both trainees and trainers.

It's excellent just should try to make our personnel to think about

Advisor should be minimum Superintendent of Police. Preparation of course module is very important. The documentary is to be well furnished.

More examples from BD perspective, can be included in training session. For example - Pahela Boishakhi Celebration, National days celebration, Religious gathering, Trade fair, Local Fair, Relief distributions and so on.

Every thing is ok

Few terminologies were suggested to correct. In the next phases the corrected contents should be provided.

There should be more emphasis on Community Policing and CSS. Additional 2-3 working days can be included for that. Incorporation of new concepts and ideas of Community Policing as well as CSS can lead the project in perfection.

Trainees selection is very important. JICA can advice regarding types of trainees selection by PHQ mentioning some criteria like age, job length, posting place etc.

SP & M training content should be improved.

1. In some training institutes PT was arranged in the morning due to which the trainees were sleepy in class.

2. The video content of the fifth day needs to be improved so that the trainees' full attention is captured through engaging videos in a short period of time.

Concern authority should ensure participation of nominated participant.

The course material could be a bit more lucid, and some of the given situation can be given according to the situation of Bangladesh.

I think all are ok.

Update the modules as fit as good for Bengali language.

Training materials are unique in my opinion, just one thing I want to propose, i.e; use of firearms along with police forces may be include in this training.

duty with highly professional way and secured public life and wealth.
always look for public interest and happiness

I think some young trainers are not properly addressing the issue of the training. Many trainers have no experience to train. It's a great limitations

(1) ASP to upwards all Police officers of BD police may be participate in this SP& M training batch by batch.

If All Inspectors(unarmed branch) are included it will be more effective.

(2) Koban system is hood.

Also " Panchayet System " of Bangladesh should be mentioned in the content to make it more understable to the Participants.

Review the content (already done)

One of the session may be provided as field session for each batch.

Outstanding

* Course outline books should be clearly understandable

* Practical aspects at field levels

* CSS should be implemented at school level.

The best participants must be rewarded in every batch in order to keep the trainees motivated.

Need field experience.

All sp,s and dc,c those responsible for preparing programme should bring under the training. And there some practical programme to be prepared by the trainees going in field unit. That programme and plan will be followed by that unit and after the programme aftermath will be evaluated.

I'll request, just carry on as per your program.

This initiative may be continued to further strengthen the capacity of Bangladesh police. The training modules can also be modified further.

It should not finish shortly.

More specific related videos, awards for trainees & practical exercises are needed for fruitful training.

Practical class can be arranged out the class room

We need to change the attitude towards the junior officers and Police Headquarters' Policy makers come out from nepotism, biased behavior and corruption. Otherwise nothing will be effective.

That was all enough.

7.2. The SP&M training supported by JICA will be completed in May 2023. If you have any proposals or advice for the Bangladesh Police to continue implementing this training for more police officers in the future, please let us know.

32 responses

Recommended to continue.

The training focuses on practical police works. Police officers whoever get this training are benefited. They can now contribute more in the field. So, for a more skilled and knowledgeable police members Bangladesh Police authority should continue this training untill more 5000 police officers receive this training.

It must be & I recommend & request JICA to take much more training programs for Bangladesh police as Japan is our real friend & Japan wants our department.

As Covid 19 took 2-3 years from us that's why this project should be extended. So that Bangladesh Police can increase their expertise to combat with the crime.

Of course, this training is to be continued for enhancing capacities of BD Police. New way of thinking has been opened in drafting a security plan. Besides this type of training, JICA can provide in cyber related training. To enhance the capacity of BD police, JICA can contribute a lot by continuing this type of training.

Please continue this course for build up better Bangladesh

The Project aims to train 2500 Police members which is only 1% of the total number of Bangladesh Police. So the Project must continue (or new project can be taken) to train at least 25% of the total police member. Since the Trainers have already been prepared, the next phases of the project may only include to train the member who will implement the idea in their practical job situation.

JICA can continue the training if possible. To continue the training, JICA can make a fixed list of trainers who will engage through out the training program.

Trainees increase from 2500 to 10000 or more. This training was fruitful for security purposes so training will be continuing.

This training is required for every member of Bangladesh Police to perform security duties with full professionalism.

As a trainer I am strongly recommending for continuation of this training program for more Police officers in future.

If the program continues, Bangladesh Police will be more able to make efficient personnels.

Yes, I strongly support to continue the training.

Project should continue for the second time.
Due to covid-19 the project didn't get much time, so it should be enlarged.

I strongly recommend to continue this training for another fiscal year for some more field level police personnel. In my opinion, the training content is so much useful for public order management, that it should be disseminated to maximum number of police personnel.

PHQ should take arrangements to continue this training program with the help of JICA or their self financial strength.

In-service Training Centre can continue this...

Please, try to continue the training programme up to ensure the participation of ASP to upward all BD police personnel.

Yes, this training must be continued and learning of this training must be implemented by Bangladesh police

It should be continued until all the members of BD police are trained up.

Plz ask phq to continue

Yes, let it be continued due to better understanding on security patrolling at every sphere concerned of Bangladesh police.

It can be incorporated in basic training program of SI and ASP Probationers. Further every in-service training center may conduct same training at their places.

To continue implementing this training for more police officers in the future.

This training course should be continued among the significant numbers of officers.

Definitely to make it a fruitful one there need more participation of police members in this training.

I think, every police personnel should be well known regarding SP & M.

The more police officers are provided with the training the more positive changes will be there regarding security patrolling.

Top to bottom approach will make the goal more fruitful.

Of course, this training should be continuing until all police members from SI to Addl.SPs received the training.

Each and every Sub Inspector and above police officers can be trained up under this project.

The JICA authority should consider the next phase and before that you must convinced the Bangladesh Police Headquarters as they don't involve with corruption for personal gain.

This content is neither created nor endorsed by Google. [Report Abuse](#) - [Terms of Service](#) - [Privacy Policy](#).

Google Forms



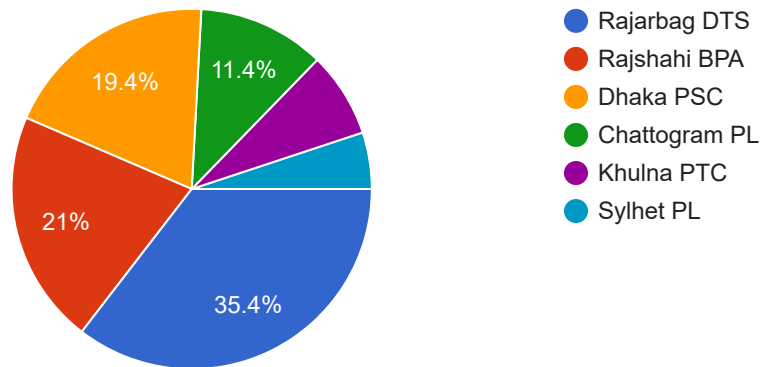
SP&M Post Training Survey

2,460 responses

[Publish analytics](#)

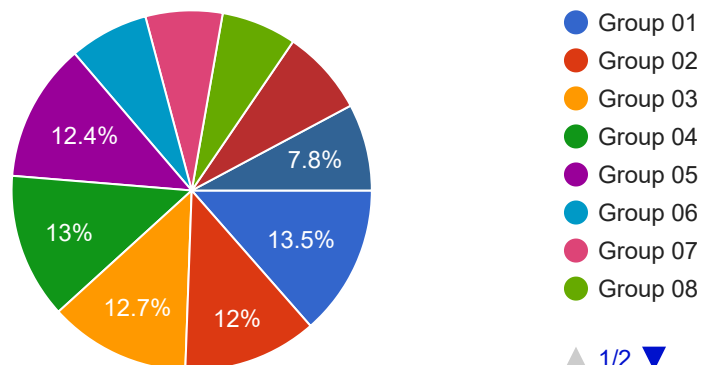
Select Training Venue:

2,460 responses



Select your Group:

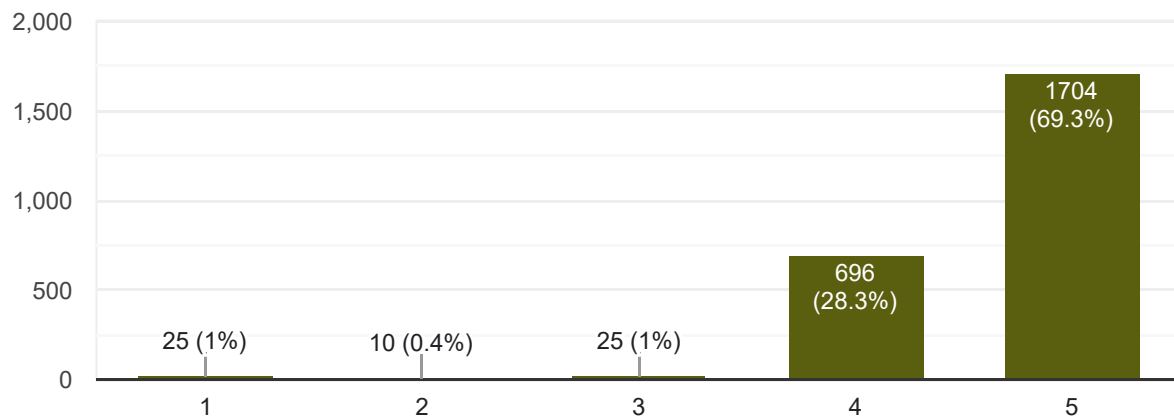
2,460 responses



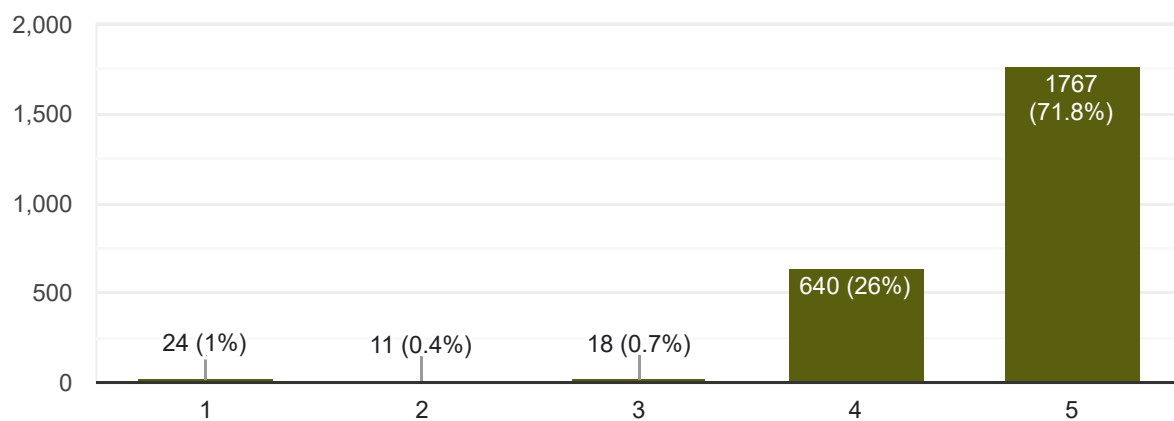
▲ 1/2 ▼

Feedback on the SP&M Training Program (as a whole):**1. Overall, the training met my expectations.**

2,460 responses

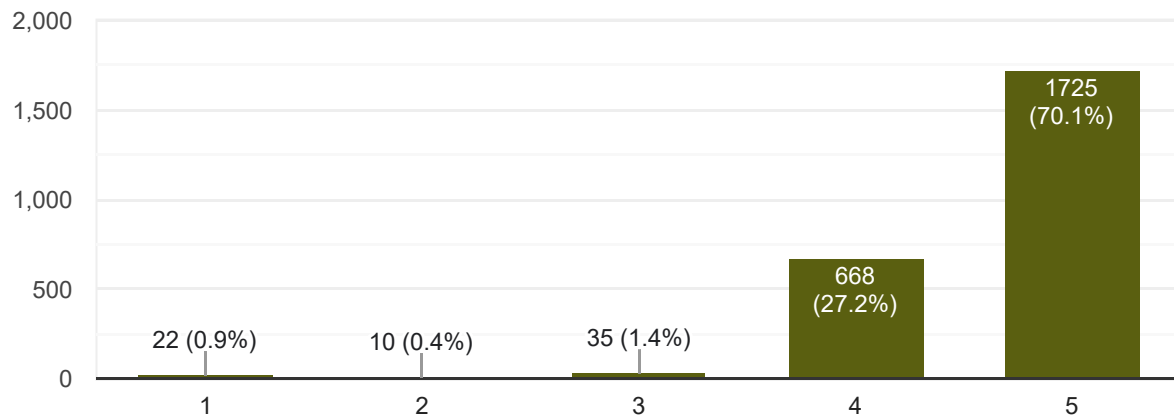
**2. The training provided useful activities and opportunities for discussion.**

2,460 responses



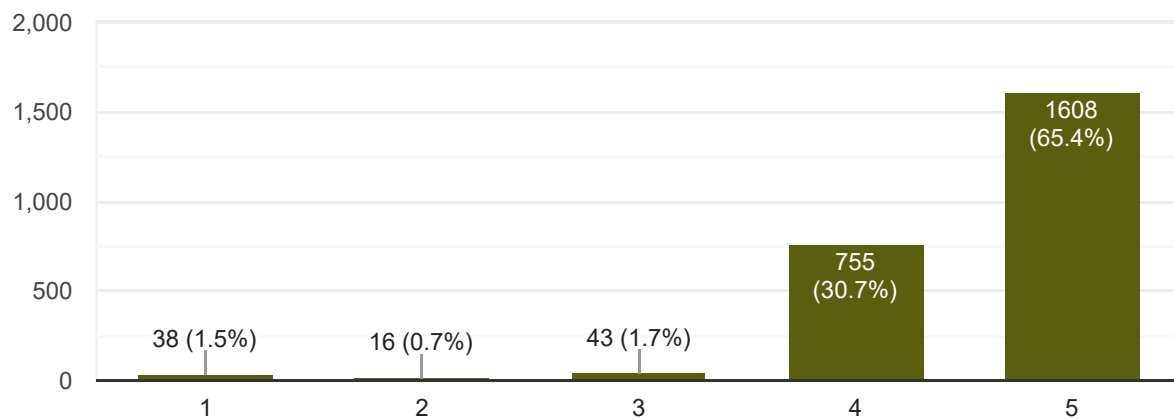
3. I am confident to apply what I learned in my role when assigned to similar posts.

2,460 responses



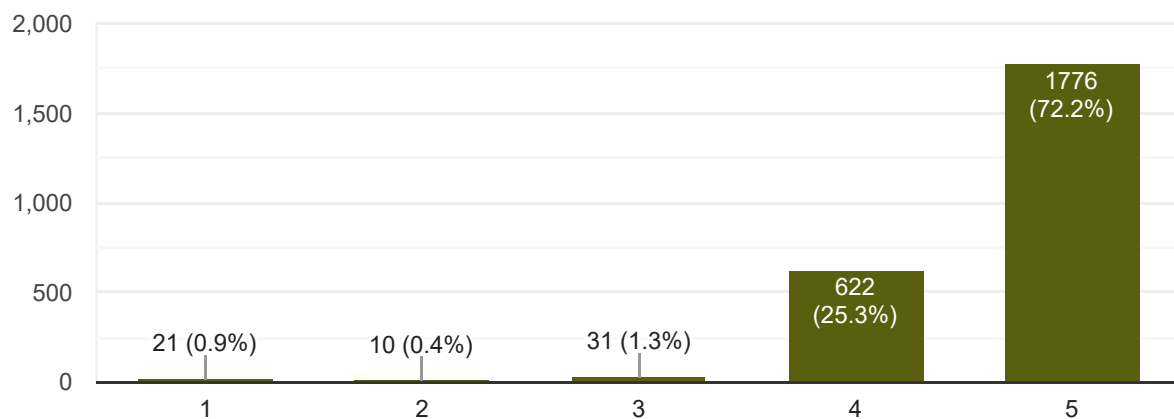
4. Overall, the training was a worthwhile use of my time.

2,460 responses



5. Participating in the SP&M training helped me to understand that good partnerships and collaboration with local communities will improve the overall safety and security level of the KPI and its surroundings.

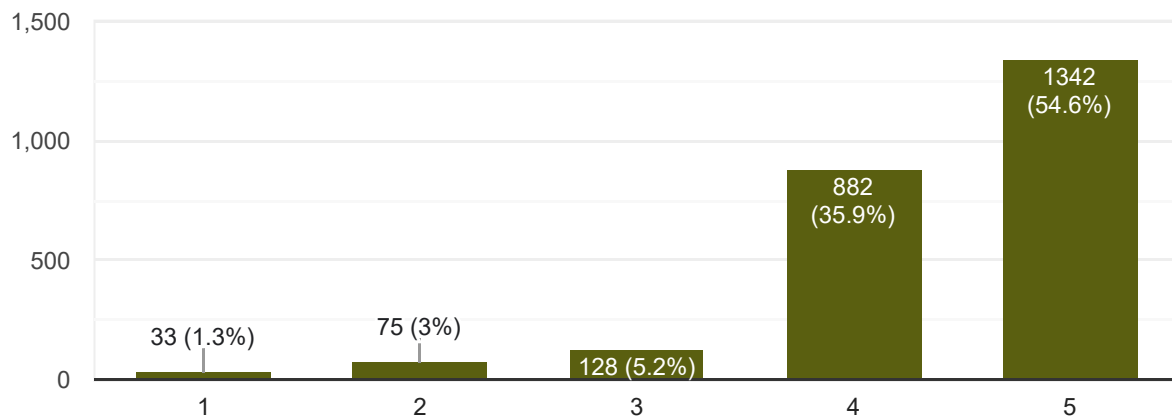
2,460 responses



Feedback on the logistics of the SP&M Training:

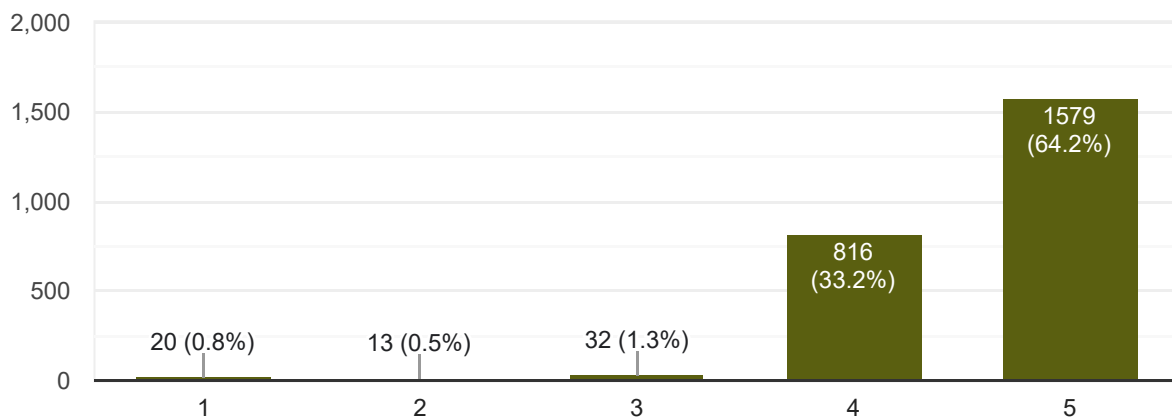
1. The food and accommodation were adequate for the training.

2,460 responses



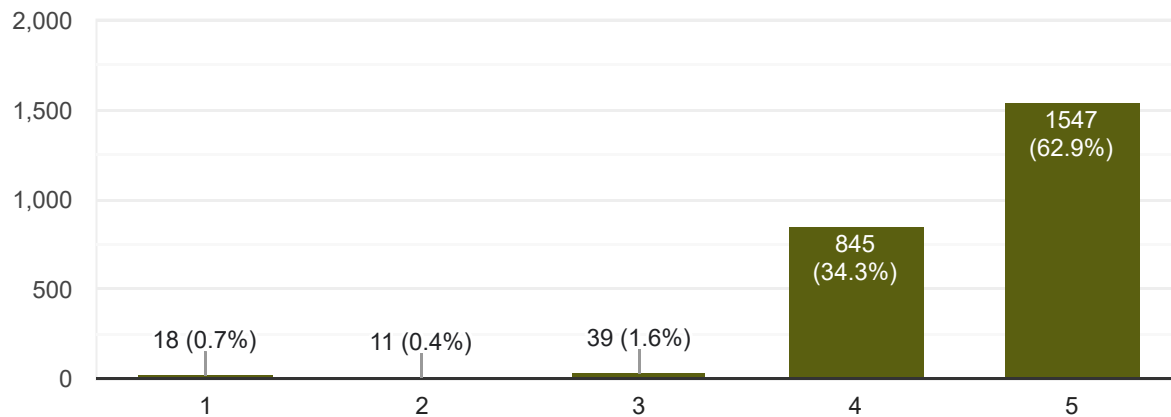
2. The orientation given before and during the training was easily understood.

2,460 responses



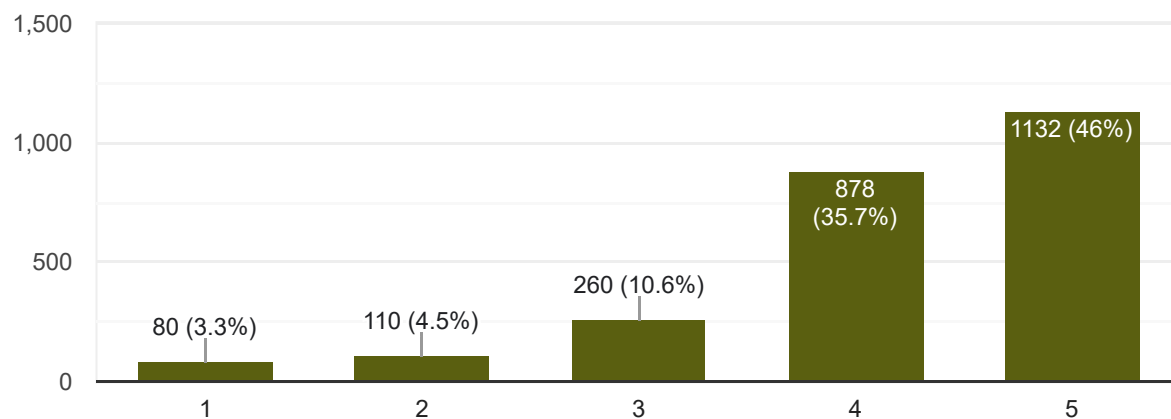
3. Communications and instructions from the organizers/ headquarters were clear.

2,460 responses



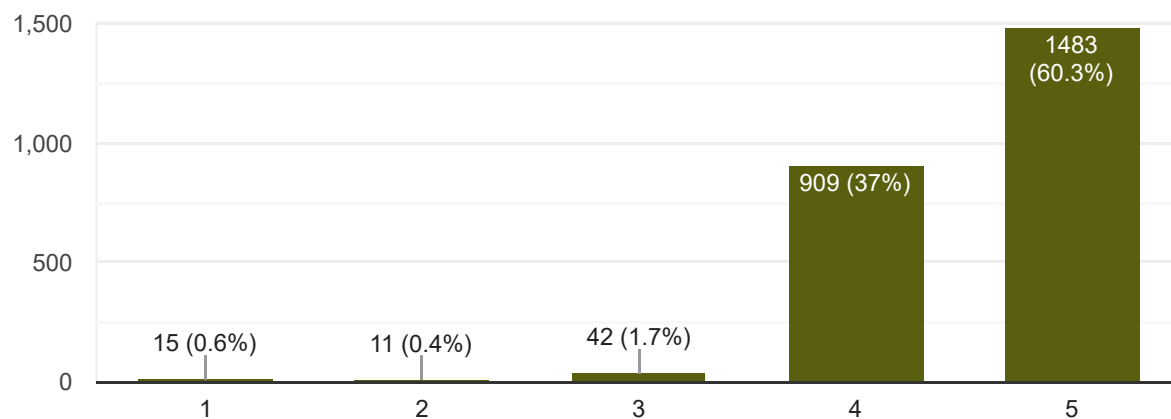
4. Transportation and travel arrangement to and from the training venue was adequate.

2,460 responses



5. Explanation and requirements on the roles and responsibilities after the SP&M Training were adequate.

2,460 responses



List of Equipment

The Project for Strengthening Crime Prevention Capacity of Bangladesh Police

Name of Property	Standard, Part Number	Quantity	Transferred to
Diorama	D-1	1	Bangladesh Police Academy
	D-2	1	Bangladesh Police Academy
	D-3	1	Detective Training School (DTS), Dhaka
	D-4	1	Detective Training School (DTS), Dhaka
	D-5	1	Police Staff Colledge (PSC), Dhaka
	D-6	1	Police Staff Colledge (PSC), Dhaka
	D-7	1	Police Staff Colledge (PSC), Dhaka
	D-8	1	Police Staff Colledge (PSC), Dhaka
Speakers	JBL-1 Model:JBL Party Box On the Go	1	Police Staff Colledge (PSC), Dhaka
	JBL-2 Model:JBL Party Box On the Go	1	Police Staff Colledge (PSC), Dhaka
	JBL-3 Model:JBL Party Box On the Go	1	Police Staff Colledge (PSC), Dhaka
	SL-12-01 Trolly Speaker	2	Police Staff Colledge (PSC), Dhaka
Laptop computers	Model: Dell-VOSTRO	1	Police Staff Colledge (PSC), Dhaka
	Lenovo ThinkPad	2	Police Staff Colledge (PSC), Dhaka
	Panasonic CF-SZ6	3	Police Staff Colledge (PSC), Dhaka
Small Printer	Model: CANON LBP 151	1	Police Staff Colledge (PSC), Dhaka
Multifunctional Printer/Scanner	Model: KONICA MINOLTA C-287	1	Police Staff Colledge (PSC), Dhaka